宮古市埋蔵文化財調査報告書62

下在家Ⅰ遺跡

― 平成14年度発掘調査報告書 ―

2003.3

岩手県宮古市教育委員会

宮古市埋蔵文化財調査報告書62

下在家Ⅰ遺跡

― 平成14年度発掘調査報告書 ―

2003.3

岩手県宮古市教育委員会

序　文

崎山地区は、国の史跡に指定された「崎山貝塚」に代表されるように、宮古市のなかでも遺跡の豊富なところです。これまでの調査で確認されたのは大半が縄文時代の遺跡でしたが、今回の調査では、近世の集落跡が発見されました。近世の遺跡としては、これまで鋳物工場の跡地や墓坑跡などが調査されてきましたが、今回のようなやや規模の大きな集落跡は初めての例です。縄文時代に比べればつい昨日のような近世ですが、それだからといって分かり易いというわけではなく、今回の調査でも集落の発見にともない新たな謎が提示されております。

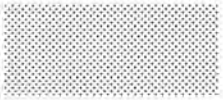
最後になりましたが、今回の調査にあたり野外での発掘あるいは室内での資料整理に協力いただいた関係者、各位に感謝申し上げるとともにこれらの成果が広く活用されることを願って序文とします。

平成１５年３月

宮古市教育委員会
教育長　中屋定基

例　言

1．本書は、㈱マルイ舗装の宅地造成に伴って行った宮古市崎山地区の「下在家Ⅰ遺跡」の発掘調査報告書である。
2．調査の主体は宮古市教育委員会である。発掘調査は阿部、長谷川が担当し、本書の編集、執筆は阿部が担当した。また動物遺存体の同定、本文の執筆は高橋が担当した。
3．調査座標は任意のものである。高さは標高値をそのまま使用した。
4．遺構の表現について


焼土

5．土層観察に際しては、「新版標準土色帖」（1995版日本色彩研究所）を参考とした。
6．出土した遺物、実測図、写真など調査に関る資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。
7．動物遺存体の同定に際しては熊谷賢氏（陸前高田市立博物館学芸員）からご協力頂きました。記して感謝申し上げます。

目次

例言

目次

1．調査経過 …… 1
　1－1　調査に至る経過 …… 1
　1－2　調査要旨 …… 1
　1－3　調査体制 …… 1
2．遺跡の立地と環境 …… 2
　2－1　宮古市の立地 …… 2
　2－2　遺跡の立地と環境 …… 2
3．調査の結果 …… 6
　3－1　基本層序 …… 6
　3－2　検出された遺構と遺物 …… 6
　　a．７号、８号掘立柱住居跡 …… 6
　　b．焼土遺構 …… 16
　　c．出土遺物 …… 20
　　d．１号、４号掘立柱建物跡 …… 24
　　e．焼土遺構 …… 33
　　f．２８号炉跡 …… 41
　　g．出土遺物 …… 44
　　h．２５号掘立柱建物跡 …… 52
　　i．出土遺物 …… 58
　　j．Ｂ区、Ｊ区出土遺物 …… 58
　　k．焼土遺構動物遺存体集計表 …… 60
4．調査のまとめ …… 61
　報告書抄録

図版目次

第１図　位置図 …… 3
第２図　地形分類図 …… 4
第３図　周辺の地形 …… 5
第４図　遺構の配置 …… 7
第５図　調査区土層断面（１）…… 9
第６図　調査区土層断面（２）…… 10
第７図　８号ａ掘立柱建物跡、８号ｂ柱列跡、７号竪穴状遺構 …… 11
第８図　８号建物跡、７号竪穴状遺構土層断面 …… 12
第９図　柱穴土層断面（１）…… 13
第１０図　柱穴土層断面（２）…… 14
第１１図　柱穴土層断面（３）…… 15
第１２図　焼土１号～４号 …… 17
第１３図　焼土５号～８号 …… 18
第１４図　焼土９号～１１号 …… 19
第１５図　出土遺物（１）…… 21
第１６図　出土遺物（２）…… 22
第１７図　出土遺物（３）…… 23
第１８図　１号、４号掘立柱建物跡、焼土遺構、２８号炉跡 …… 25
第１９図　１号、４号建物跡土層断面 …… 27
第２０図　１号、４号建物跡柱穴土層断面（１）…… 28
第２１図　１号、４号建物跡柱穴土層断面（２）…… 29
第２２図　１号、４号建物跡柱穴土層断面（３）…… 30
第２３図　１号、４号建物跡柱穴土層断面（４）…… 31
第２４図　１号、４号建物跡柱穴土層断面（５）…… 32
第２５図　焼土遺構（１）…… 36
第２６図　焼土遺構（２）…… 37
第２７図　焼土遺構（３）…… 38
第２８図　焼土遺構（４）…… 39
第２９図　焼土遺構（５）…… 40
第３０図　２８号炉跡（１）…… 42
第３１図　２８号炉跡（２）…… 43
第３２図　１号、４号建物跡出土遺物（１）…… 45
第３３図　１号、４号建物跡出土遺物（２）…… 46
第３４図　１号、４号建物跡出土遺物（３）…… 47
第３５図　１号、４号建物跡出土遺物（４）…… 48
第３６図　１号、４号建物跡出土遺物（５）…… 49
第３７図　１号、４号建物跡出土遺物（６）…… 50
第３８図　１号、４号建物跡出土遺物（７）…… 51
第３９図　２５号掘立柱建物跡 …… 53
第４０図　２５号建物跡柱穴土層断面（１）…… 54
第４１図　２５号建物跡柱穴土層断面（２）…… 55
第４２図　２５号建物跡柱穴土層断面（３）…… 56
第４３図　２５号建物跡出土遺物（１）…… 57
第４４図　２５号建物跡出土遺物（２）…… 58
第４５図　Ｂ区出土遺物 …… 59

写真図版目次

写真図版１　調査区全景、建物跡出土状況 …… 65
写真図版２　８号建物跡出土状況、７号竪穴状遺構、柱穴、土坑 … 66
写真図版３　８号建物跡完掘状況、焼土遺構 …… 67
写真図版４　１号建物跡、柱穴 …… 68
写真図版５　焼土遺構検出状況 …… 69
写真図版６　４号ａ建物跡、焼土遺構、柱穴跡 …… 70
写真図版７　４号建物跡、畝跡、５号土坑跡 …… 71
写真図版８　２５号建物跡、柱穴跡 …… 72
写真図版９　２８号炉跡 …… 73
写真図版１０　出土遺物（１）…… 74
写真図版１１　出土遺物（２）…… 75
写真図版１２　出土遺物（３）…… 76
写真図版１３　出土遺物（４）…… 77
写真図版１４　出土遺物（５）…… 78
写真図版１５　出土遺物（６）…… 79

付表目次

第１表　焼土遺構貝類動物遺存体集計表 …… 60

１．　調査経過

１－１　調査に至る経過

下在家Ｉ遺跡内に宅地造成を計画していた（株）マルイ舗装から平成１１年３月に照会文書が提出された。教育委員会で現地踏査を行い、現地は畑地として利用された傾斜地で、原状が残されていることが確認し、試掘調査が必要になる旨を回答した。その後試掘調査の日程等について協議を行い、試掘調査を平成１３年度に行うことで合意し、試掘調査は平成１３年９月に実施した。試掘調査の結果遺構の存在を確認したので、本調査が必要であることを報告した。その後の協議で本調査を実施することが決まり、本調査は平成１４年５月から実施された。調査は前年の試掘調査で遺構が確認された区域から行い、８月から今年新たに調査区に加えられた「Ｊ区」（第４図参照）の調査を行った。Ｊ区で多数の遺構が確認され、調査期間の延長、調査費用の増額などが見込まれたので、委託者との協議を行った。その結果、Ｊ区とＢ区の精査は行わず未調査区として残し、埋め戻すこと、その他の区域の調査を完了させ、報告書を刊行することで合意した。調査は平成１４年１０月初旬に終了し、１１月下旬には未調査区の埋め戻しを完了し、野外調査を終えた。

１－２　調査要旨

遺跡名　　下在家Ｉ遺跡　（遺跡コード　LG24－0018）
調査地点　　宮古市大字崎鍬ヶ崎第１１地割字下在家３５番２、３５番６、３５番７
調査面積　　３、０７２㎡
調査期間　　試掘調査　平成１３年９月１８日～平成１３年１１月１２日
　　本調査　　平成１４年５月２日～平成１４年１１月２８日
検出遺構、遺物　　近世　掘立柱建物跡、　７、焼土遺構　36
　　陶磁器、鉄製品
　　縄文時代　　土坑跡　１、縄文土器、石器

１－３　調査体制

調査主体　宮古市教育委員会　教育長　中屋　定基
調査総括　伊藤　賢一　　宮古市教育委員会社会教育課課長
事務担当　小本　　完　　〃　　社会教育課補佐
　　箱石　憲市　　〃　　社会教育課係長
調査員　　竹下　將男　　宮古市教育委員会社会教育課主任文化財調査員
　　高橋憲太郎　　〃　　社会教育課主任文化財調査員

鎌田　祐二	〃	社会教育課主任文化財調査員
加納　由美	〃	社会教育課文化財調査員
安原　　誠	〃	社会教育課文化財調査員
長谷川　真	〃	社会教育課文化財調査員
阿部　　豊	〃	社会教育課埋蔵文化財調査員（主担当）
江口　邦泰	〃	社会教育課埋蔵文化財調査員

調査の実施にあたり、下記の方々から多大な協力をいただきました。記して感謝申し上げます。
野外調査　阿部　登、大下　義文、福士　祐二、大沢　裕明　齋藤　末吉、佐々木　彰、
　　山根　保行、坂本　晃、中田　隆、佐々木　義彦
資料整理　中村　明子、佐々木　厚子
地権者　　㈱マルイ舗装、舘洞　サメ、吉野　ノブ

2.　遺跡の立地と環境

2－1　宮古市の立地

宮古市は、岩手県沿岸部のほぼ中央に位置する人口５万ほどの町である。海岸線は宮古市を境にその景観を大きく異にし、すなわち北部海岸線は海岸段丘が続く隆起性海岸で断崖絶壁をなして海へ落ち込むのに対し、南部は沈降性の典型的なリアス式海岸の複雑に入り組んだ海岸線を形成し、貝塚などが多いことでも名高い。

市域は、338.38ｋｍを有し、その大部分は中小起伏の山地帯が占める。宮古湾最深部に河口をもつ津軽石川（つがるいしがわ）より宮古湾西岸沿いに、北北東から南南西にのびる津軽石断層帯がある。その断層帯を境に西部の大起伏山地から続く中小起伏の山地帯およびその周辺部に形成された丘陵帯と東部の重茂（おもえ）半島と大きく二分される。さらに、西から東へ流れる閉伊（へい）川、北流する津軽石川およびその支流により開析されてできた谷底平野や河岸段丘、両河川の河口付近を中心とした沖積平野がわずかな平地を形成している。西部の大起伏山地は東部海岸線へむかって次第に標高を下げ、中小起伏産地となり、さらに標高100m前後の丘陵へと続く。

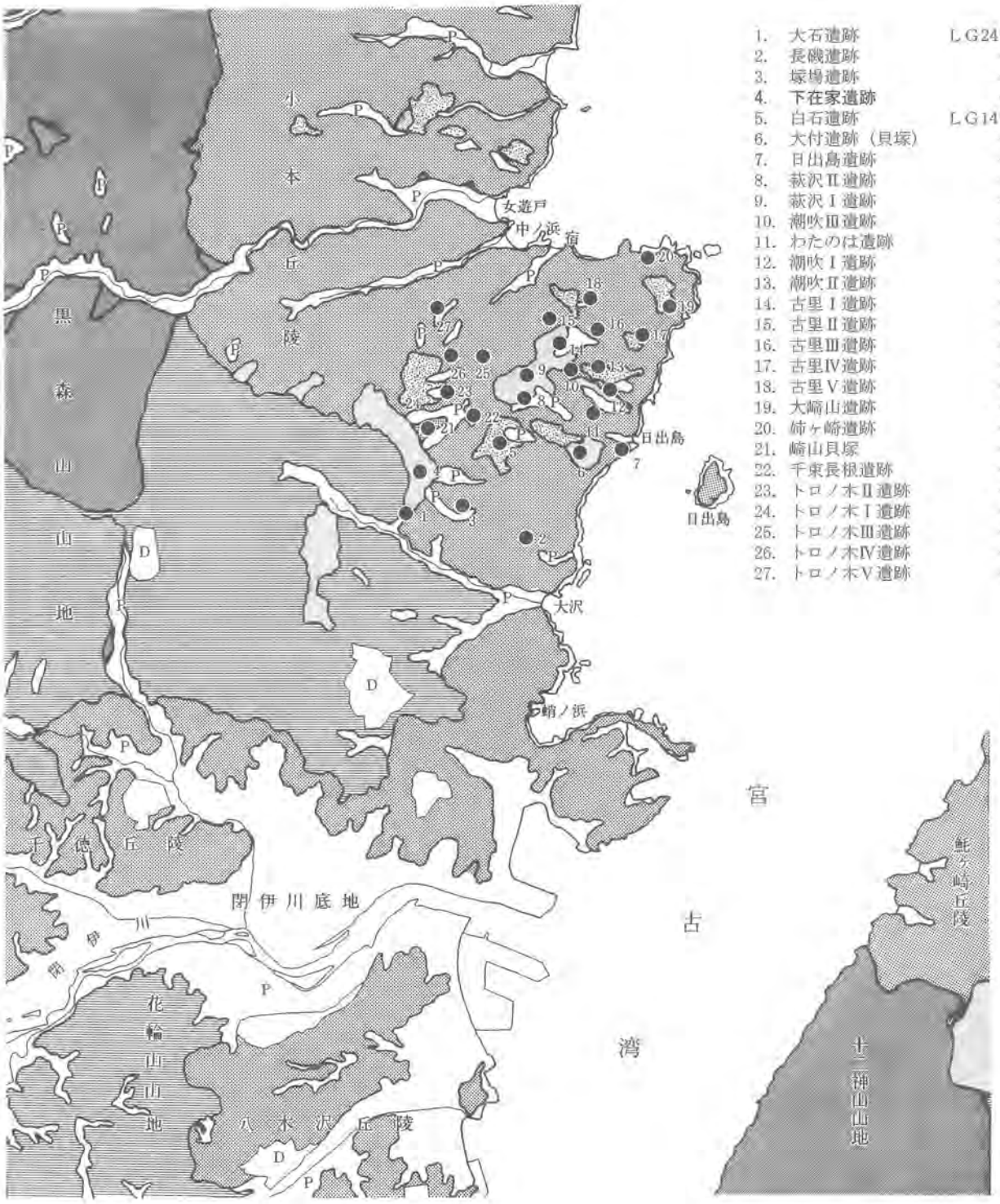
丘陵は、海岸線沿いには北部に小本（おもと）丘陵、重茂半島に鮭ヶ崎（とどがさき）丘陵、河川沿いには閉伊川河岸に千徳（せんとく）丘陵、八木沢（やぎさわ）川河岸に八木沢丘陵、津軽石川河岸に豊間根（とよまね）丘陵がそれぞれ形成されている。

2－2　遺跡の立地と周辺の遺跡

崎山地区は、北の小本丘陵が太平洋に半島状に張り出した地域をさします。北は女遊戸（おなつべ）から南は大沢までの範囲である。海岸線は入り組み、かつ急崖をなして岩礁が続く。

松月
女遊戸遺跡群
はまゆり学園
はまゆり養護学校
女遊戸
栽培漁業センター
女川事業所
中浜
陸中南生崎山清掃工
下在家Ⅰ遺跡
下在家
稲荷
大沢
佐原
日の出町
姉ヶ崎
国民休暇村
崎山の潮吹穴
日出島
日出島クロコシジロウミツバメ繁殖地
日出島
1 大石 0057
2 長磯 0177
3 塚場 0142
4 下在家Ⅰ 0018
5 白石 2195
6 大付 2291
7 日出島 2294
8 萩沢Ⅱ 2157
9 萩沢Ⅰ 2137
10 潮吹Ⅲ 2230
11 わたのは 2262
12 潮吹Ⅰ 2253
13 潮吹Ⅱ 2232
14 古里Ⅰ 2119
15 古里Ⅱ 1198
16 古里Ⅲ 2203
17 古里Ⅳ 2206
18 古里Ⅴ 1282
19 大崎山 1288
20 姉ヶ崎 1247
21 崎山貝塚 2079
22 千束長根 2127
23 トロノ木Ⅱ 2150
24 トロノ木Ⅰ 2123
25 トロノ木Ⅲ 2123
26 トロノ木Ⅳ 2121
27 トロノ木Ⅴ 2099
28 下在家Ⅱ 0018
0
1：25,000
1000m

第１図　位置図



1.	大石遺跡	LG24－0057
2.	長磯遺跡	－0177
3.	塚場遺跡	－0142
4.	下在家遺跡	－0018
5.	白石遺跡	LG14－2195
6.	大付遺跡（貝塚）	－2291
7.	日出島遺跡	－2294
8.	萩沢Ⅱ遺跡	－2157
9.	萩沢Ⅰ遺跡	－2137
10.	潮吹Ⅲ遺跡	－2230
11.	わたのは遺跡	－2262
12.	潮吹Ⅰ遺跡	－2253
13.	潮吹Ⅱ遺跡	－2232
14.	古里Ⅰ遺跡	－2119
15.	古里Ⅱ遺跡	－1198
16.	古里Ⅲ遺跡	－2203
17.	古里Ⅳ遺跡	－2206
18.	古里Ⅴ遺跡	－1282
19.	大崎山遺跡	－1288
20.	姉ヶ崎遺跡	－1247
21.	崎山貝塚	－2079
22.	千束長根遺跡	－2127
23.	トロノ木Ⅱ遺跡	－2048
24.	トロノ木Ⅰ遺跡	－2150
25.	トロノ木Ⅲ遺跡	－2123
26.	トロノ木Ⅳ遺跡	－2121
27.	トロノ木Ⅴ遺跡	－2099

0　1:50000　1000 m

中起伏山地

小起伏山地

丘　陵　地

砂礫段丘Ⅰ

山麓および他の緩斜面

崖錐性扇状地

P…谷底平野及び氾濫平野

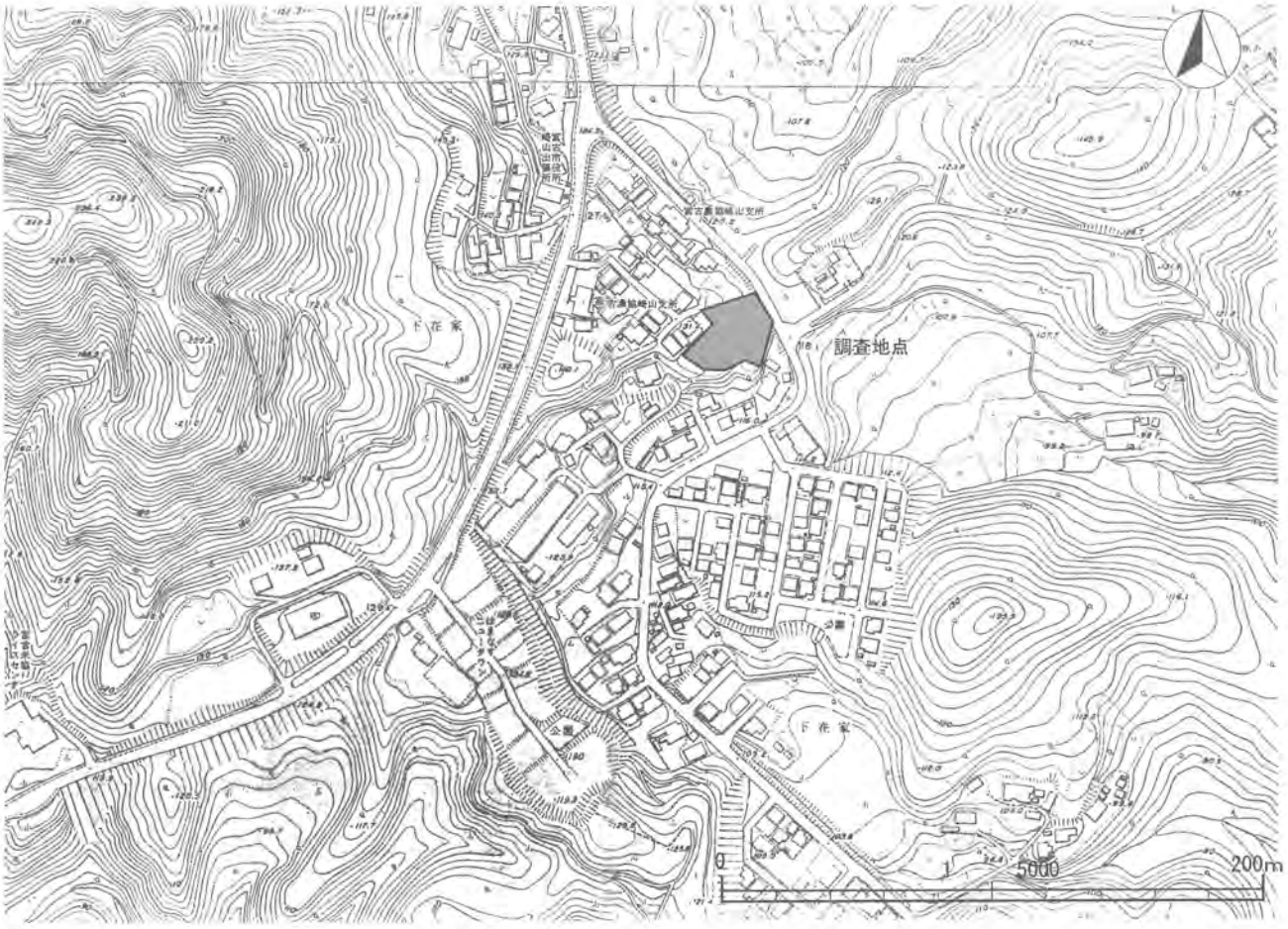
D…人工改変地

第２図　地形分類図

砂浜は、中ノ浜（なかのはま）、宿（やど）、日出島（ひでしま）、大沢（おおさわ）などにあり、沢づたいの道をたどってこれらの浜辺に至る。丘陵の海岸線付近での標高は約90m、西側の山地寄りで約150mとほぼ平坦で、海に向かってゆるやかに傾斜していく。

崎山地区では、現在27箇所の遺跡が確認されているが、国の史跡「崎山貝塚」に代表されるように、いずれも縄文時代のものである。時期は早期～晩期にわたるが、そのなかでも前期～中期の遺跡が主体を占め、後～晩期のものは比較的少ない。遺跡の多くは、わずかに残った段丘面やこれらに続く緩斜面上に立地する。

下在家遺跡は、「崎山貝塚」の南側に位置する。貝塚の南側に形成された南東に延びる小尾根の緩斜面上に位置するのが下在家Ⅰ遺跡である。湿地（現在は埋められて宅地となっている）を挟んで南東側に位置するのが下在家Ⅱ遺跡である。昭和６２年度の下在家Ⅰ遺跡では、時期は不明であるが、土坑跡、貝ブロックなどが出土している。今回出土した近世の遺構に関連したものとしては、北のトロノ木Ⅰ遺跡では掘立柱建物跡、井戸跡、正確な時期は不明であるが近世の可能性が高い萩沢（はぎさわ）Ⅱ遺跡では製鉄炉跡、炭窯跡がそれぞれ出土している。また、市内の近世の遺構が出土した遺跡としては、山口地区の鋳物工場跡、墓坑跡が出土した黒森町（くろもりちょう）Ⅰ遺跡、津軽石地区の掘立柱建物跡、墓坑跡などが出土した上根井沢（かみねいさわ）Ⅰ遺跡、沼里（ぬまり）遺跡などが挙げられる。



第３図　周囲の地形

３．調査結果

３－１　基本層序（第５、６図）

調査区は西から東へ下降する傾斜地で、東側に段が形成され緩斜面を上下二面に分ける。調査区の覆土は１層のみで、東側に厚く堆積していた。

１層　調査区全域に分布し、特に東側に厚く堆積する。粘土、焼土が混じる褐色の砂壌土である。陶磁器、鉄製品などが含まれる。１ａ層は耕作土層である。１ｂ層はやや固めで密に閉まる。１ｃ層はやはり固く密に締まり、赤褐色の粘土粒を多く含む。

ａ、ｂ層は撹乱である。

３－ａ　検出した遺構と遺物

ａ、８号の掘立柱建物跡、８号ｂ柱穴列跡、７号竪穴状遺構

８号掘立柱建物跡（第７図）

調査区の東、下段緩斜面の中央東端に位置する。検出面は地山面である。ほぼ等高線と平行に南北に長い削平面を設けている。覆土は、Ａ１層は固めで締まる暗褐色土、Ｂ１～Ｄ１は、粘性のある褐色土層である。

平面形は、桁行４間、梁行１間の長方形である。規模は桁行8.9m、梁行2.4mである。

柱穴の掘り方は、西側の柱列では径、深さとも大きいが、東側の柱列は規模が小さく掘り方も明瞭ではない。主軸方向はｐ15→ｐ1で、軸方位はN13°Ｅである。

建物跡の内部、周辺で大小の規模の焼土遺構を検出しているが、検出面、位置などから焼土１０、焼土９、焼土１１（第14図）などが８号建物跡に伴うものと思われる。

８号ｂ柱穴列跡（第７図）

北のｐ49、ｐ46、ｐ64、ｐ22、ｐ3、ｐ11と連なる柱穴の列である。当初建物跡を構成するものと考え対応する柱穴跡の検出を試みたが、検出できなかった。柱穴の規模がほぼ同じであること、桁行延長としては長すぎると思われ、区画などを目的とした施設の柱穴列跡と判断した。

７号竪穴状遺構（第７図）

８号建物跡の南に位置する。平面形は隅丸方形である。規模は東西は不明であるが、南北で1.7mである。床面からは中央部からやや規模の大きな柱穴跡が出土したほかには、その周辺部でごく浅い小土坑跡が検出しただけである。床面も凸凹が残り、あまり平坦ではない。遺物は出土していない。

1号ａ建物跡

1号ｂ建物跡

25号ａ、ｂ建物跡

4号ａ建物跡

4号ｃ建物跡

8号建物跡

24号土坑跡

20号竪穴状遺構

4号ｄ畝跡

〈Ｊ　区〉

26号道状遺構

27号建物跡

21号竪穴状遺構

23号竪穴状遺構

28号炉跡

〈Ｂ　区〉

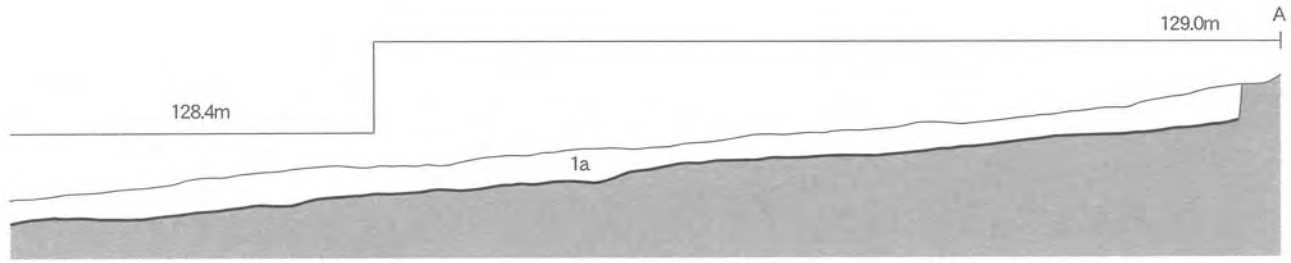
7号竪穴状遺構

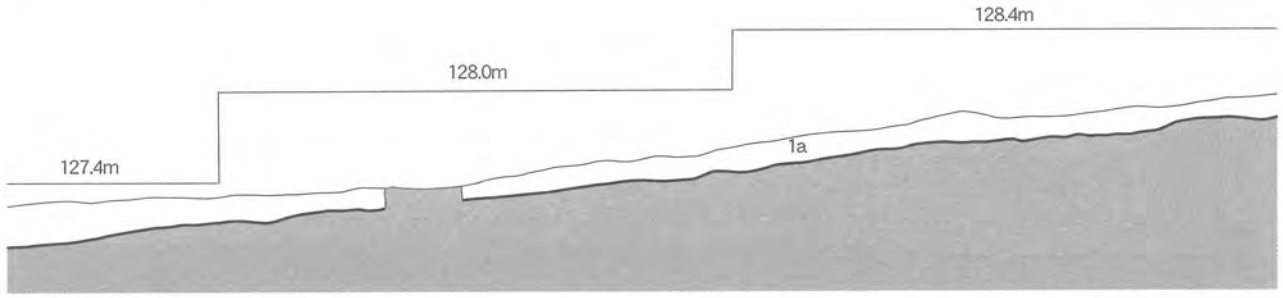
22号竪穴状遺構

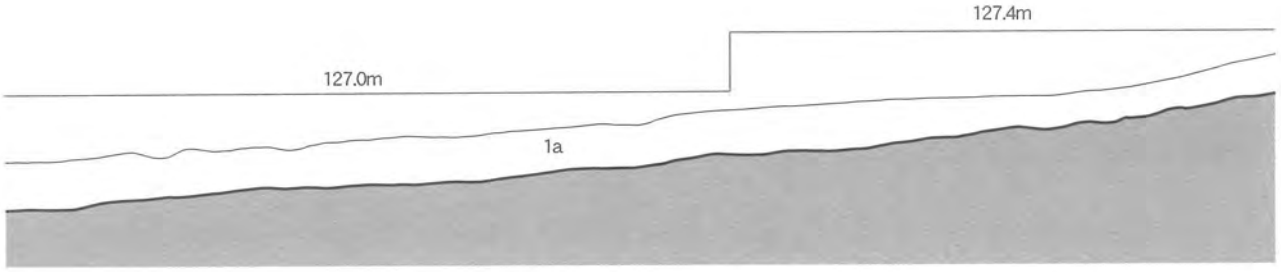
貝層出土地点

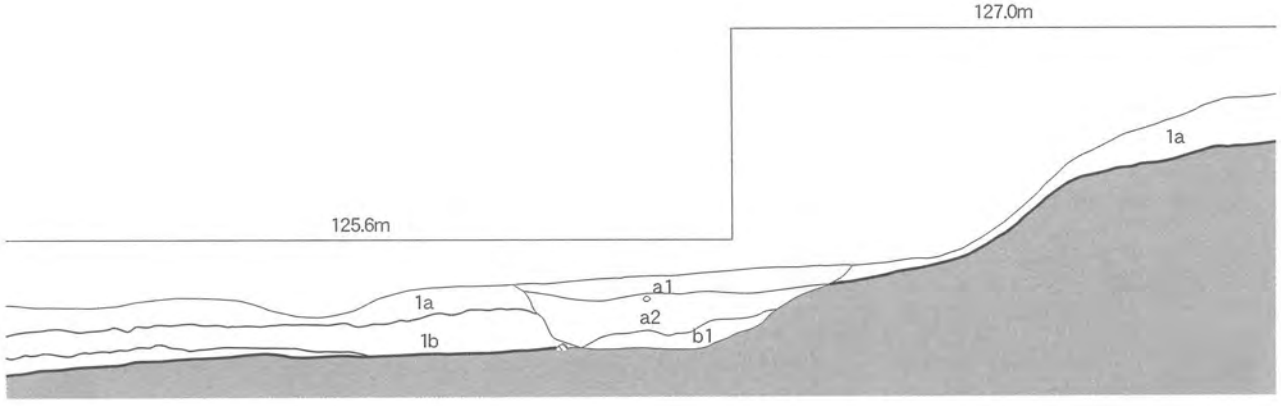
0　1:200　8m

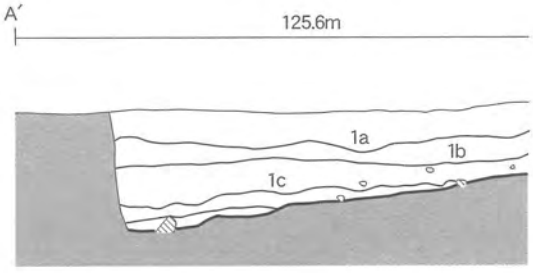
第４図　遺構配置図



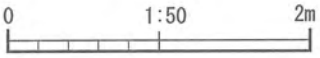




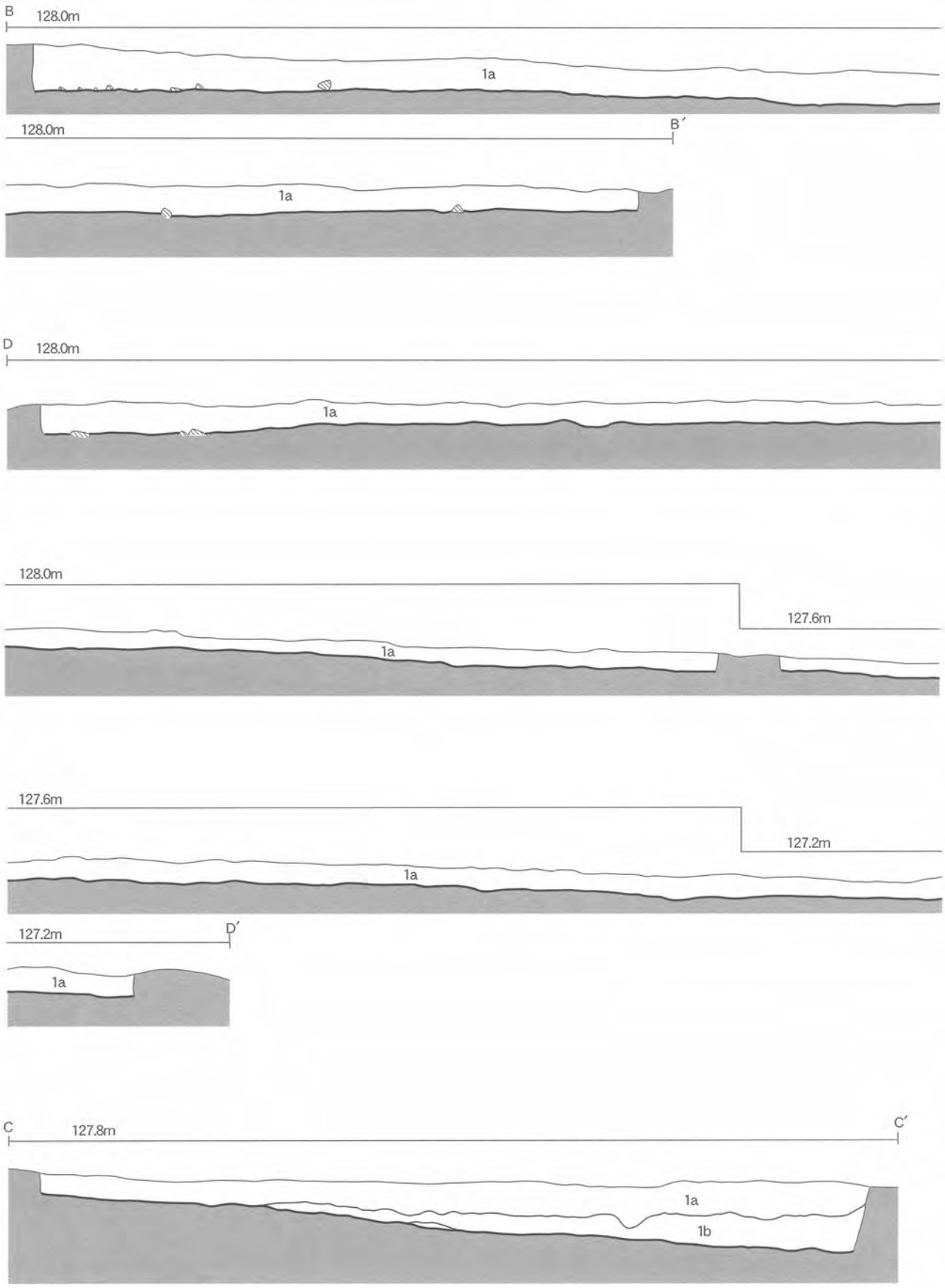




1ａ　１０ＹＲ4/4　褐　砂壌土　１０ＹＲ5/6 黄褐　粘土　3% 軟、疎
　　陶磁器、鉄製品
1ｂ　１０ＹＲ4/4　褐　砂壌土　土色は１層と同じ、赤褐色の粘土粒子を多
　　く含み、固く締まる
1ｃ　１０ＹＲ4/4　褐　砂壌土　赤褐色粘土が少なく、少量の炭粒を含む

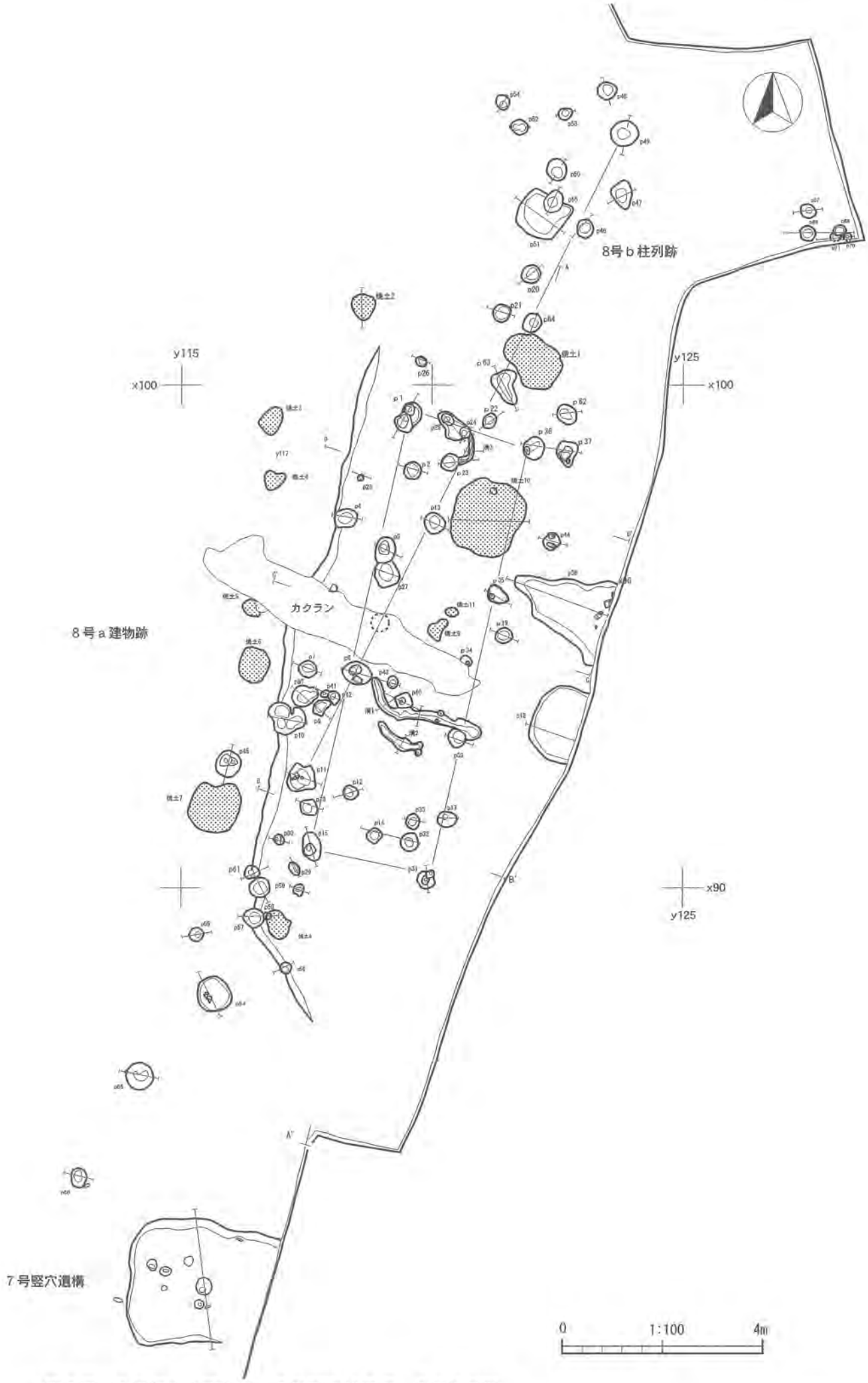


第５図　調査区土層断面（1）

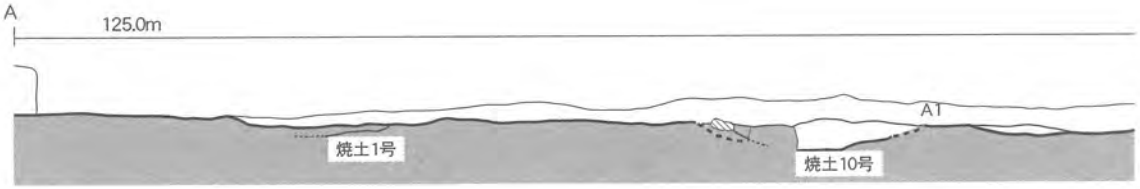


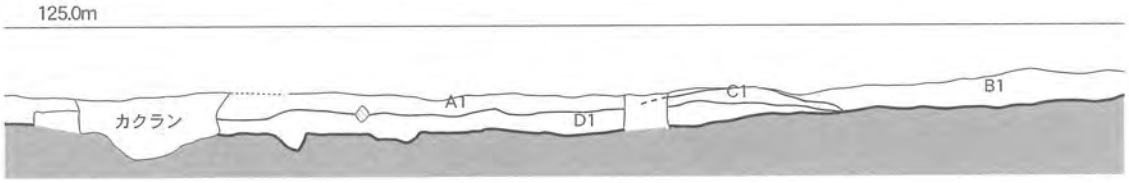
0　1:50　2m

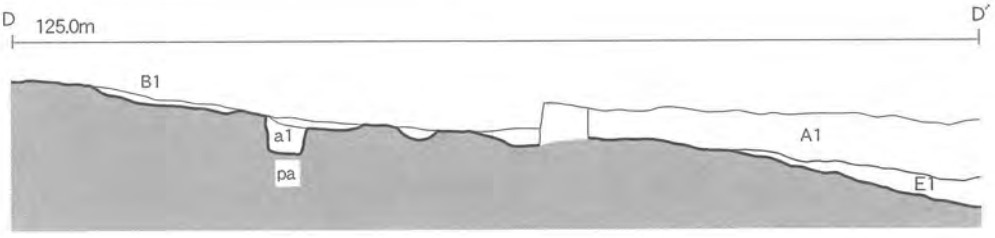
第６図　調査区土層断面（2）

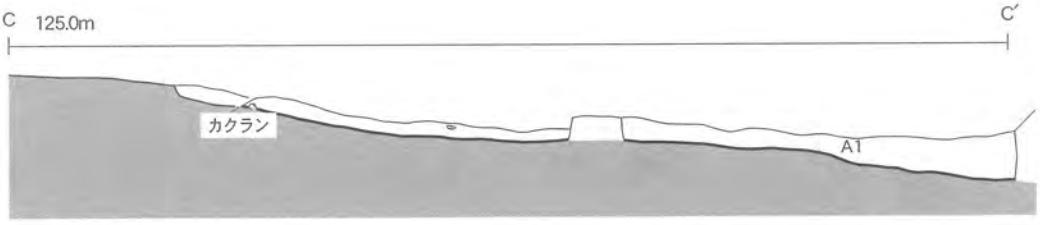


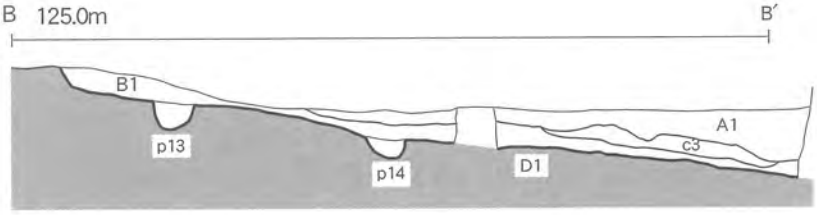
第７図　８号掘立柱建物跡、７号竪穴状遺構、９号柱列跡











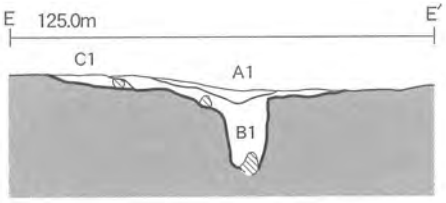
A１　１０ＹＲ3/3 暗褐　砂壌土　１０ＹＲ4/3 にぶい黄褐　砂壌土　2% 固めで、締りは中

Ｂ１　１０ＹＲ4/4 褐　砂壌土　１０ＹＲ5/6 黄褐　砂壌土　10% 固く、やや締まる

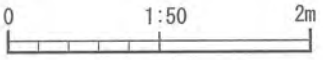
Ｃ１　7.5YR4/4 褐　粘性あり　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　3% 固く締まり、粘性あり

Ｄ１　10YR3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　2% 固く締まり、粘性あり

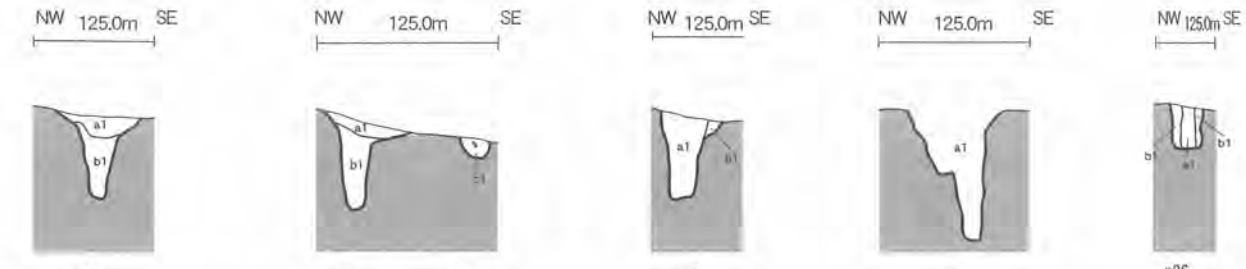
Ｅ１　7.5ＹＲ3/3 暗褐、砂壌土　10ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　3% 固さ、締りとも中
焼土ﾌﾞﾛｯｸ、炭粒多



Ａ１　10ＹＲ3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10% 固めで、締り気味
Ｂ１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10% 固めで、締り気味
Ｃ１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10% 固めで、締り気味



第８図　８号建物跡、７号竪穴状遺構土層断面



p15

a 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR4/4 褐、砂壌土　2% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/4 褐、砂壌土　10YR5/6 黄褐、砂壌土

p6　p43

a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土　5% 固く、締まる
b 1　10YR4/3 にぶい黄褐、砂壌土 7.5YR4/6 褐、砂壌土 2% 固さは中、締りがない
c i　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR4/4 褐、砂壌土　5% 固く、締まる

p5

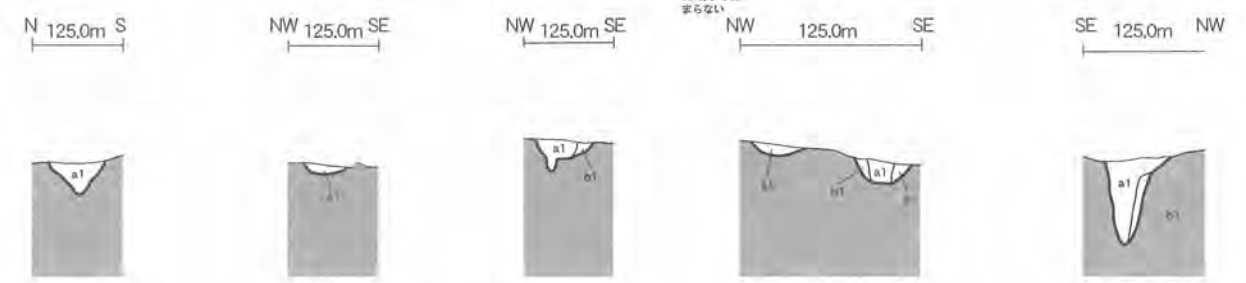
a 1　10YR 3/3 暗褐、砂壌土　10YR4/4 褐、砂壌土　2% 固さ、締りは中
b 1　10YR 4/3 にぶい黄褐、砂壌土 10YR4/6 褐、砂壌土 3% あまり締まらない

p1

a 1　10YR2/3 黒褐　砂壌土　10YR4/4 褐 砂壌土　3% やや締りがない　炭粒少

p26

a 1　10YR2/3 黒褐、シルト質壌土 10YR3/4 暗褐 砂壌土　10% 固さ 締りは中
b 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR4/4 褐、砂壌土　10% 固さ 締りは中　焼土微



p31

a 1　10YR 4/4 褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土 10% やや固め 締まる
b 1　10YR 4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土　10YR 5/4 にぶい黄褐、砂壌土 10% 固さ、締りは中

p39

a 1　7.5YR 3/2 黒褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐、シルト質壌土　固めで、締り気味

p35

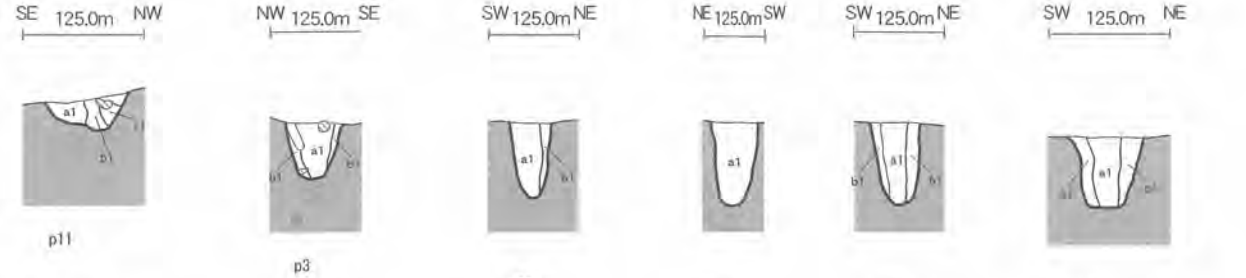
a 1　10YR3/3 暗褐、シルト質壌土 10YR4/4 褐 シルト質壌土　10% 固さ、締りは中 炭化物20%
b 1　10YR4/6 褐、シルト質壌土 10YR3/1 黒褐、シルト質壌土 5% 固さ、締りは中　炭化物2%

p36　p37

p36 a 1　7.5YR4/4 褐、シルト質壌土　7.5YR3/4 暗褐、シルト質壌土 固さ、締りは中　炭化物粒5%
p37 a 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐、シルト質壌土 固さ、締りは中
b 1　7.5YR4/3 褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐、シルト質壌土 固さ、締りは中

p40

a 1　10YR 4/6 褐、シルト質壌土　10YR 5/6 黄褐、シルト質壌土　固さ 締りは中



p11

a 1　10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、シルト質壌土　2% 固く、締まる
b 1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR 5/4 にぶい黄褐、シルト質壌土　10% 固く、締まる
c 1　10YR4/2 にぶい黄褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、シルト質壌土　2% 固く、締まる

p3

a i　10YR 3/3 暗褐、砂壌土　10YR 4/4 褐、砂壌土　2% 堅さ 締りは中
b 1　10YR 3/4 暗褐、砂壌土　10YR 4/6 褐、砂壌土　10% やや固め、締りは中

p22

a 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR4/4 褐 シルト質壌土　2% やや固め、締まる　炭粒少

p64

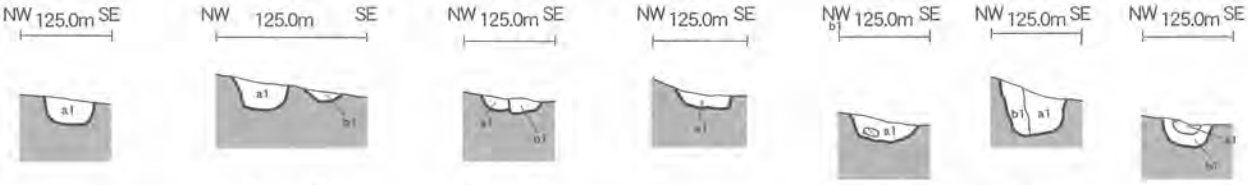
a 1　10YR3/3 暗褐、砂壌土 10YR 4/4 褐 砂壌土 10% 固さ 締りは中

p46

a 1　10YR3/3 暗褐、砂壌土　10YR4/4 褐、砂壌土　固さ、締りは中
b 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土　固めで、締り気味

p49

a 1　10YR3/3 暗褐、砂壌土　7.5YR3/2 黒褐、シルト質壌土　固さ、締りは中
b 1　7.5YR4/4 褐 砂壌土　10YR3/3 暗褐、砂壌土　固さ 締りは中



p13

a 1　10YR3/4 暗褐 砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土　5% やや固め、締りは中

p8　p9

a 1　10YR4/4 褐、砂壌土　10YR5/6 黄褐、砂壌土　10% 堅さ、締りは中
b 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土　2% 軟、締まりは中

p41　p42

a 1　10YR4/4 褐 シルト質壌土　10YR 5/6 黄褐、シルト質壌土 固さ、締りはや
b 1　10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、シルト質壌土　固めで 締り気味

p7

a 1　10YR 4/4 褐、砂壌土　10YR 5/6 黄褐、砂壌土　1% やや固め

p27

a 1　10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土　3% やや固め、締りは中

p4

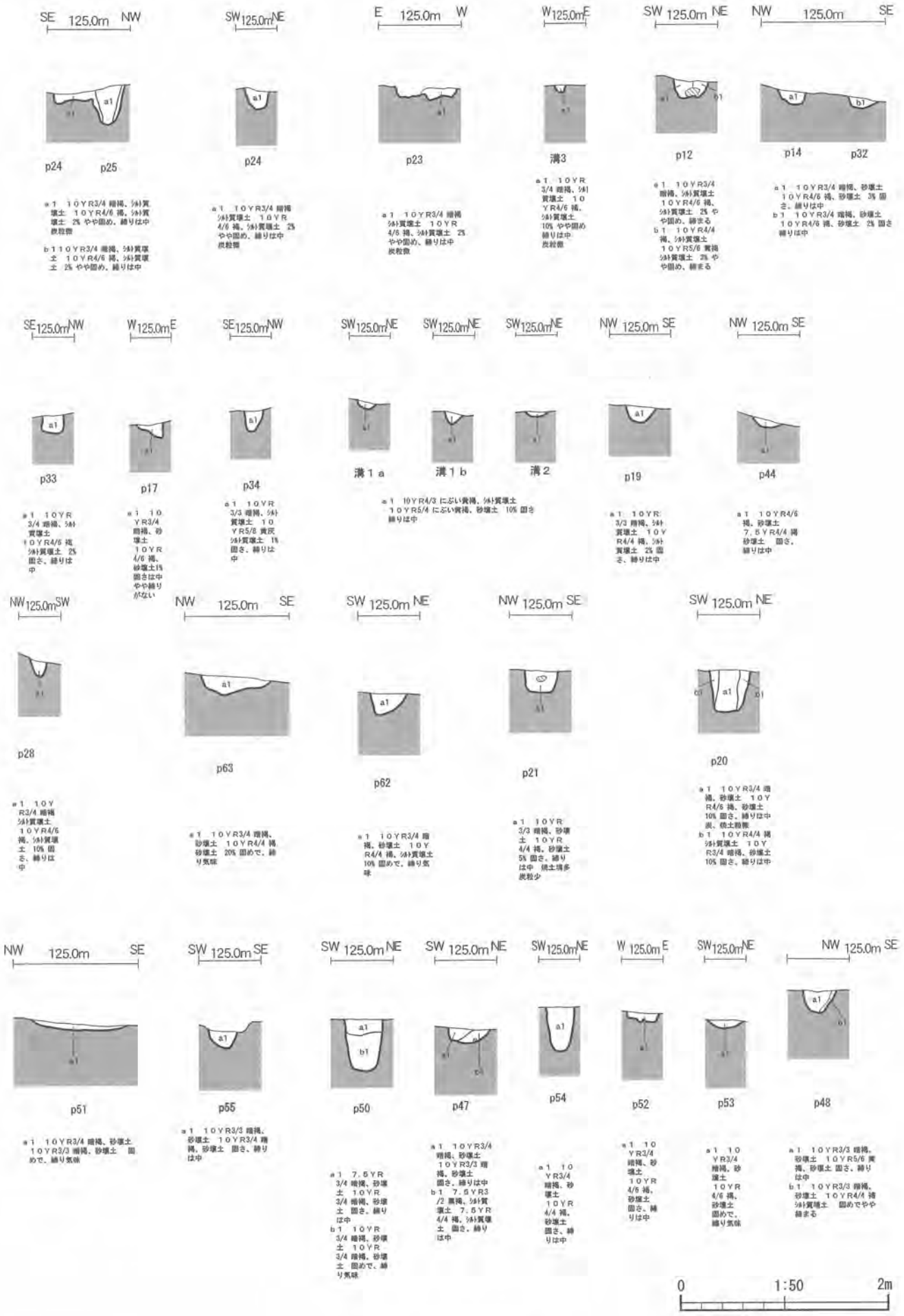
a 1　10YR4/3 にぶい黄褐、砂壌土 10YR4/6 褐、砂壌土　10% やや固め
b 1　10YR4/4 褐 砂壌土　10YR5/4 にぶい黄褐、砂壌土 10% 堅さ、締りは中

p2

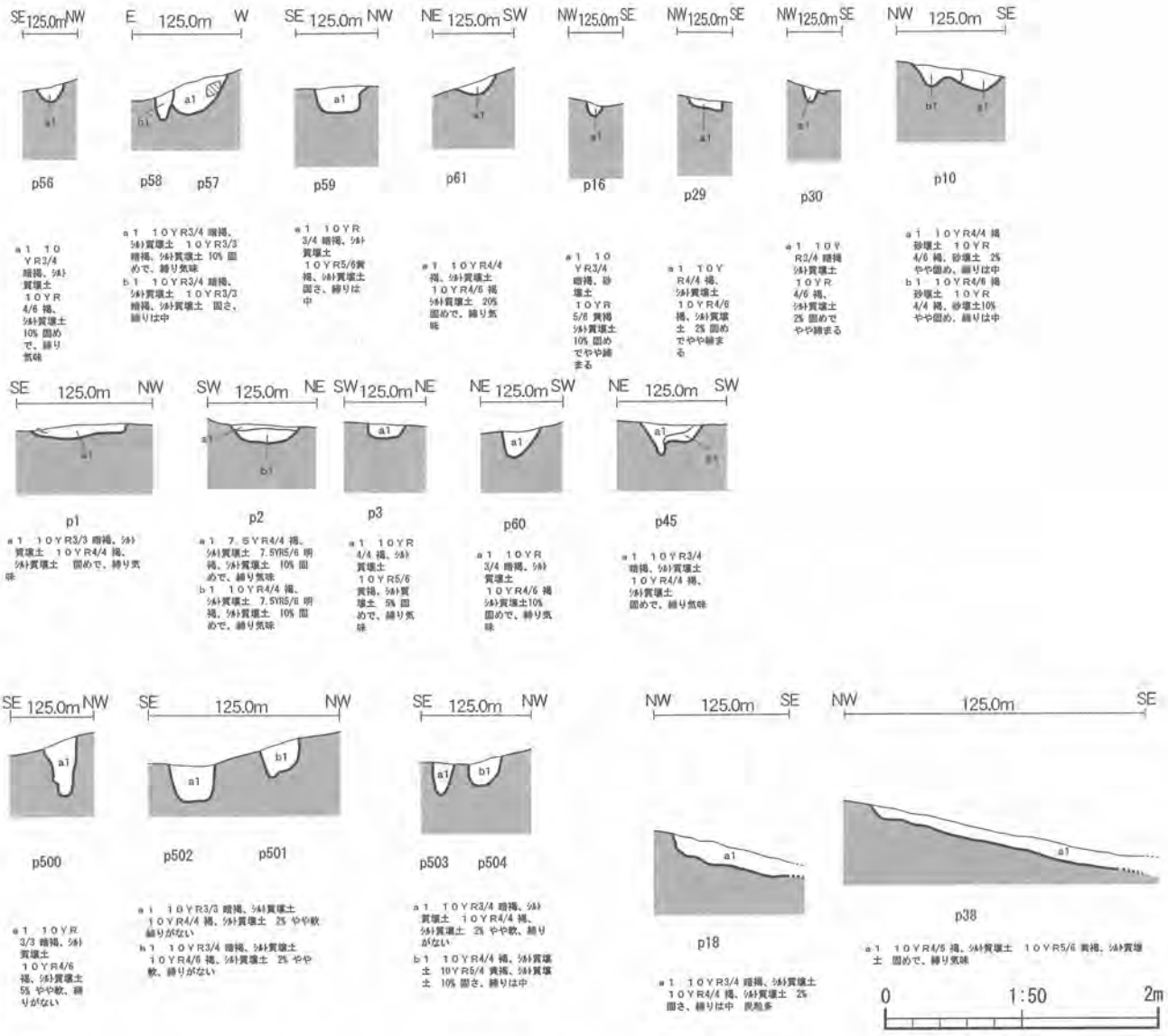
a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土　10% 固めでやや締まる
b 1　10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土　10YR 4/6 褐、黄壌土 10% 固く、やや締まる

0　1:50　2m

第９図　柱穴土層断面（1）



第10図　柱穴土層断面（2）



第11図　柱穴土層断面（3）

b．焼土遺構（第12図～14図）

８号建物跡の敷地と周辺部で大小の規模の焼土遺構が集中して出土している。中でも規模の大きいのが１号、７号、１０号焼土である。

１号焼土（第12図）

８号建物跡の北側に位置するやや規模の大きい炉跡である。新旧２時期の使用が確認された。平面形は、新炉跡が楕円形で、1.0m×0.7m、深さ0.2mである。旧炉跡は、平面形はほぼ円形で、規模は0.8m×0.9m、深さ役0.15mと推定される。ｋ１層、ｋ２層が新旧の焼土層である。いずれも固く、密に焼き締まっている。焼土層からは、貝類、魚骨、炭、鉄滓などが出土している。

２号焼土（第12図）

１号焼土の西に位置する小規模な焼土である。平面形は楕円形で、規模は0.5m×0.45mである。焼土層厚は約3ｃｍで、それほど固く焼き締まってはいない。焼土からは炭。貝類？が出土している。

３号焼土（第12図）

２号焼土の南、８号建物跡の西側に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は0.6m×0.4mである。焼土の層厚は約4ｃｍで、それほど焼き締まってはいない。焼土から遺物は出土していない。

４号焼土（第12図）

３号焼土のすぐ南に位置する。平面形はハート形で、規模は0.4m×0.4mである。焼土の層厚は約3ｃｍで、貝類、炭などが出土している。

５号焼土（第13図）

４号焼土の南に位置する。平面形は不整楕円形で、0.4m×0.3mである。焼土の層厚は2ｃｍほどで、貝類、炭などが出土している。

６号焼土（第13図）

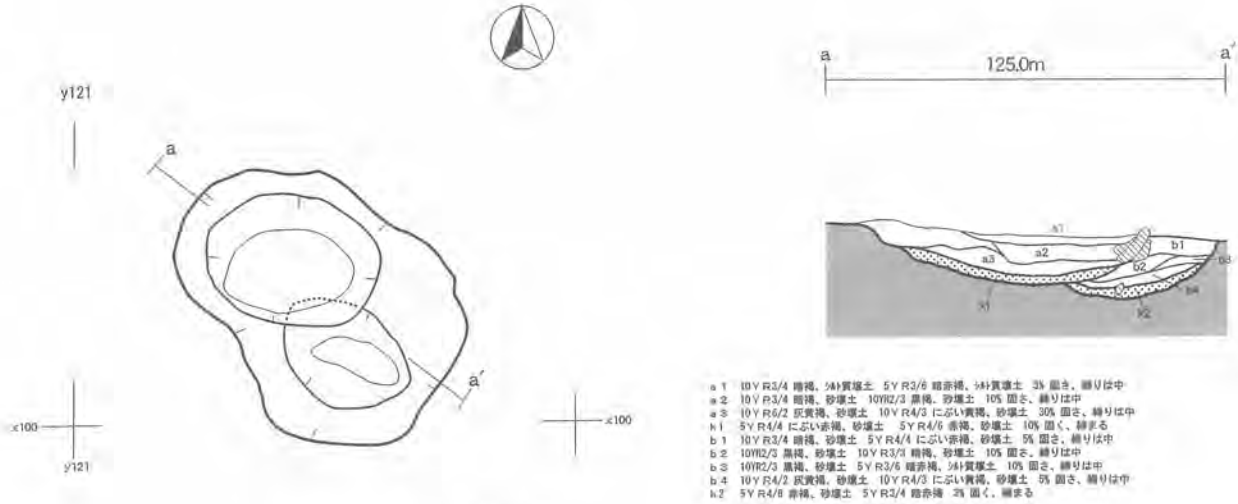
５号焼土の南に位置する。平面形は不整楕円形で、0.7m×0.6mである。焼土の層厚は約5ｃｍである。微量の貝類が出土している。

７号焼土（第13図）

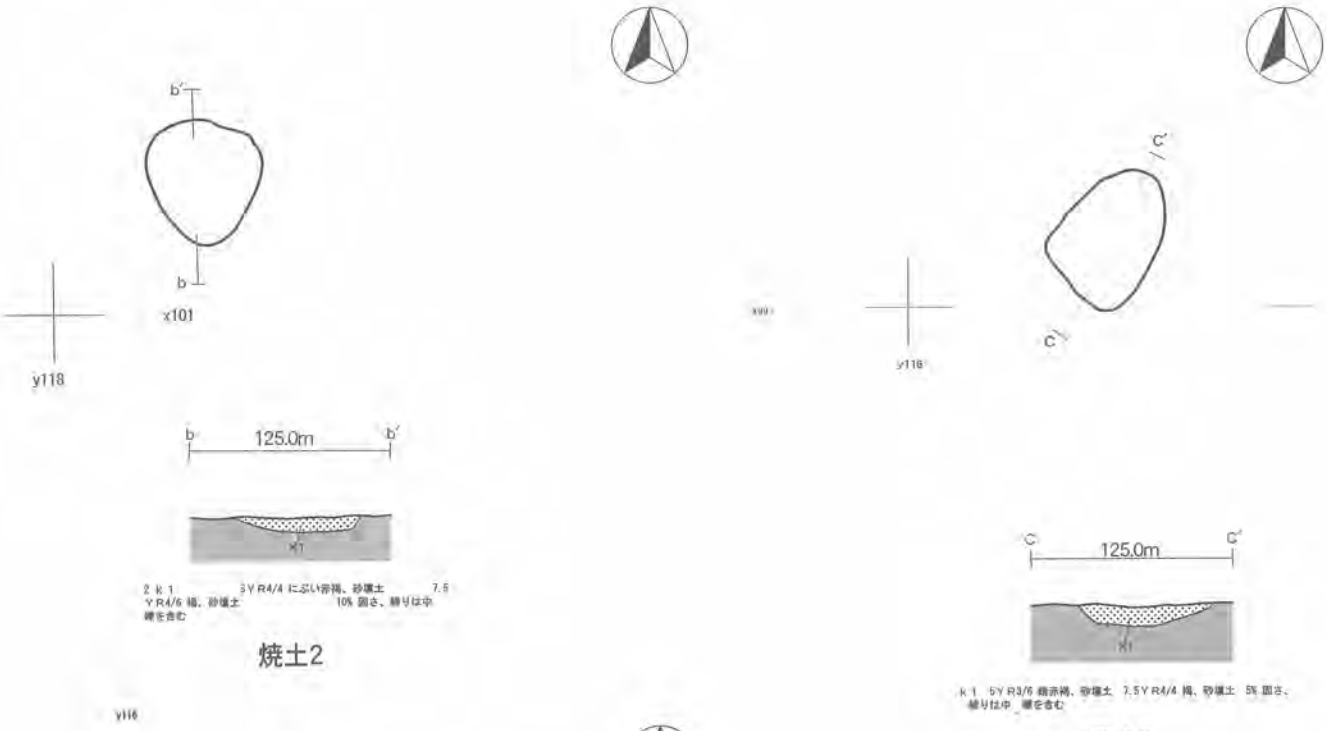
８号建物跡の北西に位置する。平面形は、北東側の焼成部は円形であるが、南西側を半円形の溝跡が囲む。規模は焼成部で、80ｃｍ×70ｃｍ、深さは焼成面まで10ｃｍである。焼土ｋ１層は厚さ10ｃｍ、あまり焼き締まってはいない。溝は、幅約20ｃｍ、深さ12ｃｍである。礫を据えた石囲炉であった可能性がある。焼土からは魚骨、貝類、炭などが出土している。

８号焼土（第13図）

８号建物跡の内側南端に位置するが、検出面は８号建物跡の埋土Ｄ１層上面である。平面形は不整楕円形である。規模は60ｃｍ×30ｃｍ、焼土層厚は約2ｃｍである。焼土からは焼骨片、炭などが出土している。

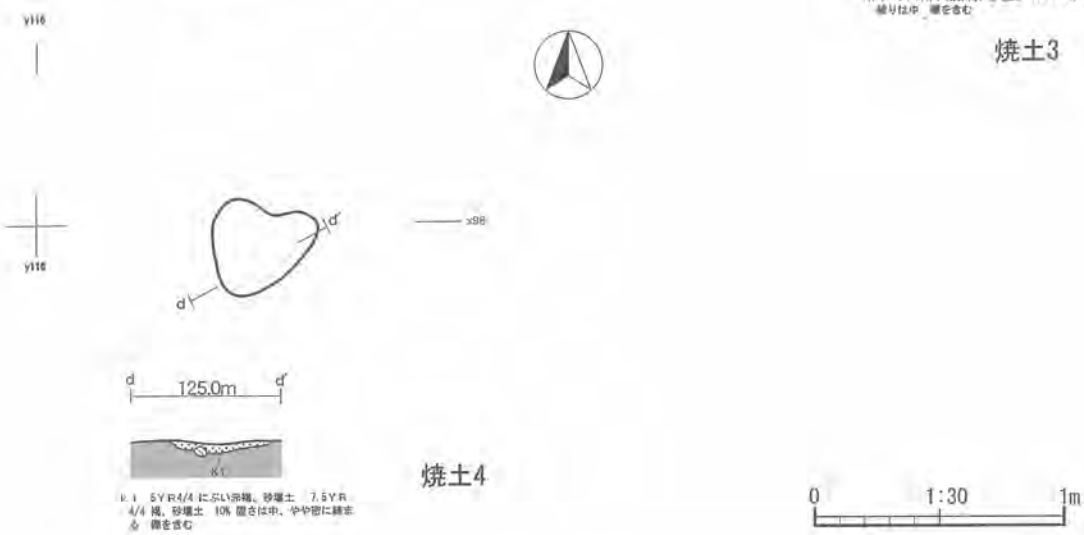


焼土1



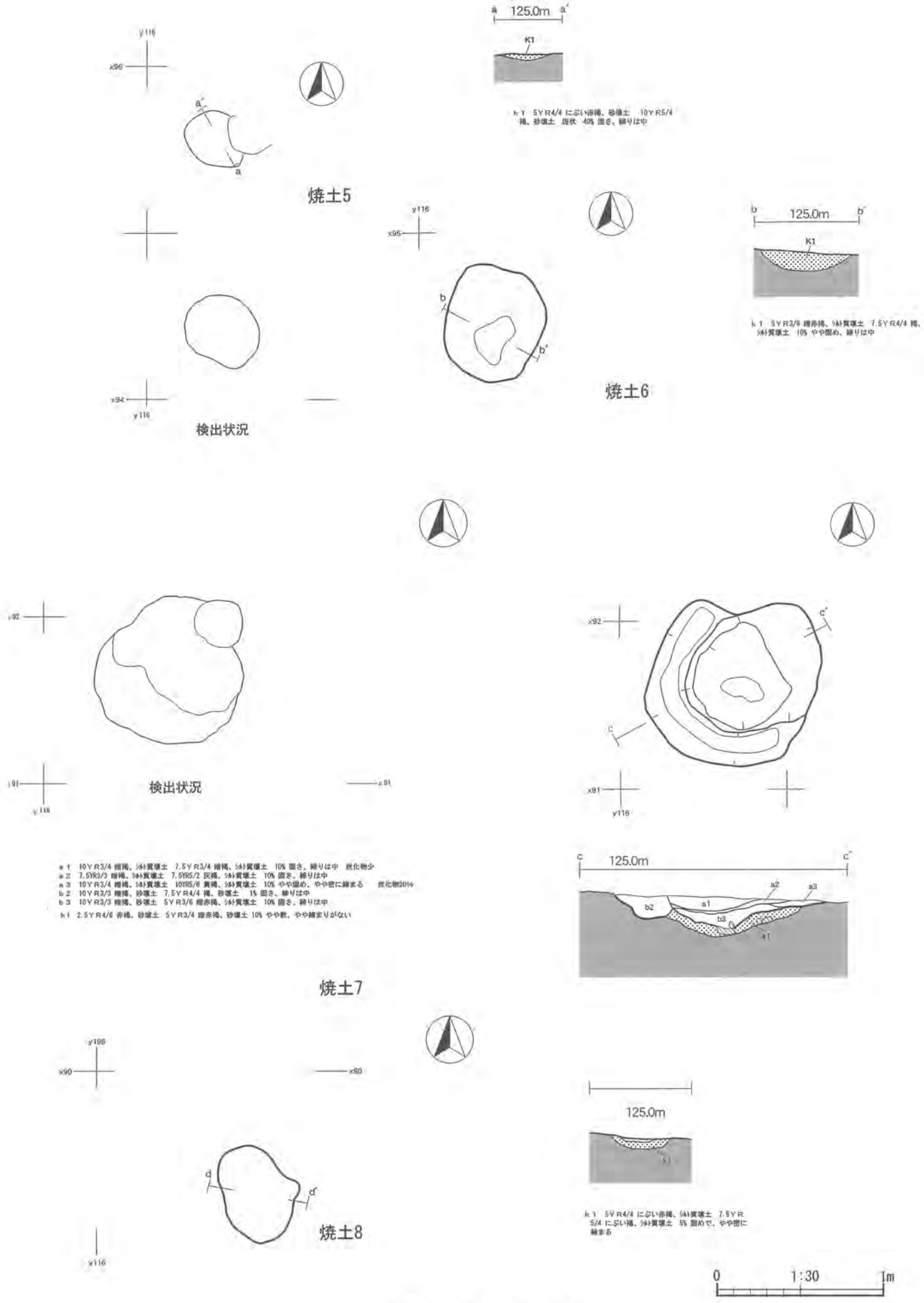
焼土2

焼土3



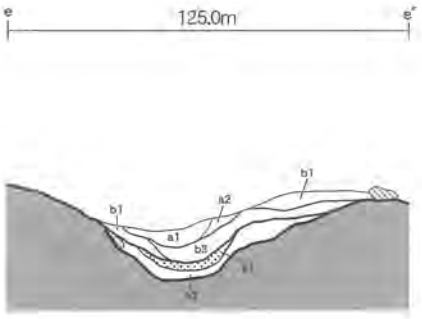
焼土4

第12図　焼土１号～４号

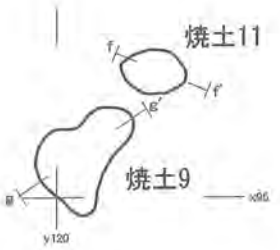

a 125.0m a'
K1
k 1 5YR4/4 にぶい赤褐、砂壌土 10YR5/4 褐、砂壌土 斑状 40% 固さ、締りは中
y116
x96
a'
a
焼土5
y116
x95
b
b'
b 125.0m b'
K1
k 1 5YR3/6 暗赤褐、シルト質壌土 7.5YR4/4 褐、シルト質壌土 10% やや固め、締りは中
焼土6
x94
y116
検出状況
x92
x91
y116
検出状況
x91
a 1 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 7.5YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10% 固さ、締りは中 炭化物少
a 2 7.5YR3/3 暗褐、シルト質壌土 7.5YR5/2 灰褐、シルト質壌土 10% 固さ、締りは中
a 3 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、シルト質壌土 10% やや固め、やや密に締まる 炭化物30%
b 2 10YR3/3 暗褐、砂壌土 7.5YR4/4 褐、砂壌土 1% 固さ、締りは中
b 3 10YR3/3 暗褐、砂壌土 5YR3/6 暗赤褐、シルト質壌土 10% 固さ、締りは中
k 1 2.5YR4/6 赤褐、砂壌土 5YR3/4 暗赤褐、砂壌土 10% やや軟、やや締まりがない
焼土7
x92
c'
c
x91
y116
c 125.0m c'
a2
a3
b2
a1
b3
a1
y196
x90
x90
d
d'
焼土8
y116
125.0m
k 1 5YR4/4 にぶい赤褐、シルト質壌土 7.5YR 5/4 にぶい褐、シルト質壌土 5% 固めで、やや密に締まる
0 1:30 1m

第13図 焼土５号～８号

焼土10

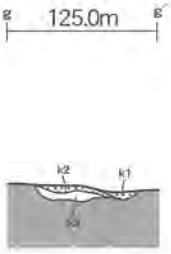


a 1　10Y R3/4 暗褐、砂壌土　10Y R3/3 暗褐、砂壌土　5% 固さ、締りは中 炭化物、赤色粒少
a 2　7.5Y R3/2 黒褐、砂壌土　5Y R4/4 にぶい赤褐、砂壌土　10% 固さ、締りは中　炭化物30%
b 1　7.5Y R4/4 褐、砂壌土　7.5Y R4/6 褐、砂壌土　30% 固めで、やや密に締まる
b 2　10YR2/3 黒褐、砂壌土　5YR5/8 明赤褐、砂壌土　5% 固さ、締りは中
b 3　10Y R3/4 暗褐、砂壌土　10Y R4/6 褐、砂壌土　40% 固さ、締りは中
k 1　2.5Y R4/6 赤褐、砂壌土　10Y R3/3 暗褐、砂壌土　固く、締まる
k 2　2.5Y R4/6 赤褐、砂壌土　5Y R4/6 赤褐、シルト質壌土　やや軟、締りは中



焼土11

k 1　5Y R2/3 極暗赤褐、シルト質壌土　10Y R3/4 暗褐、シルト質壌土　1% 固く、締まる



k 1　5Y R2/3 極暗赤褐、シルト質壌土　10Y R3/4 暗褐、シルト質壌土　1% 固く、締まる　明瞭な焼土面
k 2　10Y R4/6 褐、シルト質壌土　10Y R3/4 暗褐、シルト質壌土　1% 固く、締まる　明瞭な焼土面
k 3　7.5Y R3/2 黒褐、シルト質壌土　10Y R4/6 褐、シルト質壌土　1% 固く、締まる

焼土９

0　1:30　1m

第14図　焼土９号～11号

９号、１１号焼土（第14図）

いずれも８号建物の北側寄りの中央床面から検出しており、建物跡に伴う焼土と考えられる。

９号、１１号焼土は、規模は小さいけれどもかなり固く、密に焼き締まった焼土層である。９号焼土からは獣骨、貝類、炭などが出土している。

１０号焼土（第14図）

１０号焼土は、やや深めに掘り窪めた炉跡である。焼成面のプランは円形であるが、北東と南西に張り出した半円形の窪みを持つ。全体のプランは隅丸方形で、規模は、1.5m×1.3mである。焼成面の規模は、0.6m×0.5m、深さは焼成面まで30ｃｍである。焼土ｋ１層は、層厚4ｃｍ、非常に固く密に焼き締まっている。

出土遺物としては、覆土最下部から炭化物の付着した砥石（第16図14）と刃物状の鉄製品（第15図10）が出土している。また、焼土層は、魚骨、貝類、炭などを含んでいた。

ｃ．出土遺物（第15図～17図）

出土遺物は、数が少ないので遺構外から出土したものも含めて種別ごとにまとめた。

１～６は陶磁器である。１～４は陶器である。１は菊皿の口縁部である。胎土は黄色土、内外面に灰釉を施す。瀬戸美濃産で１７世紀後葉から１８世紀前葉に伴う。２は刷毛目を施された碗？で、外面は波状文である。肥前産で、１８世紀前葉から中葉に伴う。３は平鉢の外折する口縁部で、内面に白化粧土による象嵌文様が施される。肥前産１７世紀後半～１８世紀前半に伴う。４は折縁の大平鉢である。内面に鉄釉で草文を施すが、一部緑色釉が混じる。胎土は黄色土である。瀬戸美濃の大平鉢を模した在地の窯のものと思われる。５は染付磁器の碗である。内外面に網目文を施す。肥前産で１８世紀代に伴う。６は半磁器質の折縁の小鉢？である。胎土は暗灰色で、全体に透明釉がかかる。

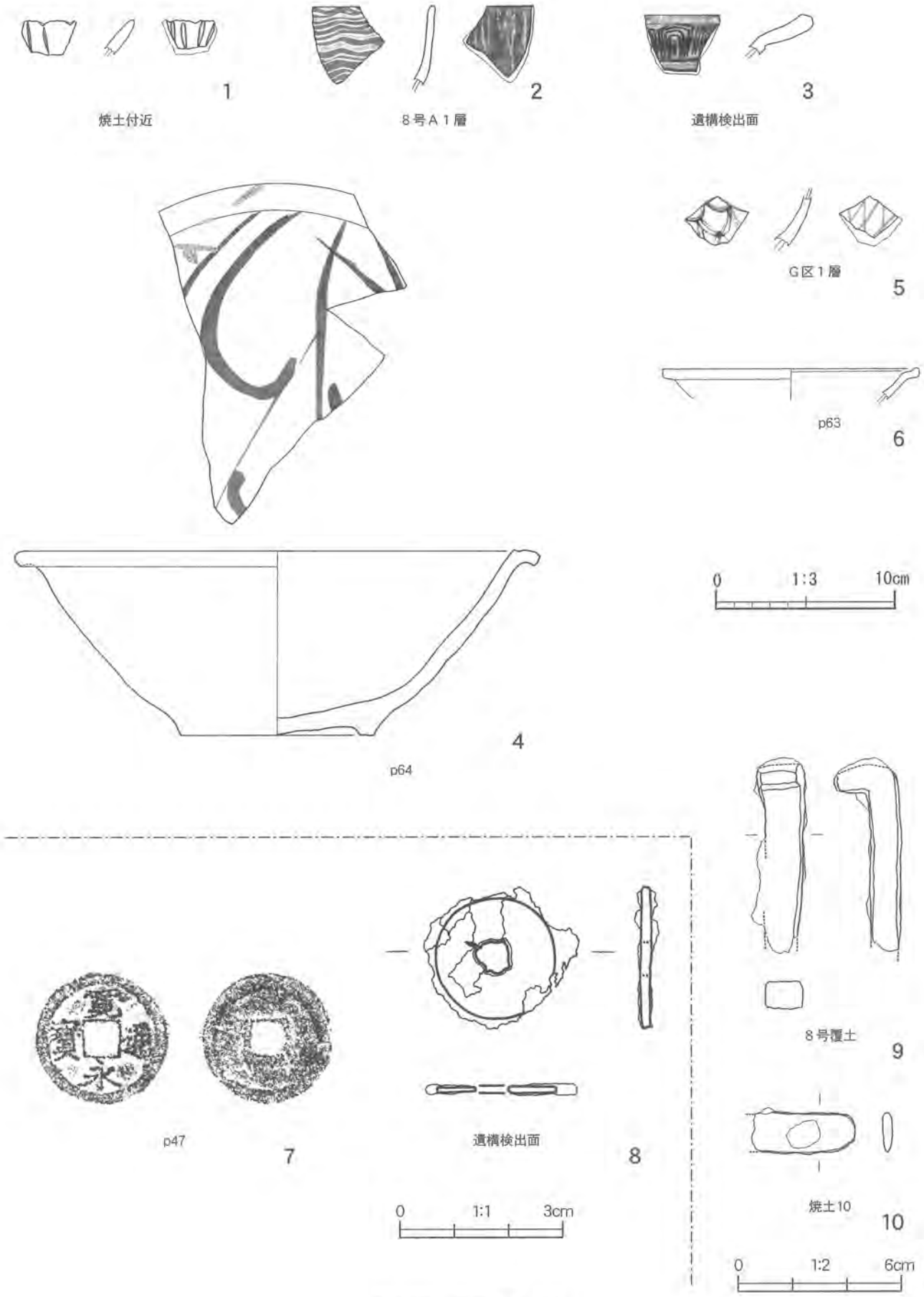
７、８は銭貨である。７は「寛永通宝」、８は鉄銭である。

９、１０は鉄製品である。９は釘、１０は刃物状製品の先端部と思われる。

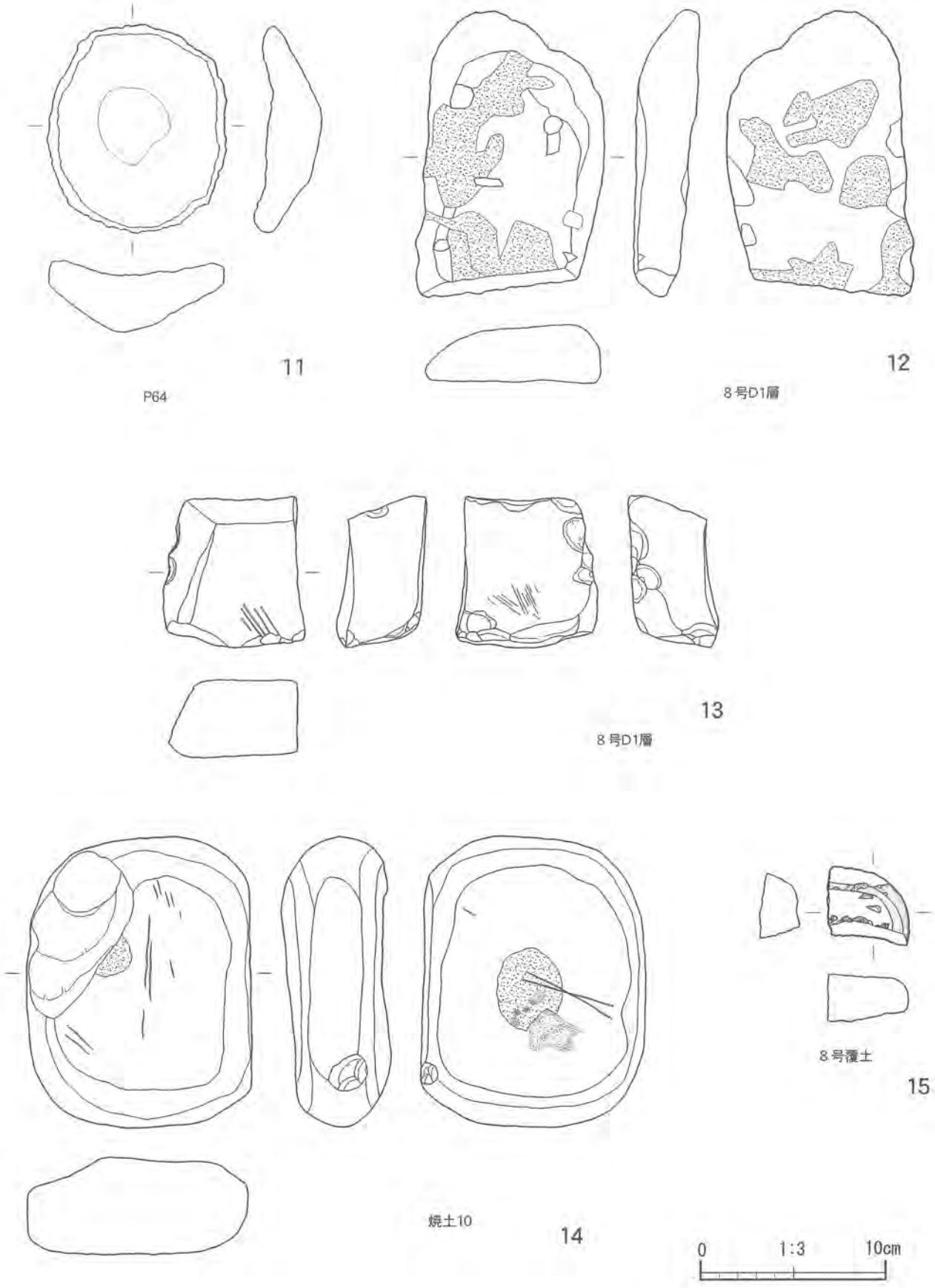
１１は４の陶器と一緒に出土した石製品である。皿状の製品で、内面中央部をわずかに窪ませ、外面は球面に仕上げている。石材は花崗岩である。１２～１５は砥石である。１２、１４は表、裏の磨面に炭化物が付着している。

１６、１７は縄文土器である。いずれも隆沈線による渦巻き文を施された深鉢の体部である。大木８ｂ式に伴う。

１８～２１は石器である。１８は小形の石斧である。研磨が一部剥離面まで及んでおり、製作に伴って破損したものと思われる。頭部は尖り気味で、刃縁は直線的で両端に丸みを持つ。１９～２１は不定形石器である。１９は側縁を、２０、２１は突起部に刃部を作り出している。


1
焼土付近
2
8号A1層
3
遺構検出面
G区1層
5
p63
6
0 1:3 10cm
4
p64
p47
7
遺構検出面
8
0 1:1 3cm
8号覆土
9
焼土10
10
0 1:2 6cm

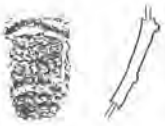
第15図　出土遺物（1）



第16図　出土遺物（2）

16

8号E1層

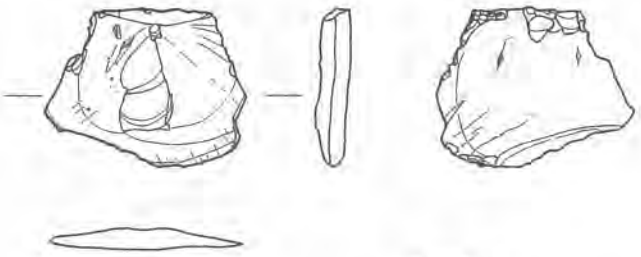


17

東遺構検出面

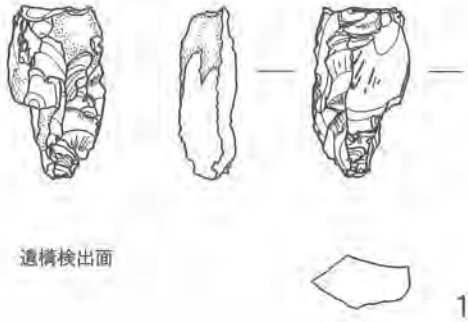
8号F1層

18



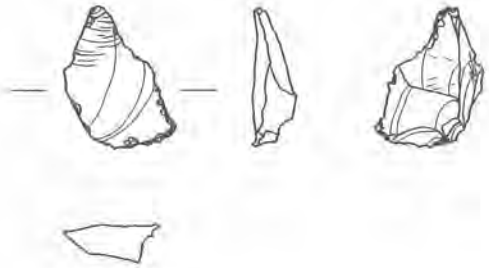
遺構検出面

19



遺構検出面

18



8号覆土

21

0 1:2 6cm

第17図　出土遺物（3）

d．１号、４号掘立柱建物跡、２８号炉跡（第18図）

調査区の中央部の南北に延びる段の上場に沿って遺構が集中して並ぶ。北から１号掘立柱建物跡、４号掘立柱建物跡、２８号炉跡の順序である。

覆土ａ層、ｂ層は、１号建物、４号建物に共通するシルト質の暗褐色土を主体とする覆土である。その直下から後述する多数の焼土遺構が出土している。

遺物は主に陶磁器、鉄製品、銅製品などである。

１号ａ掘立柱建物跡（第18図）

もっとも北に位置する削平面に伴う。平面形は、桁行5間、梁行2.5間の長方形である。規模は、桁行総延長10.0m、梁行延長5.2mである。軸方位はＮ１８°Ｅである。柱間寸法は、桁行は正確に２.0mであるが、梁行では、南側で1.6m－1.6m－2.0m、北側で1.2m—1.6m－0.9mである。柱穴の掘り方では、西側の桁柱の規模が大きく、最初に大きく浅く掘り込んで、次にやや狭く深く掘り込むという方法を一様に採用している。

１号ｂ掘立柱建物跡（第18図）

１号ａ建物と重複する。平面形は、桁行3間、梁行2間の長方形である。
規模は、桁行延長4.9m、梁行延長4.3mで、やや正方形に近い小規模の建物である。軸方向は、ｐ56→ｐ15の方向で、Ｅ26°Ｓである。

１号ａ建物、１号ｂ建物の柱穴のなかには後述する周辺の焼土遺構の下から検出しているものもあり、敷地内に散在する焼土遺構よりは古いことは判明したが、１号ａと１号ｂ建物の切り合いについては、埋土層からは判断できなかった。遺構の配置から、１号ａ建物を建てた削平面を利用して１号ｂ建物を建設した可能性が高い。また、焼土遺構なかでも１号焼土は、配置から１号ｂ建物に伴うものと思われる。

４号ａ掘立柱建物跡（第18図）

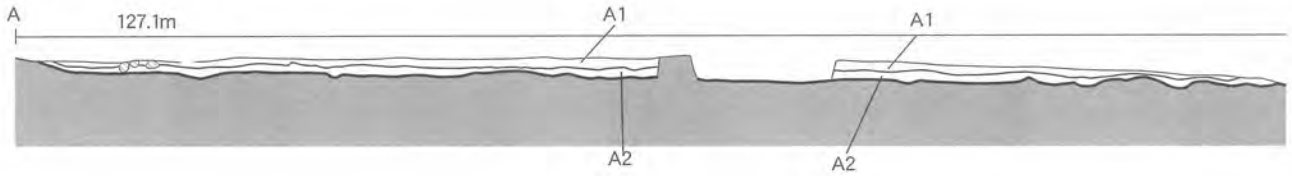
中央の削平面に伴う建物跡である。平面形は、桁行3間、梁行3間の長方形である。規模は桁行延長6.8m、梁行延長4.7m、ｐ264→ｐ68が軸方向で、Ｎ25°Ｅである。
建物の西側で、4号ａ建物に伴う削平面と並行して延びる溝跡とわずかな削平面、小土坑跡を検出した。4号ａ建物に伴う入り口などの施設が考えられる。また、敷地内でいくつか焼土遺構を検出している。そのうち柱穴が12号、１６号の焼土を切っていることが分かり、4号焼土は、検出状況、配置などから4号ａ建物に伴うものと判断した。

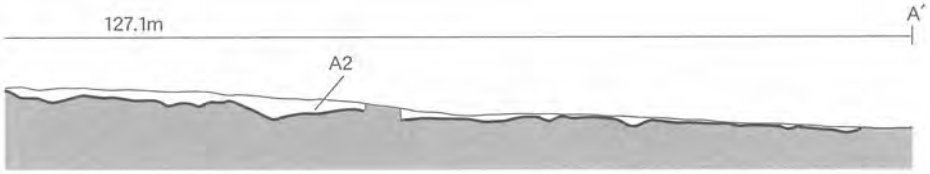
4号ｃ掘立柱建物跡、4号ｂ溝跡（第18図）

4号ａ建物の南に位置し、南北にほぼ平行して延びる2本の溝跡、削平面を検出し、削平面からは柱穴跡、焼土遺構、溝跡などが出土した。

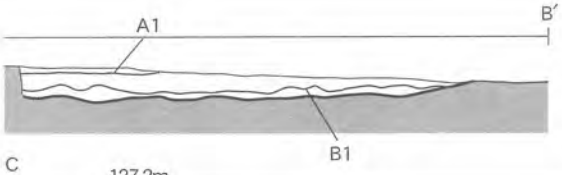
4号ｃと平行して延びる西側4号ｂ溝跡は、配置、規模からみて4号ｃ建物に伴う入り口など

第18図　1号、4号掘立柱建物跡、畝跡、焼土遺構



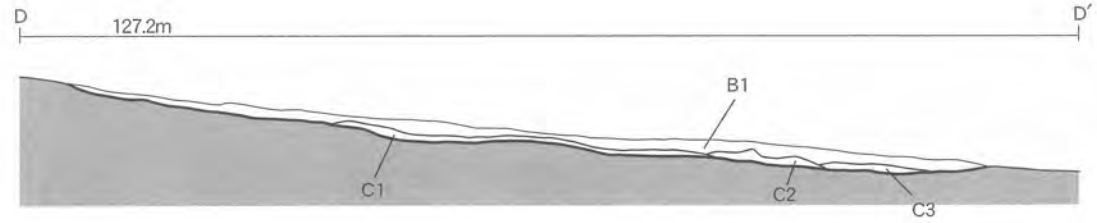


A１　10ＹＲ3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10% 固めで、やや密に締まる　赤色粒、炭化物
A２　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　30% 固めで、やや密に締まる　炭化物1%



3号土抗

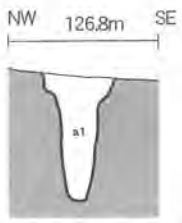
ａ１　１０ＹＲ3/3 暗褐、砂壌土　10ＹＲ4/3 にぶい黄褐、砂壌土　1% 固さ、締りは中
ａ２　１０ＹＲ4/4 褐、砂壌土　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土　10% 固めで、やや密に締まる
ａ３　１０ＹＲ3/4 暗褐、砂壌土　１０ＹＲ4/4 褐、砂壌土　30% 固さ、締りは中
ａ４　１０ＹＲ3/4 暗褐、砂壌土　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土　30% 固めで、やや密に締まる



Ａ１　10ＹＲ4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ5/4 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　2% 固さ、締りは中
Ｂ１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　20% 固めで、やや密に締まる
Ｃ１　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　40% 固めで、やや密に締まる
Ｃ２　１０ＹＲ3/3 暗褐、砂壌土　７.５ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10% 固さ、締りは中
Ｃ３　１０ＹＲ3/4 暗褐、砂壌土　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土　20% 固めで、やや密に締まる

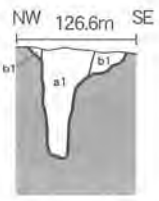
0　1:50　2m

第19図　１号、４号建物土層断面



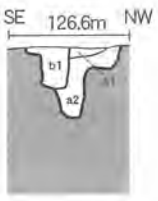
p58

a 1　10YR3/3 暗褐、砂壌土　10YR4/4 褐、砂壌土 2% 固さ、締りは中
a 2　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/3 にぶい黄褐 砂壌土　2% 固さ、締りは中



p66

a 1　10YR3/3 暗褐 シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土 10% 固めで、やや密に締まる
b 1　10YR3/4 暗褐 シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土 2% 固さ、締りは中



p57

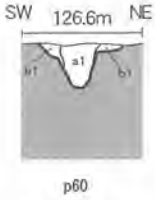
a 1　10YR3/4 暗褐 シルト質壌土　10YR 4/4 褐、シルト質壌土 10% 固さ、締りは中
a 2　10YR3/4 暗褐 シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土 2% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土 10% 固さ、締りは中

p55

a 1　10YR3/4 暗褐 シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土 10% 固さ、締りは中
a 2　10YR3/4 暗褐 砂壌土　10YR4/4 褐、砂壌土　10% 固さ 締りは中

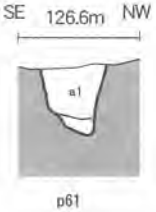
p59

a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土 10% 固さ、締りは中
a 2　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土 2% 固さ、締りは中



p60

a 1　10YR3/4 暗褐 砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土　1% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/4 褐、砂壌土　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10% 固さ、締りは中



p61

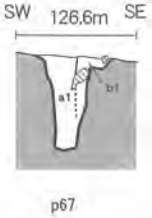
a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土 2% 固さ、締りは中

p65

a 1　10YR3/3 暗褐、シルト質壌土 10YR5/4 にぶい黄褐、シルト質壌土 5% 固めでやや密に締まる

p63

a 1　10YR3/3 暗褐 砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土 5% 軟、やや締りがない



p67

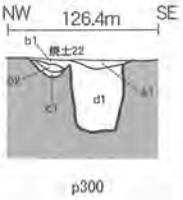
a 1　10YR 3/4 暗褐、砂壌土　10YR 4/6 褐、砂壌土 5% 固めで、やや密に 締まる
b 1 10YR4/4 褐、砂壌土　10YR3/4 暗褐、砂壌土 10% 固めで、やや密に締まる

p301

a 1　10YR3/3 暗褐、シルト質壌土　10YR4/5 褐 粘土質　3% 固さは中、やや締りがない
b 1　10YR4/4 褐、シルト質壌土 10YR6/4 にぶい黄橙、シルト質壌土 10% 固めで、やや密に締まる

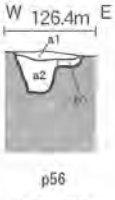
p308

a 1　10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土　3% 固さ 締りは中
b 1　10YR4/6 褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐 シルト質壌土　2% 固さ、締りは中



p300

a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐 砂壌土　3% 固めで、やや密に締まる
b 1　2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土　2% 固く、締まる
b 2　5YR4/6 赤褐、シルト質壌土　7.5YR4/6 褐 シルト質壌土　10% 固めで、やや密に締まる
d 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐 砂壌土　3% 固いが、やや締まりがない

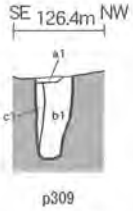


p56

a 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐 シルト質壌土　10% 固さ、締りは中
a 2　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐 シルト質壌土　10%
a 1 より疎
b 1　10YR 4/6 褐、シルト質壌土　固く、締まる

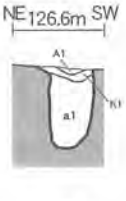
p54

a 1　10YR2/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土　10% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR3/4 暗褐 シルト質壌土　3% 固めで、やや密に締まる



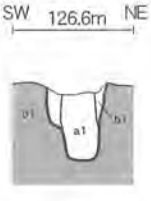
p309

a 1　10YR6/4 にぶい黄橙、粘土　10YR3/4 暗褐、砂壌土　1% 固く、締まる
b 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐 粘土地　2% やや軟、締りは中
c 1　10YR4/6 褐、シルト質壌土　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10% 固め、締りは中



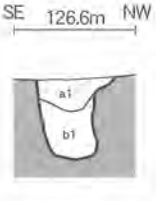
p85

k 1、k 1は焼土17（図25）
a 1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土　2% 固く、締りは中



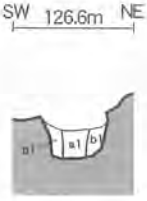
p255

a 1　10YR4/4 褐 砂壌土　10YR5/6 黄褐、砂壌土　2% 固め、締りは中
b 1　10YR4/3 にぶい黄褐、砂壌土　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土　2% 固め 締りは中



p52

a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐 砂壌土　10% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/4 褐、砂壌土　10YR3/4 暗褐 砂壌土　10% 固さ、締りは中

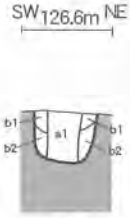


p64

a 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質壌土　5% 固さ 締りは中
b 1　10YR4/4 褐 シルト質壌土　10YR 5/4 にぶい黄褐、シルト質壌土　10% 固さ、締りは中

p15

a 1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/4 褐 砂壌土　10% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/3 にぶい黄褐、砂壌土　10YR 3/4 暗褐、砂壌土　20% 固さ、締りは中



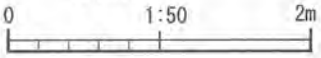
p17

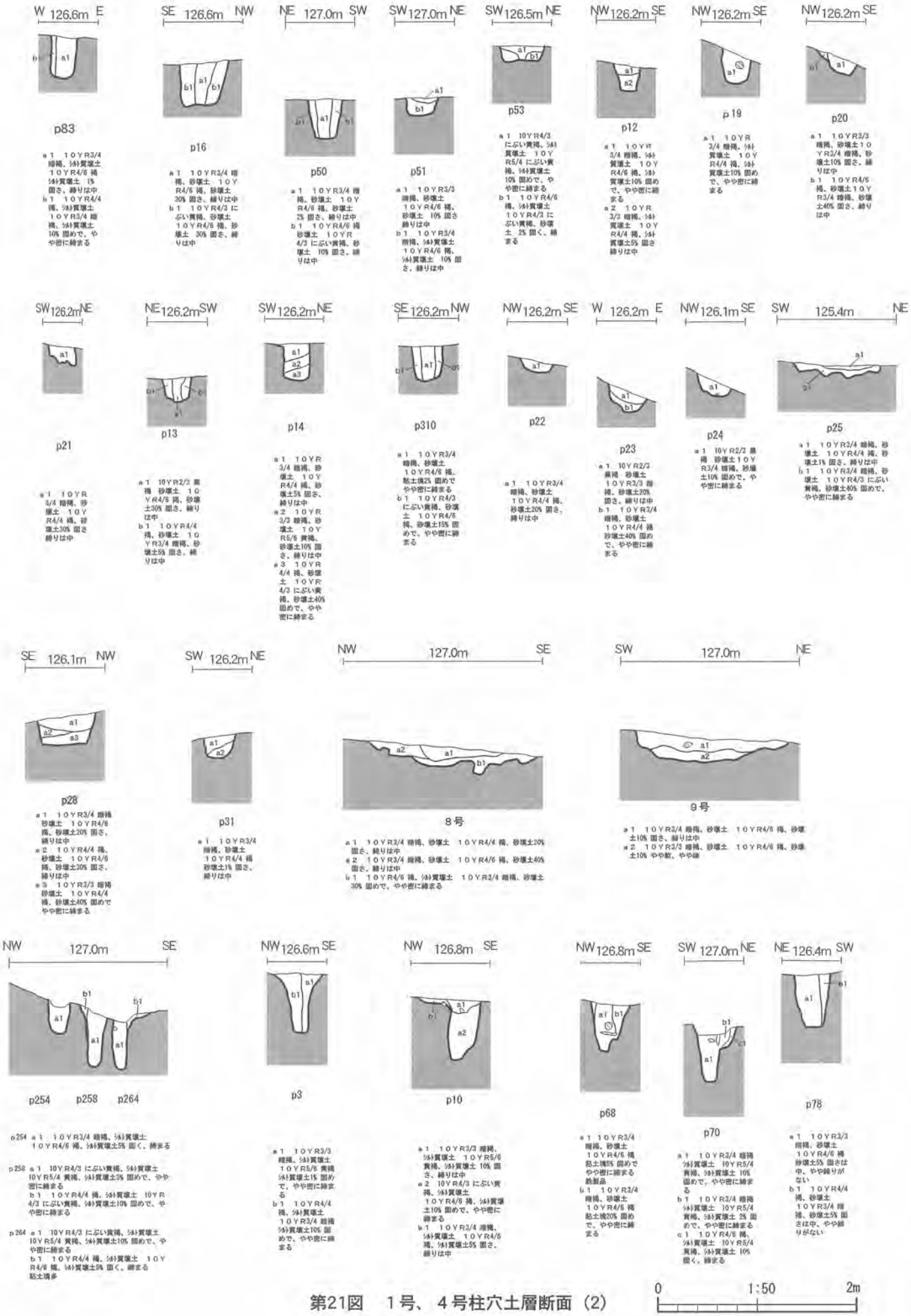
a 1　10YR 3/4 暗褐、砂壌土　10YR 4/6 褐、砂壌土 10% 固さ、締りは中
b 1　10YR 4/3 にぶい黄褐 砂壌土　10YR4/4 褐、砂壌土　10% 固さ、締りは中
b 2　7.5YR 4/4 褐、シルト質壌土　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土　40% 固さ、締りは中

p26

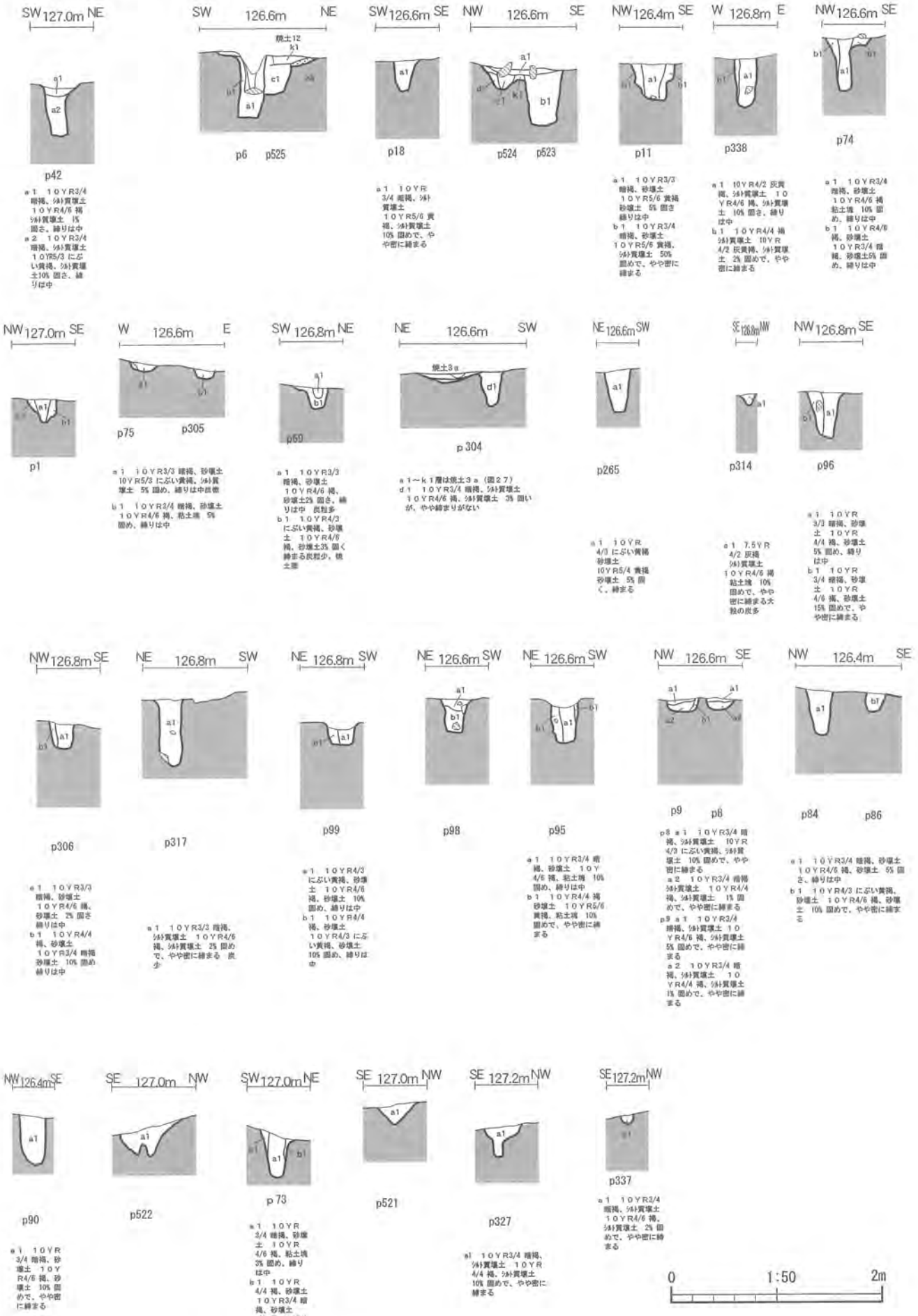
a 1　7.5YR 3/2 黒褐、砂壌土　10YR4/4 褐、砂壌土 10% 固さ、締りは中
b 1　10YR4/3 にぶい黄褐、砂壌土　10YR 3/4 暗褐、砂壌土　1% 固さ、締りは中

第20図　1号、4号柱穴土層断面（1）

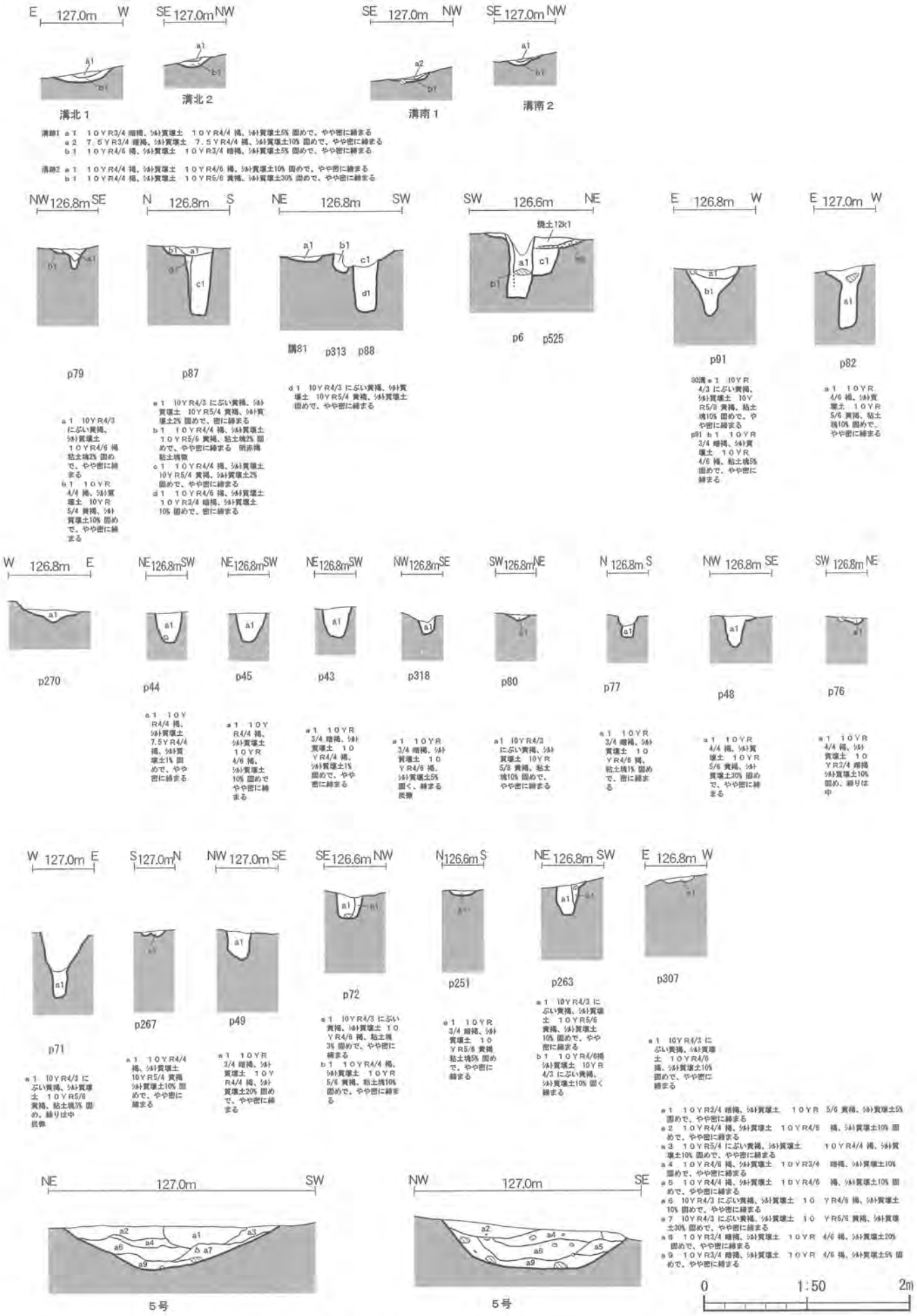




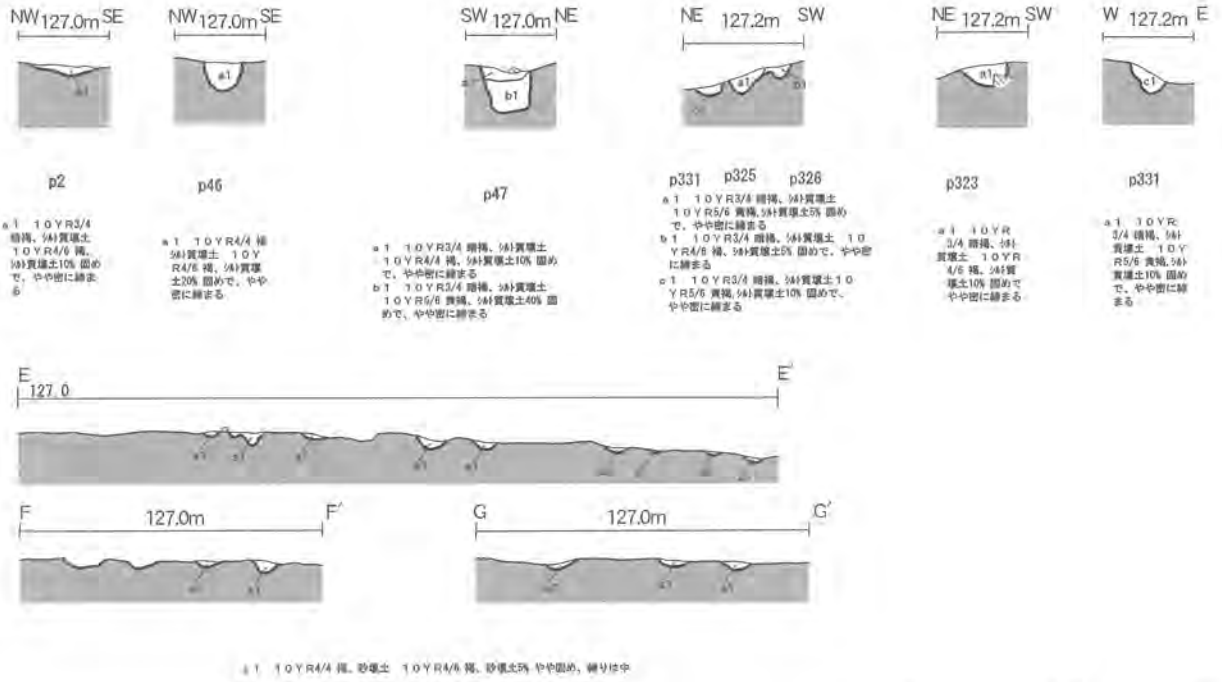
第21図　1号、4号柱穴土層断面（2）



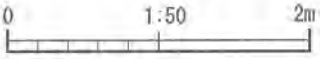
第22図　１号、４号柱穴土層断面（3）



第23図　1号、4号土層断面（4）



第24図　1号、4号柱穴土層断面、畝跡（5）



の施設と思われる。柱穴跡ｐ88、ｐ71、ｐ91、ｐ82などは床面の溝跡（畝跡？）の下から検出した。

4号ｃ建物削平面に伴う柱穴跡として、桁柱ｐ87－ｐ88－ｐ71、梁柱ｐ71－ｐ6ｂが想定できるが、全体は把握できなかったので、規模は不明である。規模は、桁行延長4.1m、梁行1.9m、主軸方向は、ｐ87→ｐ71、N7°Ｅである。

切り合いの関係は、ｐ6ｂ、ｐ67の出土状況から４号ｃ建物は4号ａ建物に切られている。

４号ｄ畝跡（第18図）

4号ａ建物跡の南に位置する削平面に伴う溝状の遺構である。西側の壁と直交する方向に並ぶ。規模は南北9.5m、東西3.5mである。溝跡の他には、小規模な土坑、焼土などが検出している。

出土状況、配置から４号ａに伴うものと判断した。

５号土坑跡（第18図）

４号ｃ建物跡の南に位置する。平面形は円形のやや規模の大きい土坑跡である。規模は2.2m×1.8m、深さ0.45mである。埋土層は、固く密に締まったシルト質の暗褐色土であるが、遺物は出土せず底面に多くの礫が残されていた。

配置から4号ａ、４号ｃ建物跡、４号d畝跡に伴うものと思われる。用水、あるいは厠などの施設跡かと思われる。

焼土遺構（第25図～29図）

１号焼土（第25図）

１号ｂ建物跡のほぼ中央に位置する。平面形は円形である。規模は、径0.8mである。ｋ１層は、明瞭な焼土層ではなく、焼土混じりの褐色土である。焼土層からは遺物は出土していない。配置から１号ｂ建物跡に伴うものと思われる。

２４号焼土（第25図）

１号焼土の西側に位置する。平面形は円形で、規模は径約40ｃｍである。ｋ１層が固く密に焼き締まった焼土層である。焼土層は微量の貝類を含む。

１７号、１８号、１９号焼土（第25図）

１号ａ建物跡の中央に並ぶ小規模な焼土遺構である。

１７号は、円形のプランで、規模は径は約35ｃｍである。ｋ１層が固く焼き締まった焼土層である。焼土層から貝類、炭などが出土している。直下から１号ｂ建物跡の柱穴ｐ87が出土している。

１８号は、プランは不整楕円形で、規模は40ｃｍ×35ｃｍである。ｋ３層が、やや密な焼土層である。焼土から遺物は出土していない。

１９号は、楕円形のプランで、規模は40ｃｍ×25ｃｍである。ｋ６層が焼土層である。焼土から貝類、炭などが少量出土している。

２３号焼土（第25図）

１号ａ建物跡の南に位置する。平面形は隅丸の長方形で、規模は65ｃｍ×40ｃｍである。ｋ１層は、明瞭な焼土層ではなく、焼土、粘土塊の混じった褐色土である。焼土からの遺物は炭のみである。

２０号、２１号焼土（第26図）

２３号焼土の東に位置する。平面形はいずれも楕円形である。

２０号は、規模が50ｃｍ×30ｃｍである、ｋ１，ｋ３層が焼き締まった焼土層である。焼土から貝類が出土している。２１号は、規模が70ｃｍ×55ｃｍである。ｋ５層が焼き締まった焼土層で、ｋ６層は灰を含む。焼土からは魚骨、貝類、炭などが出土している。

２２号焼土（第26図）

１号ａ建物跡の南東部に位置する。平面形は楕円形である。規模は75ｃｍ×60ｃｍである。ｋ１層はブロック状の粘土層である。ｋ２層が固く焼き締まった焼土層である。焼土からは貝類、炭などが少量出土している。直下から１号ａ建物跡の柱穴ｐ300が出土している。

１４号焼土（第26図）

２２号焼土の南に位置する。検出当初やや規模の大きな焼土と炭の広がりであったが、３箇所の焼土となった。

１４号ａ焼土

平面形は楕円形である。規模は90ｃｍ×58ｃｍ、焼成面までの深さは12ｃｍである。ｋ１層が固く焼き締まった焼土層である。ｂ１層は灰を含むシルト質のにぶい黄褐土である。

１４号ｂ焼土

平面形は不整楕円形である。規模は40ｃｍ×30ｃｍである。ｋ１層は、明瞭な焼土層ではなく、焼土、粘土混じりの暗褐色土である。

１４号ｃ焼土

平面形は不整楕円形である。規模は65ｃｍ×55ｃｍ、焼成面までの深さは12ｃｍである。ｋ１層が焼土層であるが、あまり焼き締まっていない。

１４号ｂ、ｃの焼土から貝類、焼骨片などが出土している。

３号焼土（第27図）

１４号焼土の南に位置する。１４号焼土と同じように大きな焼土と炭の広がりとして検出したが、２箇所の焼土遺構であることが判明した。３号ａは炉跡であるが、３号ｂは焼土、灰の二次堆積層である。

３号ａ焼土は、平面形は不整円形で、規模は60ｃｍ×50ｃｍで、焼成面までの深さは4ｃｍである。ａ１、ｂ１層は多くの焼土や灰の混じった灰黄褐土である。ｋ１層は灰混じりの固く焼き締まった焼土層である。

３号ｂ焼土ｂのａ１層は灰が多く混入し、ｂ１層は焼土を含むやや軟質の堆積土である。

３号ａ、ｂのいずれの焼土からも貝類、魚骨などが出土している。

２号焼土（第27図）

３号焼土の南東に位置する。平面形は不整円形である。規模は径約60ｃｍ、焼成面までの深さは12ｃｍである。ｋ２層が焼土層であるが、あまり焼き締まってはいない。焼土からは貝類、焼骨片などが出土している。

１６号焼土（第27図）

２号焼土の南東に位置する。２つの柱穴ｐ524、Ｐ525に切られている。平面形は楕円形である。規模は、約65ｃｍ×55ｃｍと推定され、焼成面までの深さは4ｃｍである。ｋ１層が固く焼き締まった焼土層である。

１５号焼土（第27図）

１６号焼土の南に位置する。平面形は楕円形である。規模は65ｃｍ×50ｃｍ、焼成面までの深さは2ｃｍである。ｋ１は固く焼き締まった焼土層である。焼土には貝類、魚骨などが含まれていた。

１１号～１３号焼土（第28図）

１５号焼土の南に縦列に並ぶ。

１３号焼土は、平面は円形である。規模は径約45ｃｍ、ｋ１層が固く焼き締まった焼土層である。焼土には少量の貝類、炭が含まれていた。

１２号焼土は、平面形は円形である。柱穴ｐ6に切られ、Ｐ525を切っている。平面形は円形で、規模は径約95ｃｍである。焼成面までの深さは10ｃｍである。ｋ１層が固めに焼き締まった焼土層である。焼土には貝類、炭が含まれていた。

１１号焼土は、平面形は楕円形で、規模は80ｃｍ×70ｃｍである。焼成面までの深さは最深部で18ｃｍである。ｋ１層が固く焼き締まった焼土層である。ａ１層から船釘が出土している。焼土には貝類、魚骨、炭のほかに微量の炭化米が含まれていた。

２５号焼土（第28図）

４号ａ建物跡の中央部に位置する。遺構は小規模なものであるが、北側に方形の削平面、南側に還元焼成と酸化焼成の部分からなる焼土で構成される。還元焼成部は円形で、径約20ｃｍ、層厚は約2ｃｍである。直下から柱穴跡が出土しており、柱穴の窪みを利用して構築したとも考えられる。焼土には少量の貝、炭が含まれていた。

４号焼土（第28図）

４号建物跡の南側中央部に位置する。不整方形の焼土と炭の分布として検出し、その中に４箇所還元焼成を受けた部分が見られた。４ｂ焼土は検出段階で消滅するほど薄く、層厚は記録できなかった。

４ａ焼土は円形の還元焼成部と北側の横に延びる酸化焼成部分から成る。還元焼成部の規模は25ｃｍ×20ｃｍ、層厚は約3ｃｍである。

４ｃ焼土は、弧状の還元焼成部分が円形の酸化焼成部分を囲むような形で検出したが、明瞭な固い還元焼成ではない。直下から柱穴ｐ350が出土しており、柱穴の窪みを利用したものと考えられる。

焼土遺構の下から不整方形の掘り込みが出土し、床面から溝跡、土坑跡などが検出した。Ａ１層は、鉄滓、炭、貝類、魚骨などを含んでいた。また、ｐ346の覆土からは炭化種子、骨、貝類、炭などが出土している。

９号、１０号焼土（第29図）

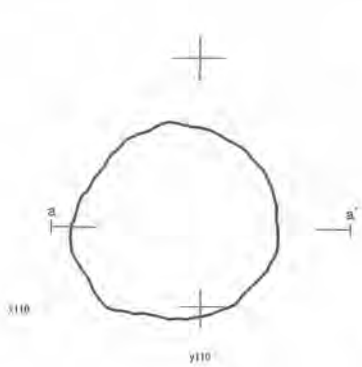
４号ｃ建物跡の南部に位置する。１０号は平面形は円形で、規模は径25ｃｍである。ｋ１層は固いが薄い焼土層である。焼土は遺物を含んでいない。９号は、平面形は楕円形で、規模は85ｃｍ×60ｃｍである。ｋ１層は明瞭な焼土層ではなく、焼土が多く混入する固めの暗褐色土である。

８号焼土（第29図）

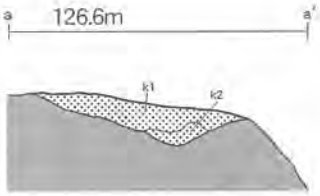
５号土坑の東に位置する。平面形は不整円形で、規模は径40ｃｍである。ｋ１層は固く密に焼き締まった焼土層である。

６号、７号焼土（第29図）

５号土坑跡の南に位置する。６号は平面形は楕円形で、規模は50ｃｍ×25ｃｍである。７号は平面形は円形で、規模は径30ｃｍである。ｋ１、ｋ２層ともに固く焼き絞まった焼土層である。

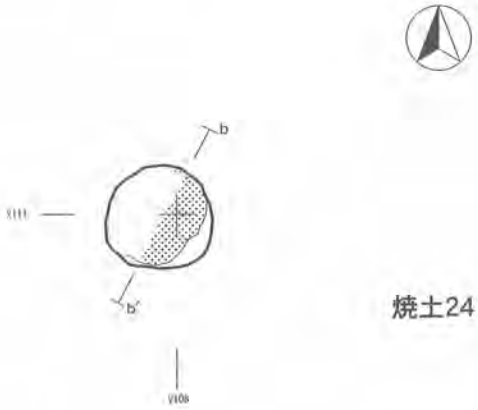


焼土1

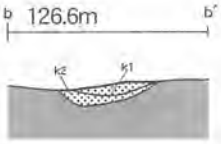


焼土1

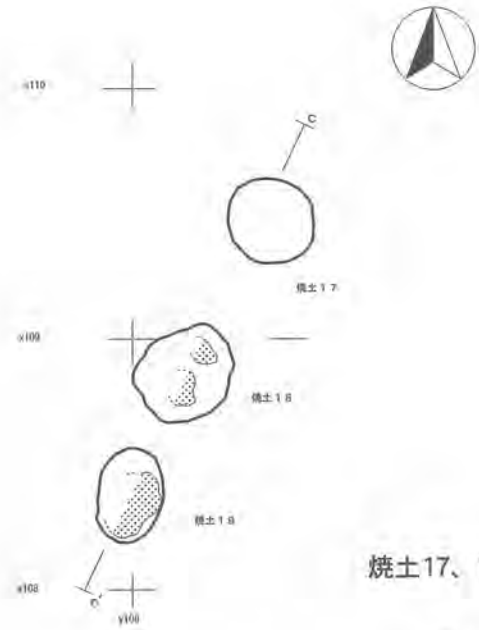
k1　10YR4/6 褐、砂壌土 5YR4/8 赤褐、砂壌土　30% やや固め、縁りは中
k2　10YR4/6 褐、砂壌土 7.5YR4/6 褐、砂壌土　10% やや軟、縁りはあまりない



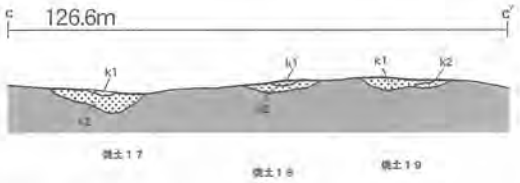
焼土24



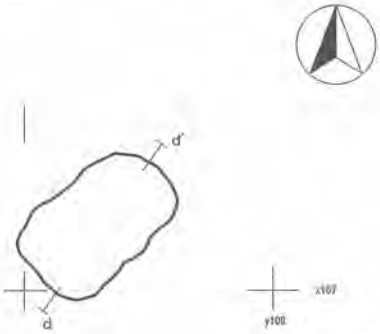
k1　2.5YR4/8 赤褐、砂壌土　2.5YR4/8 赤褐、砂壌土10% 固く、締まる
k2　5YR4/6 赤褐、砂壌土　7.5YR4/6 褐、砂壌土10% 固く、締まる



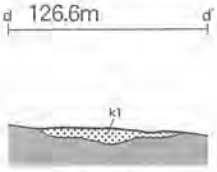
焼土17、18、19



焼土17　k1　5YR4/8 赤褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、砂壌土2% 固く、締まる
　　k2　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土　10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土10% 固く、縁りは中
焼土18　k1　5YR4/4 にぶい赤褐、シルト質壌土　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土20% 固めで、やや密に締まる
　　k2　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
焼土19　k1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土2% 固めで、やや密に締まる
　　k1　5YR4/4 にぶい赤褐、シルト質壌土　10YR5/6 黄褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる

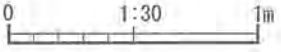


焼土23

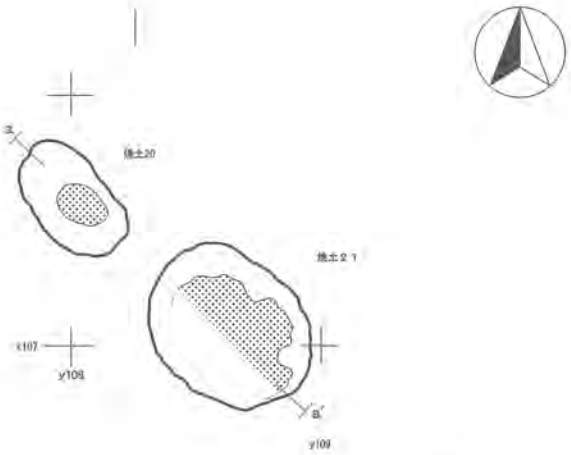


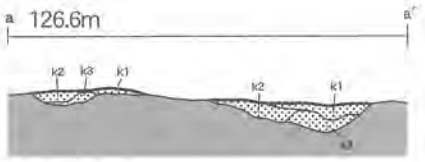
焼土23

k1　7.5YR4/4 褐、シルト質壌土　7.5YR4/6 褐、粘土5% 固めで、やや密に締まる 粘土ブロック、焼土多、炭微



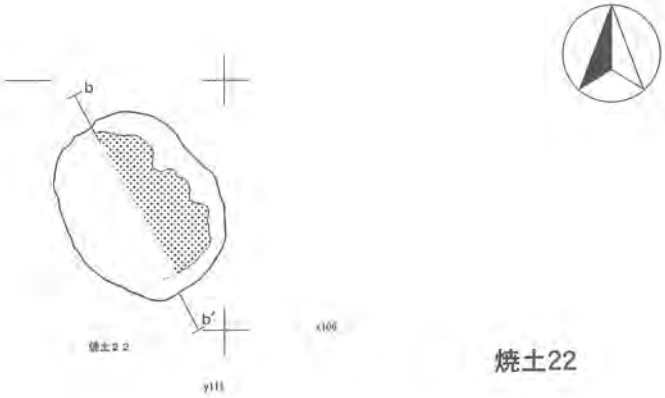
第25図　焼土遺構（1）

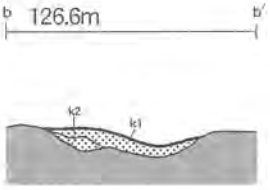




焼土20、21

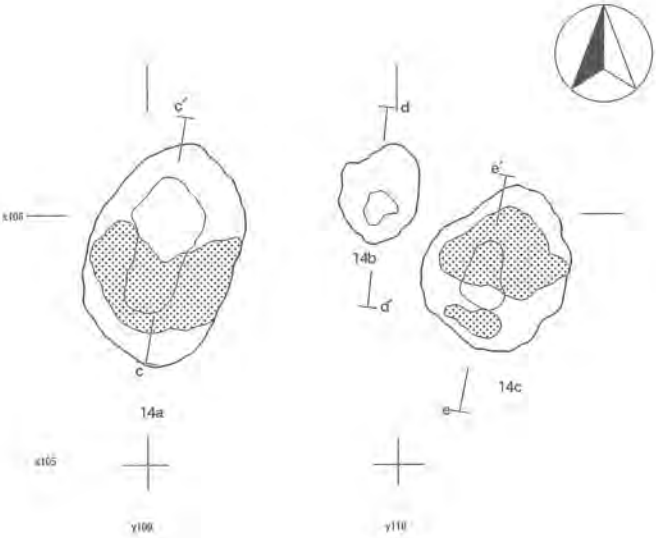
焼土20　k１　2.5ＹＲ4/6 赤褐、砂壌土　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土2% 固めで、やや密に締まる
　　k２　１０ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土　１０ＹＲ3/4 暗褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
　　k３　2.5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土　5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
焼土21　k１　7.5ＹＲ3/4 暗褐、シルト質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土10% やや軟、締りはあまりない
　　k２　2.5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土　5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
　　k３　7.5ＹＲ4/2 灰褐、シルト質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる　灰層

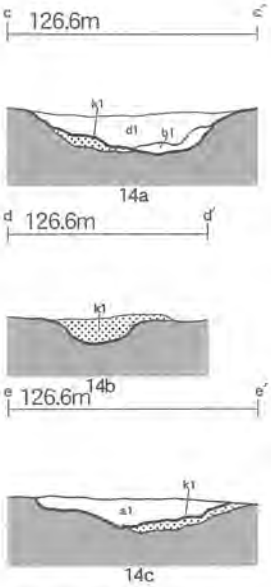




焼土22

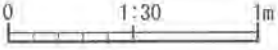
k１　2.5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土2% 固く、締まる
k２　5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土　7.5ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる



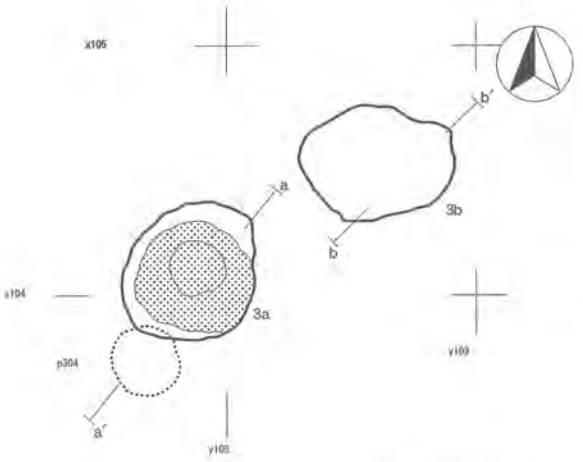


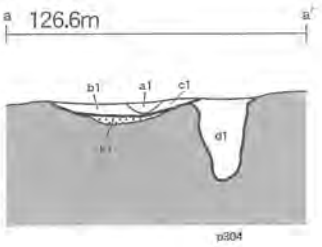
焼土14a, b, c

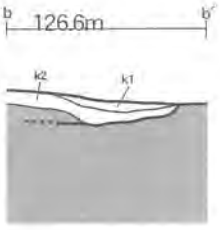
焼土14a　a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、シルト質壌土　10ＹＲ4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土5% 固めで、やや密に締まる焼土多
　　b１　１０ＹＲ5/4 にぶい黄褐、シルト質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土2% 固めで、やや密に締まる
　　k１　5ＹＲ4/6 赤褐、シルト質壌土　5ＹＲ4/3 にぶい赤褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
焼土14b　b１　１０ＹＲ3/4 暗褐、シルト質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、シルト質壌土　3% 固めで、やや密に締まる　焼土多
焼土14c　a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、シルト質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、粘土塊10% 固めで、やや密に締まる
　　b１　5ＹＲ3/6 暗赤褐、砂壌土　7.5ＹＲ3/4 暗褐、シルト質壌土15% 軟、締りがない



第26図　焼土遺構（2）





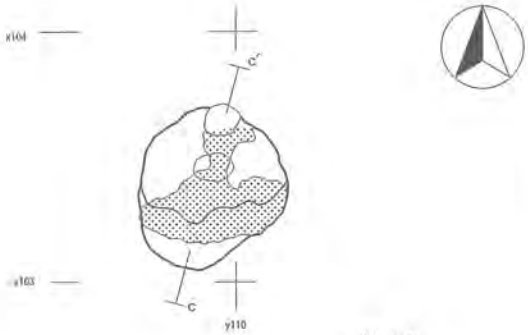


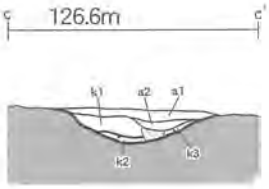
a 1　10YR3/3 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
b 1　10YR5/4 にぶい黄褐、シルト質壌土　10YR6/3 にぶい黄橙、シルト質壌土10% やや軟、締まる
c 1　5YR4/8 赤褐、シルト質壌土　5YR4/6 赤褐、シルト質壌土10% 固く、締まる
k 1　2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土　7.5YR6/3 にぶい褐、シルト質壌土　5% 固めで、やや密に締まる　灰多

k 1　10YR4/2 灰黄褐、シルト質壌土　10YR5/2 灰黄褐、シルト質壌土10% 固く、締りは中
k 2　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土10% 固く、締りは中　炭多

焼土3a、b

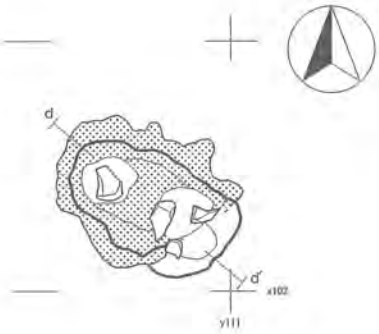
焼土3　a、b

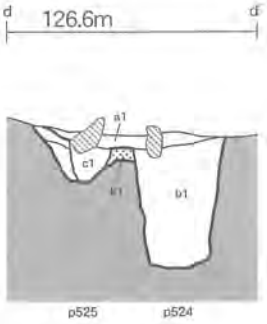




a 1　7.5YR5/3 にぶい褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、粘土塊3% 固めで、やや密に締まる
a 2　7.5YR4/6 褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、粘土塊3% 固めで、やや密に締まる
k 1　2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土10% 固さ、締りは中
k 2　5YR4/4 にぶい赤褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土10% 固さ、締りは中
k 3　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　5YR4/6 赤褐、シルト質壌土15% 軟、締りがない

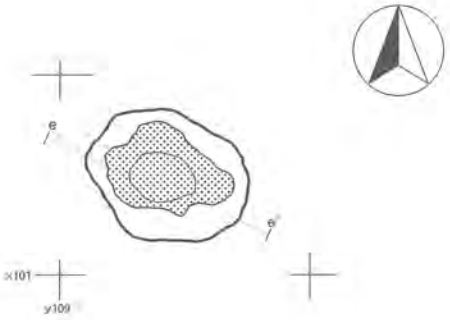
焼土2

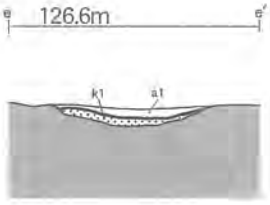




焼土16

a 1　7.5YR4/3 褐、砂壌土　10YR4/6 褐、粘土塊　3% 固め、締りは中
b 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土2% 固め、締りは中
c 1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土10% 固め、締りは中
d 1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土5% 固め、締りは中
k 1　2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土　10YR3/2 黒褐、シルト質壌土1% 固めで、やや密に締まる



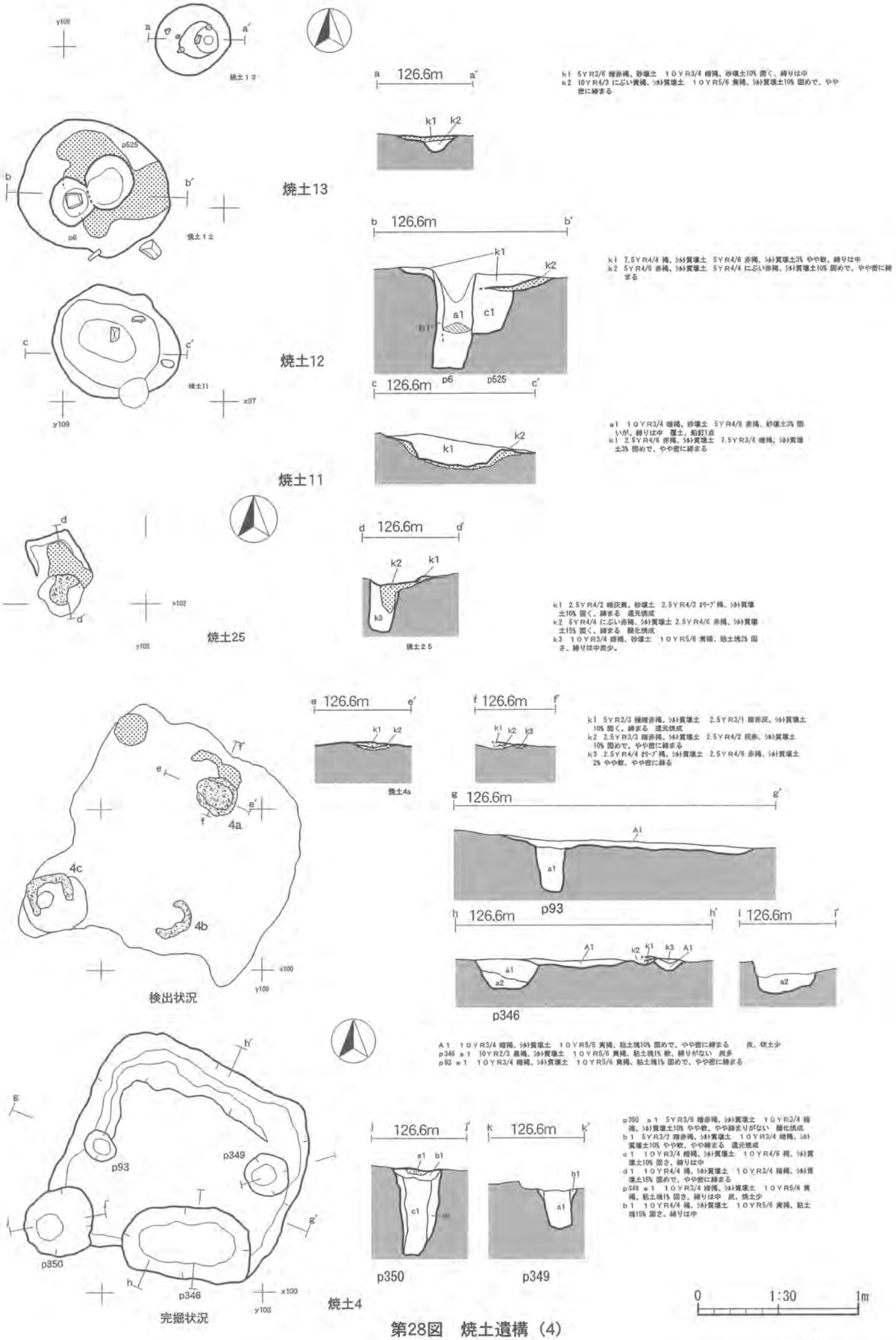


a 1　7.5YR3/2 黒褐、砂壌土　10YR4/6 褐、粘土塊 5% 固く、締りは中
k 1　2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土 10YR3/3 暗褐、シルト質壌土3% 固く、締まる

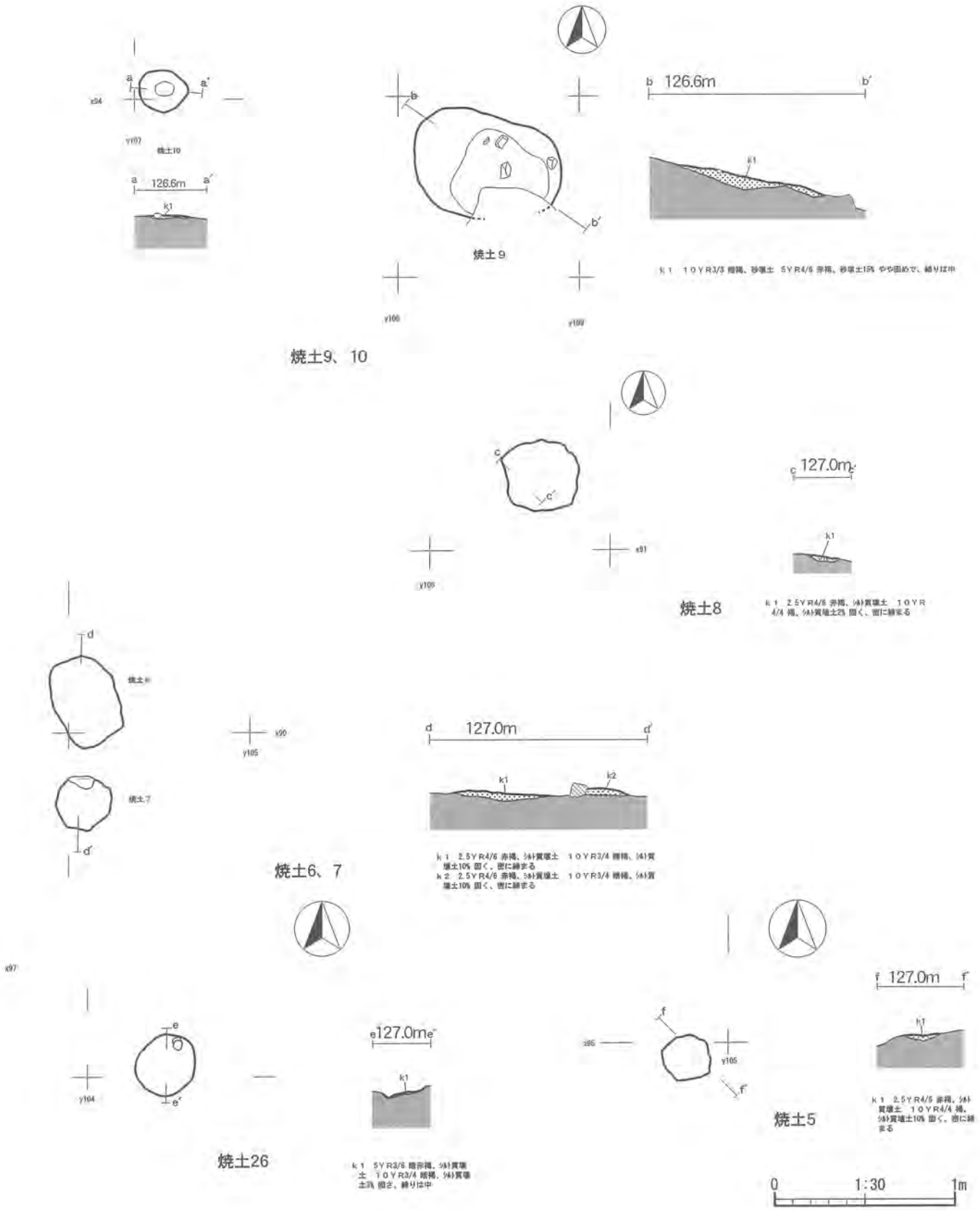
焼土15

0　1:30　1m

第27図　焼土遺構（3）


焼土13
焼土12
焼土11
焼土25
検出状況
完掘状況
焼土4
p93
p346
p350
p349
126.6m
k1 5YR3/6 暗赤褐、砂壌土 10YR3/4 暗褐、砂壌土10% 固く、締りは中
k2 10YR4/3 にぶい黄褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
k1 7.5YR4/4 褐、シルト質壌土 5YR4/6 赤褐、シルト質壌土3% やや軟、締りは中
k2 5YR4/6 赤褐、シルト質壌土 5YR4/4 にぶい赤褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
a1 10YR3/4 暗褐、砂壌土 5YR4/6 赤褐、砂壌土3% 固いが、締りは中 種土、船釘1点
k1 2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土 7.5YR3/4 暗褐、シルト質壌土3% 固めで、やや密に締まる
k1 2.5YR4/2 暗灰黄、砂壌土 2.5YR4/2 オリーブ褐、シルト質壌土10% 固く、締まる 還元焼成
k2 5YR4/4 にぶい赤褐、シルト質壌土 2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土15% 固く、締まる 酸化焼成
k3 10YR3/4 暗褐、砂壌土 10YR5/6 黄褐、粘土塊2% 固さ、締りは中炭少。
k1 5YR2/3 暗暗赤褐、シルト質壌土 2.5YR3/1 暗赤灰、シルト質壌土10% 固く、締まる 還元焼成
k2 2.5YR3/3 暗赤褐、シルト質壌土 2.5YR4/2 灰赤、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる
k3 2.5YR4/4 オリーブ褐、シルト質壌土 2.5YR4/6 赤褐、シルト質壌土2% やや軟、やや密に締まる
A1 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、粘土塊10% 固めで、やや密に締まる 炭、焼土少
p346 a1 10YR2/3 黒褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、粘土塊1% 軟、締りがない 炭多
p93 a1 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、粘土塊1% 固めで、やや密に締まる
p350 a1 5YR3/6 暗赤褐、シルト質壌土 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土10% やや軟、やや締まりがない 酸化焼成
b1 5YR3/2 暗赤褐、シルト質壌土 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土10% やや軟、やや締まる 還元焼成
c1 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR4/6 褐、シルト質壌土10% 固さ、締りは中
d1 10YR4/4 褐、シルト質壌土 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土15% 固めで、やや密に締まる
p349 a1 10YR3/4 暗褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、粘土塊1% 固さ、締りは中 炭、焼土少
b1 10YR4/4 褐、シルト質壌土 10YR5/6 黄褐、粘土塊15% 固さ、締りは中
0 1:30 1m

第28図 焼土遺構（4）


焼土10
a 126.6m a′
k1
焼土9
b 126.6m b′
k1
k1 10YR3/3 暗褐、砂質土 5YR4/6 赤褐、砂質土15% やや固めで、縁りは中
焼土9、10
焼土8
c 127.0m c′
k1
k1 2.5YR4/6 赤褐、シルト質土 10YR 4/4 褐、シルト質土2% 固く、密に締まる
焼土6
焼土7
d 127.0m d′
k1 k2
k1 2.5YR4/6 赤褐、シルト質土 10YR3/4 暗褐、シルト質土10% 固く、密に締まる
k2 2.5YR4/6 赤褐、シルト質土 10YR3/4 暗褐、シルト質土10% 固く、密に締まる
焼土6、7
焼土26
e 127.0m e′
k1
k1 5YR3/6 暗赤褐、シルト質土 10YR3/4 暗褐、シルト質土3% 固さ、縁りは中
焼土5
f 127.0m f′
k1
k1 2.5YR4/6 赤褐、シルト質土 10YR4/4 褐、シルト質土10% 固く、密に締まる
0 1:30 1m

第29図　焼土遺構（5）

５号、２６号焼土（第29図）

いずれも４号ｄ畝跡に伴って検出した小規模な焼土である。２６号は北側、５号は中央部の東端に位置する。いずれも平面形は円形である。２６号は、規模が敬30ｃｍ、ｋ１層は、ごく薄いやや焼き締まった焼土層である。５号の規模は径25ｃｍ、ｋ１層は固く焼き締った焼土層である。

２８号炉跡（第30、31図）

調査区中央部段の南端斜面際に位置する。

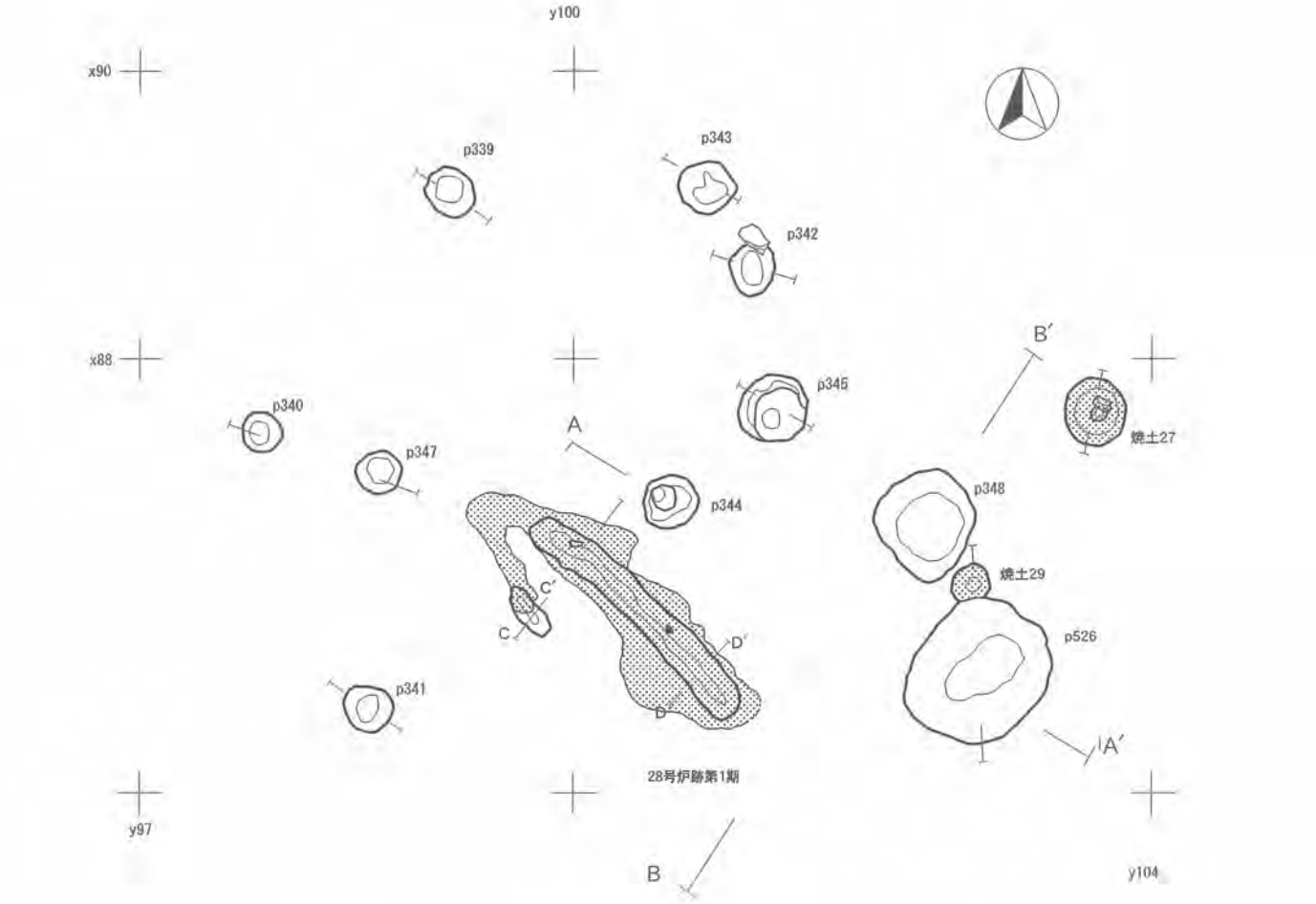
第１期　北西から南東に細長くのびる焼土面が検出され、さらに焼土の中から溝跡が出土し、溝跡からは鉄滓が１点出土している。周辺部からは小規模な焼土遺構（27、29）、柱穴跡、小土坑が検出している。この段階では何に使用されたのかは不明であるが、Ｂ１層からハンマースケールが少量ながら出土していることから鍛冶仕事の使用した可能性がある。

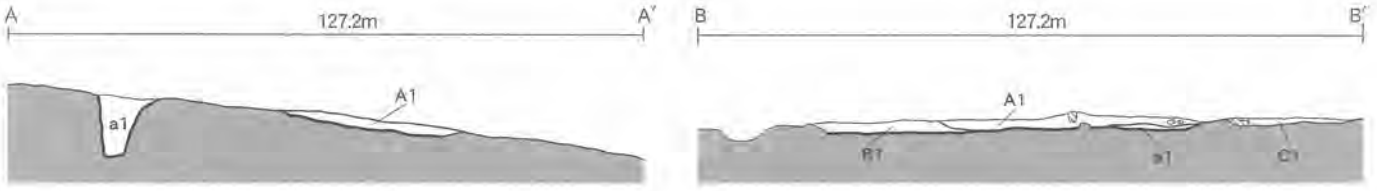
第２期　北西側に円形に組んだ石組が構築された時期である。断面で見るとＬ１、Ｍ１層上面を生活面とした時期で、床面から炭層を検出している。床面、壁は赤褐色に焼けている。

第３期　南東側の円形の石組を組んだ時期である。断面ではＱ１層上面である。やはり上面の一部から炭層が検出している。この時期には、断面からみて後述する第４期と同じように南東側の壁を作らないで使用していたと思われる。

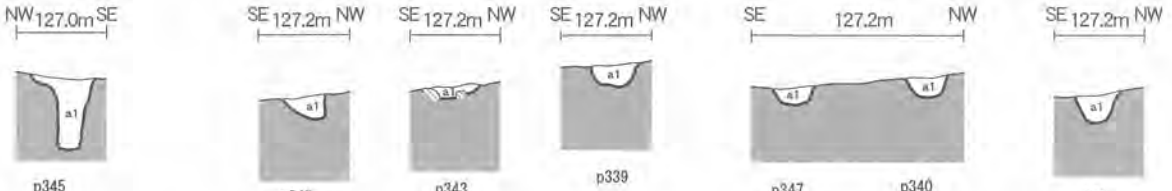
第４期　最終面である。中央部の細長い焼土面の両脇に礫を据えて使用した時期である。床面からは、石組の他に、中央部を炉の軸方向と並行して延びるる溝跡などが検出している。

周辺で小土坑跡が検出しているが、上屋などを構成する建物跡を確認することはできなかった。





A1　10YR3/4 暗褐、砂壌土　10YR4/6 褐、砂壌土10% 固め、縁りは中　炭、焼土少。明褐色粘土粒少
B1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR5/4 黄褐、シルト質壌土15% 固めで、やや密に締まる　焼土、炭多
C1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR5/6 黄褐、粘土塊10% 固く、締まる　炭少



a1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土5% 固めで、やや密に締まる　炭、中

a1　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土3% 固く締りは中

a1　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土5% 固めで、締りは中

a1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐　シルト質壌土2% 固めで、締りは中　炭少

a1　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土5% 固めでやや密に締まる

a1　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR 3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR 4/6 褐、シルト質壌土10% 固めで、やや密に締まる　炭微

p526

a1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土5% 固めで、やや密に締まる
b1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　10YR4/6褐　シルト質壌土1% 固めで、やや密に締まる
c1　5YR4/6 赤褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土10% 固く、締まる

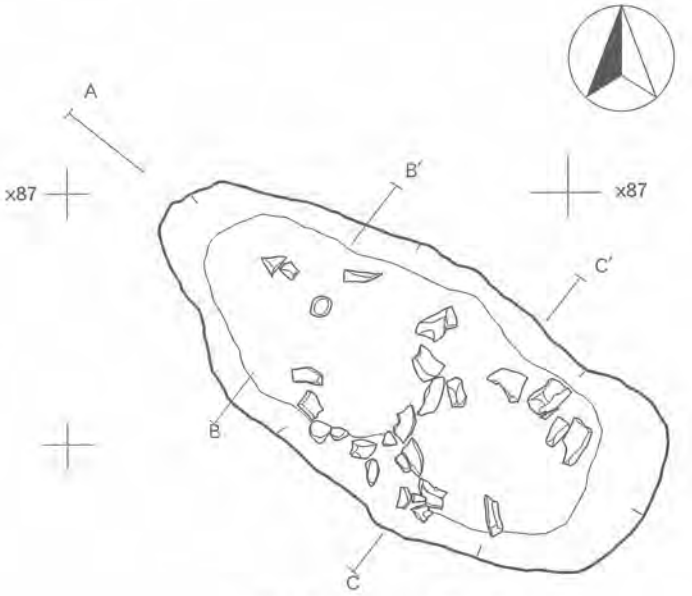
焼土27

a1　10YR4/4 褐、シルト質壌土　5YR4/6 赤褐、シルト質壌土15% 固めで、やや密に締まる
b1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/6 褐、シルト質壌土2% 固めで、やや密に締まる

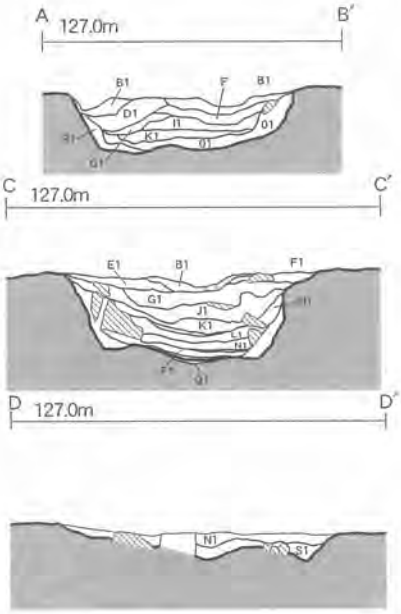
a1　10YR3/4 暗褐、シルト質壌土　10YR4/4 褐、シルト質壌土2% 固めで、やや密に締まる　焼土粒多、炭少、鉄滓数点

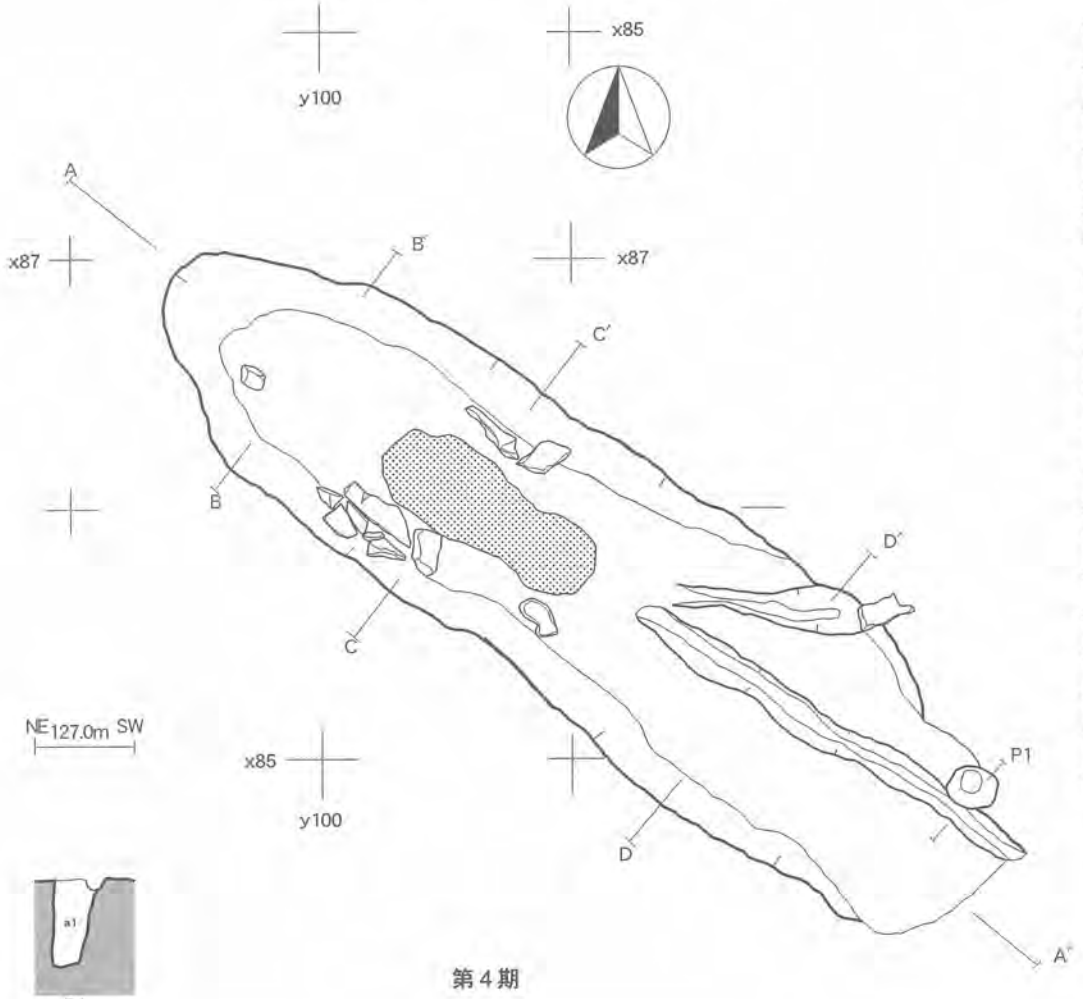
0　1:50　2m

第30図　28号炉跡（1）



第２期　　第３期

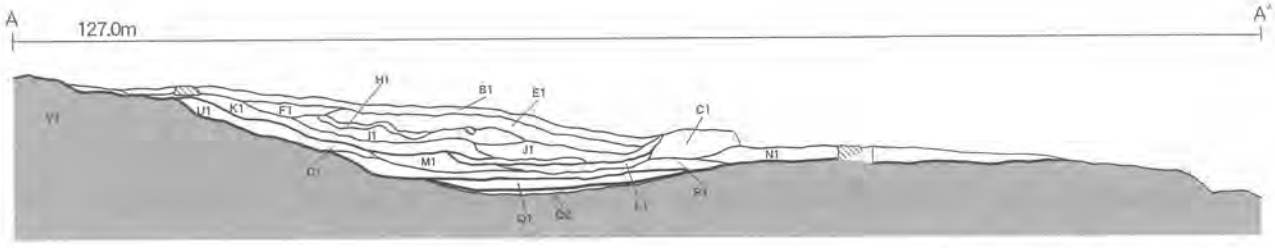




第４期

B１　１０ＹＲ3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０Ｙ Ｒ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる　焼土多、炭少、鉄滓２点
Ｃ１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０Ｙ Ｒ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、やや密に締まる　炭多、焼土少
Ｄ１　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 5% 固めで、やや密に締まる
Ｅ１　7.5ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　2.5ＹＲ4/6 赤褐、ｼﾙﾄ質壌土15% 固めで、やや密に締まる　焼土多
Ｆ１　１０ＹＲ3/4 暗褐、砂壌土　１０ＹＲ 6/6 黄褐、粘土塊？20% 固め、締りは中
Ｇ１　2.5ＹＲ4/6 赤褐、砂壌土　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土10% 固め、締りは中
Ｈ１　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　Z.5ＹＲ 4/4 にぶい赤褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、やや密に締まる　焼土混じり
Ｉ１　7.5ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　5ＹＲ4/4 にぶい赤褐、ｼﾙﾄ質壌土　10%　炭混じり
Ｊ１　7.5ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固さは中、やや締まりがない　焼土、炭多
Ｋ１　2.5ＹＲ4/6 赤褐、ｼﾙﾄ質壌土　7.5ＹＲ 4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10% 固めで、やや密に締まる
Ｌ１　2.5ＹＲ4/4 にぶい赤褐、ｼﾙﾄ質壌土 2.5ＹＲ4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めでやや密に締まる
Ｍ１　5ＹＲ3/3 暗赤褐、ｼﾙﾄ質壌土　5ＹＲ 3/2 暗赤褐、ｼﾙﾄ質壌土3% 固め、締りは中　炭混じり
Ｎ１　１０ＹＲ4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ4/6 褐、粘土層状10% 固く、締まりは中　焼土、炭少
Ｏ１　2.5ＹＲ4/6 赤褐、砂壌土　5ＹＲ4/4 にぶい赤褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固く、締まる
Ｐ１　１０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０Ｙ Ｒ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる　下面に炭層
Ｑ１　5ＹＲ4/4 にぶい赤褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ Ｙ Ｒ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土3% 固めで、やや密に締まる
Ｑ２　2.5ＹＲ3/6 暗赤褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０Ｙ Ｒ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固く、密に締まる　炭少、明黄粘土
Ｒ１　7.5ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　2% 固めで、やや密に締まる
Ｓ１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０Ｙ Ｒ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固く、密に締まる　炭多、焼土微
Ｕ１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固く、締まる　焼土粒多
Ｖ１　7.5ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　5ＹＲ3/6 暗褐褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固く、密に締まる

P1



第31図　28号炉跡（2）

0　1:30　1m

g．出土遺物（第32図～38図）

２２～３７は陶器である。

２２、２３は刷毛目で波状文を施された碗である。肥前産、１８世紀前期に伴う。２４は内面に青緑釉を施され、外面無釉の碗である。胎土はやや赤味を帯びた褐色土である。肥前産，１８世紀前期に伴う。２５～２７は志野焼きの茶碗の口縁部、高台部である。瀬戸美濃産と思われる。２８、２９は天目茶碗の口縁部と底部である。頸部で直に立ち上がり、くびれは少ない。底部は削り出しの輪高台で高めである。腰部まで鉄釉がかけられ、胎土はにぶい黄橙である。瀬戸美濃産、１７世紀後半代に伴う。３０は前述の天目茶碗と同じ器形の茶碗であるが、内外面に明灰白色で砂混じり釉がかけられる。胎土は黄橙である。３１は内湾気味に立ち上がる碗である。内面、外面は腰部まで灰白色の不透明釉が施される。胎土は黄橙である。３２は壷の体部と思われる。胎土は明褐色土、外面に鉄絵を施し、透明釉をかけ、内面は無釉である。胎土は黄橙である。

３３～３７は皿である。３３は見込みに蘭竹文？を描き、透明な灰釉を施す。胎土はにぶい黄橙である。瀬戸美濃産、１７世紀末～１８世紀前半に伴う。３４は３３と同一個体と思われる。３５は丸のみで削いだ菊文を施された折縁菊皿（第45図136参照）と同形の皿であるが、内外面に不透明なにぶい黄褐色の釉がかけられている。３６は底部から内湾しながら立ち上がる皿である。施文は不明である。胎土は明褐色土で、薄緑の不透明釉を施している。３７は口縁部を面取りして山形に成形し、内面に型押しで同心円状の文様を施している。胎土は灰褐色で、内外面にワラ灰釉を施す。

38～４７は染付磁器である。

３８～４３は碗である。３８は矢羽根文、１８は二重網目文を施す。いずれも肥前産、１８世紀代に伴う。４０は内面腰部に花文、４１は見込みに梅花門を描いている。肥前系と思われる。４２，４３は湯呑である。４３は筒型の器形で、１８世紀後半以降に伴う。

４４～４７は皿である。４４、４６は梅花文、４５は波文をそれぞれ施している。２６は青磁の皿である。内外面に施釉され、内面見込みは蛇の目釉ハギと思われる。

４８、４９は半磁器質の器である。４８は胎土は暗赤褐色で、内外面に光沢のある透明釉が施され、細かい貫入が入る。４９は胎土は灰色、内外面に透明釉をかける。

５０～５３は擂鉢である。２８は玉縁の口縁部で内外面に鉄釉が施される。

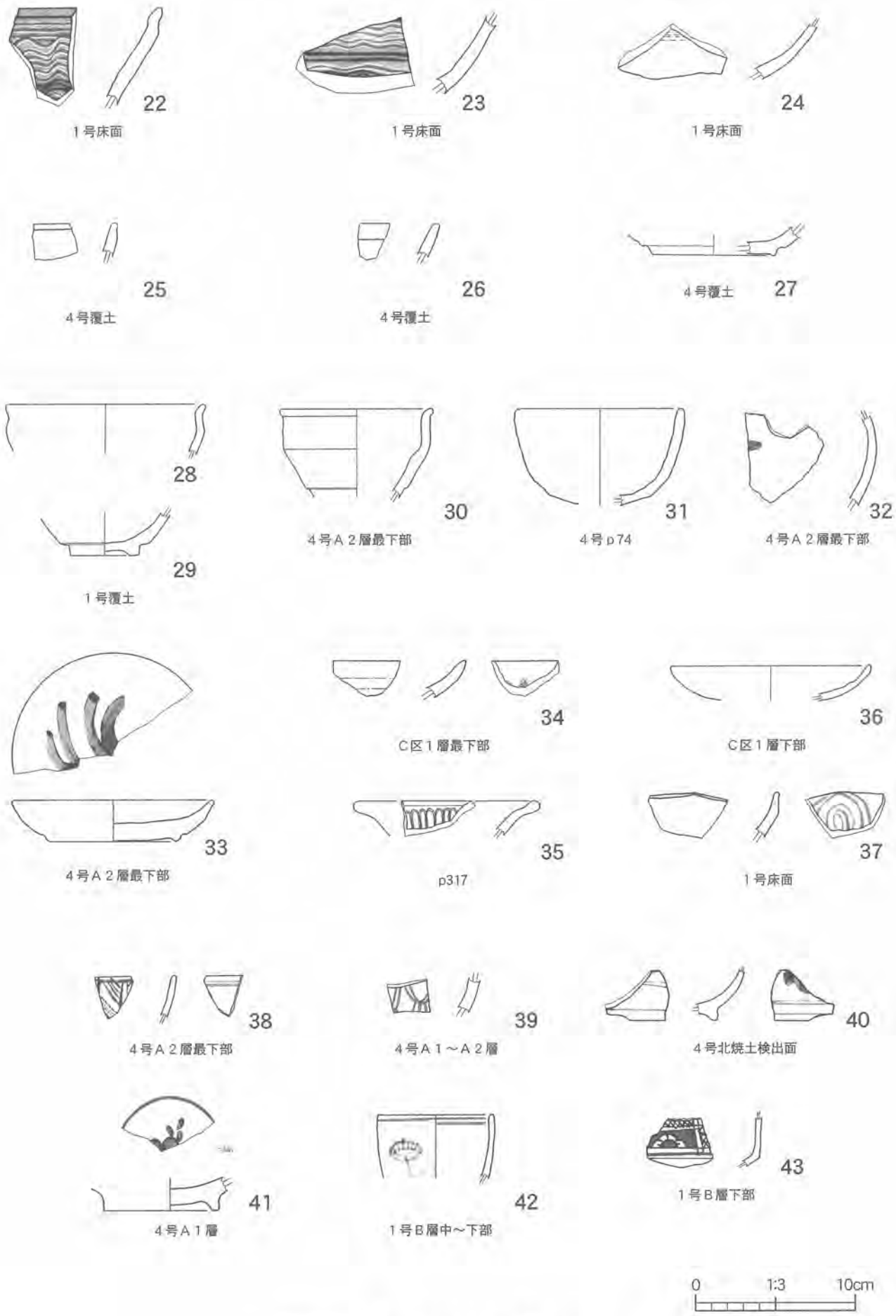
５４、５５は銭貨である。３２は「寛永通宝」、３３は「永楽通宝」である。

３４～３７は銅製品である。

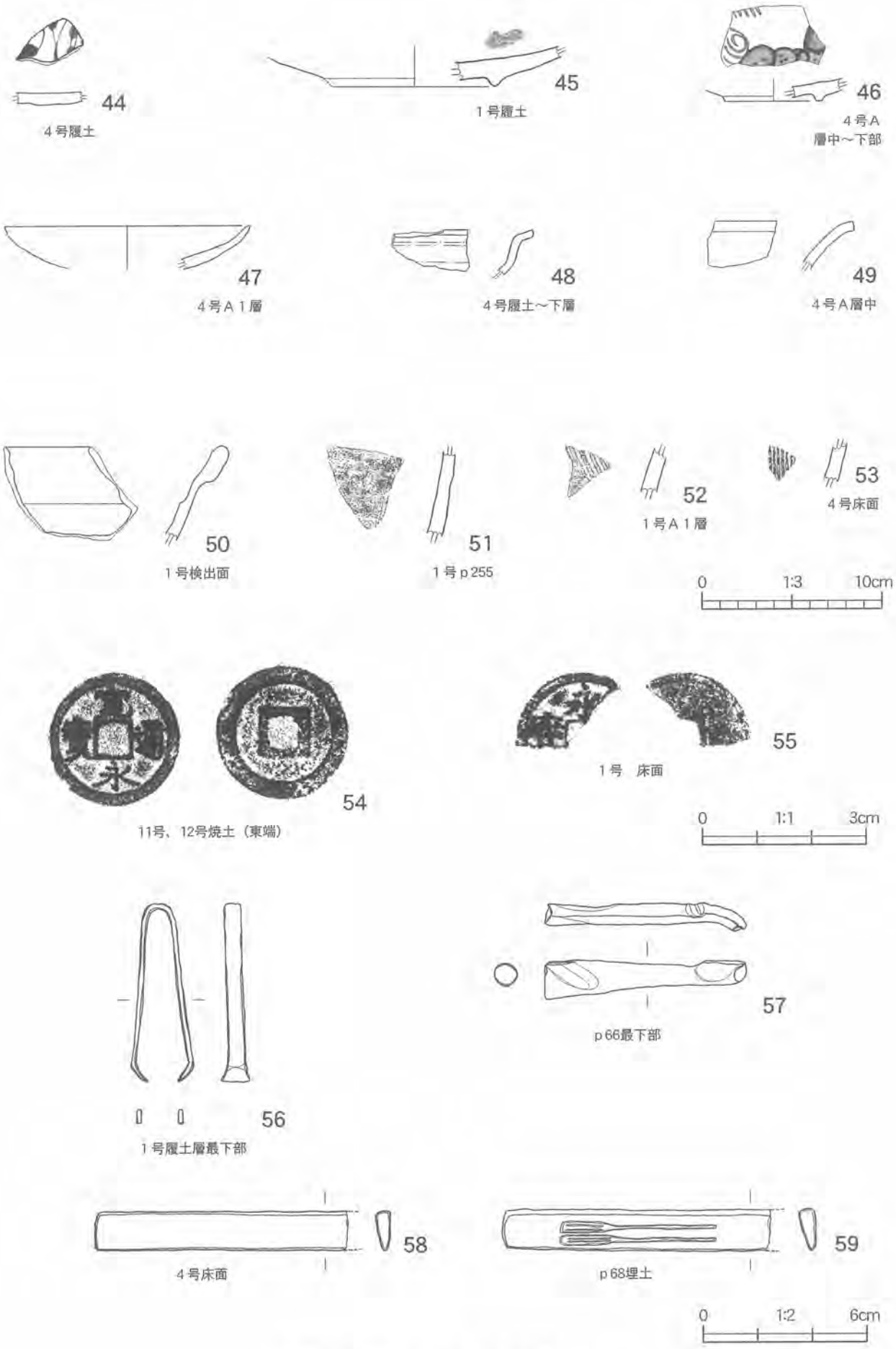
３４は毛抜きである。３５は煙管の吸い口である。３６、３７は小柄である。３７は側面に矢を模したような文様が陽刻でセットで施されている。

６０～８２は鉄製品である。

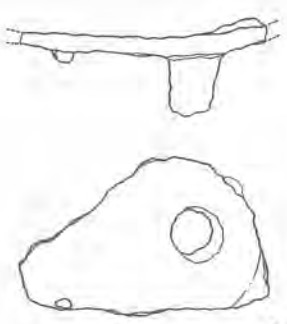
３８は鉄瓶の底部と思われる。６１、６２も板状の製品で、明瞭な稜線が見られる。器形は不明である。６３は、厚い円盤状の製品である。６４は筒型の製品である。６５、６８は刃部が見られ、細身の刃物である。６６、６７は細い板状の製品である。６９は方形棒状の製品で



第32図　１号、４号建物跡出土遺物（1）

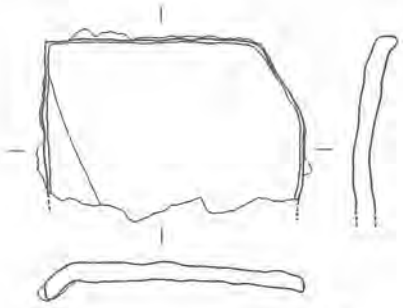


第33図　1号、4号建物跡出土遺物（2）



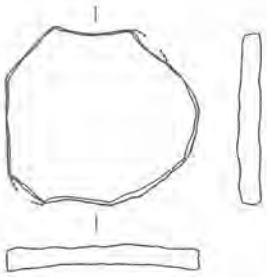
60

1号覆土



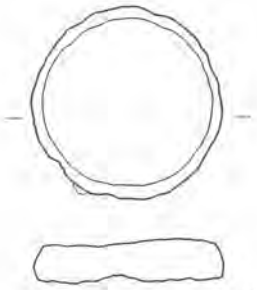
61

1号C1層　最下部



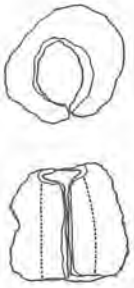
62

北1層最下部



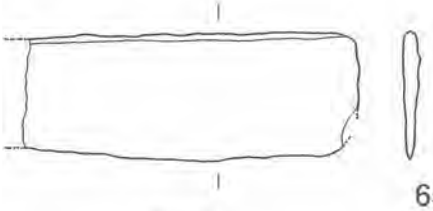
63

1号覆土



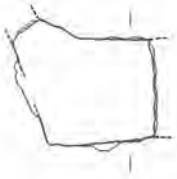
64

1号



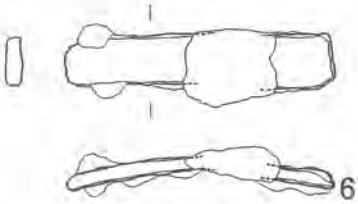
65

1号p68



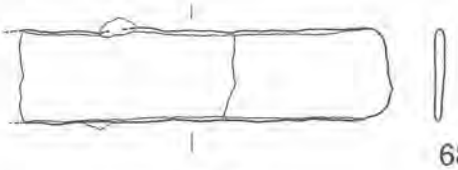
66

4号覆土



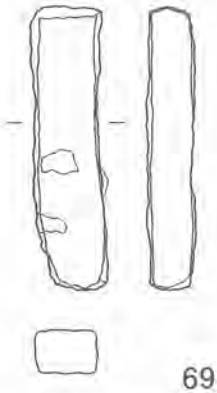
67

4号覆土



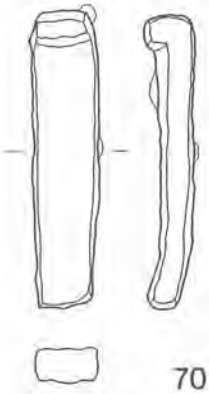
68

1号p68



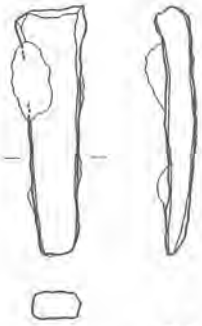
69

4号焼土4



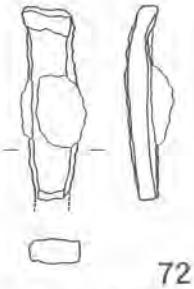
70

4号最下層



71

4号焼土11

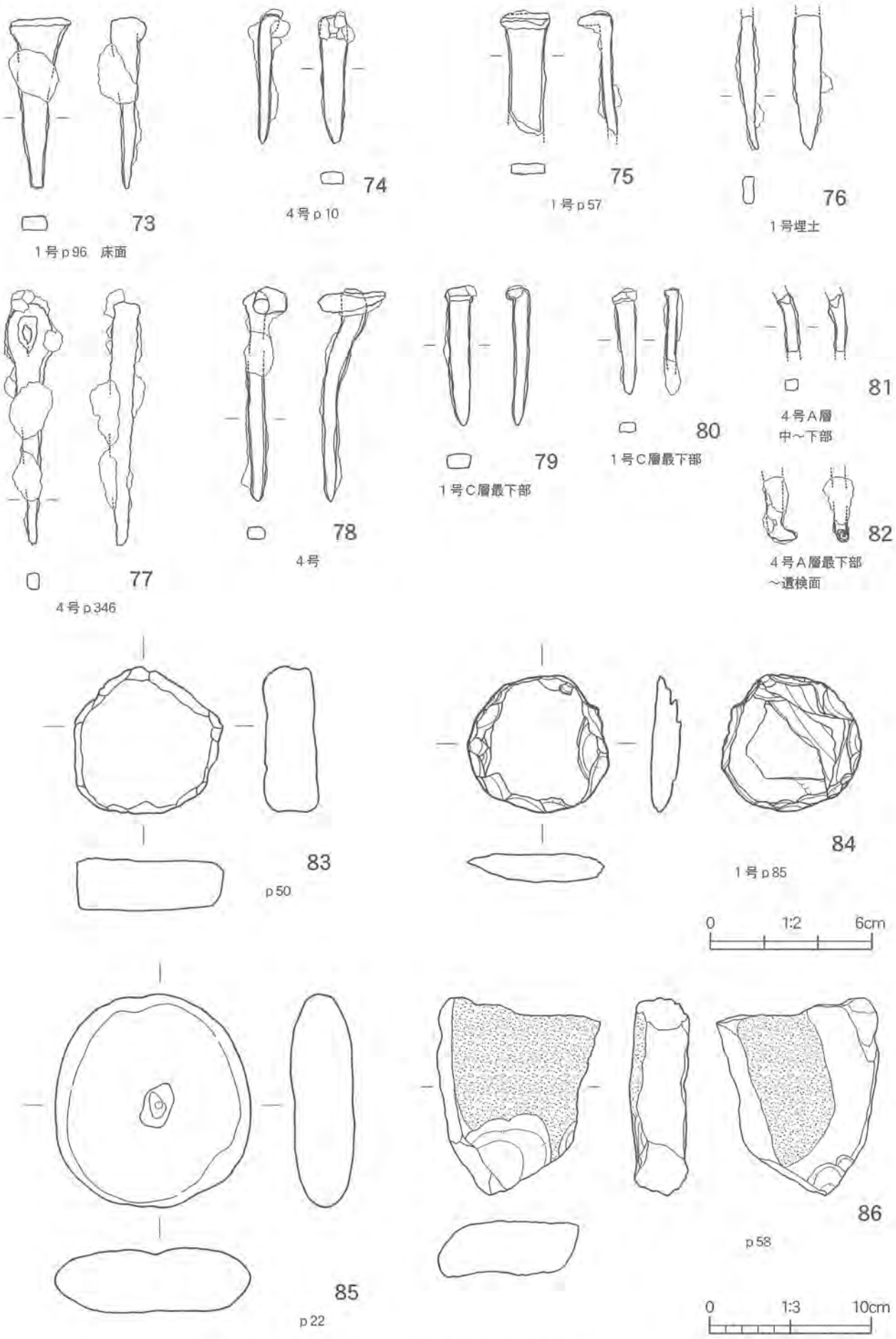


72

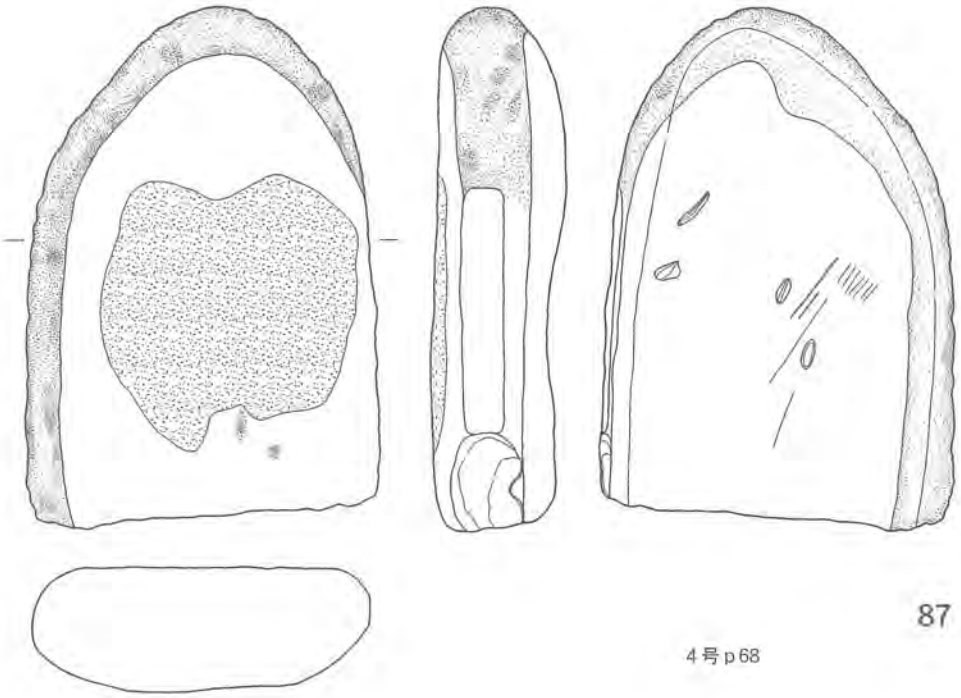
4号A層最下部

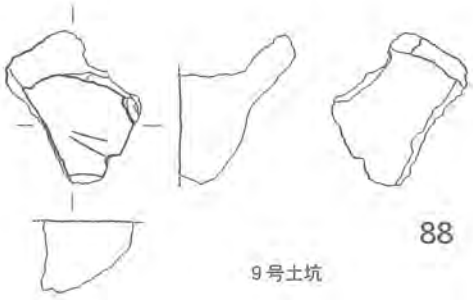
0　1:2　10cm

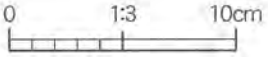
第34図　1号、4号建物跡出土遺物（3）



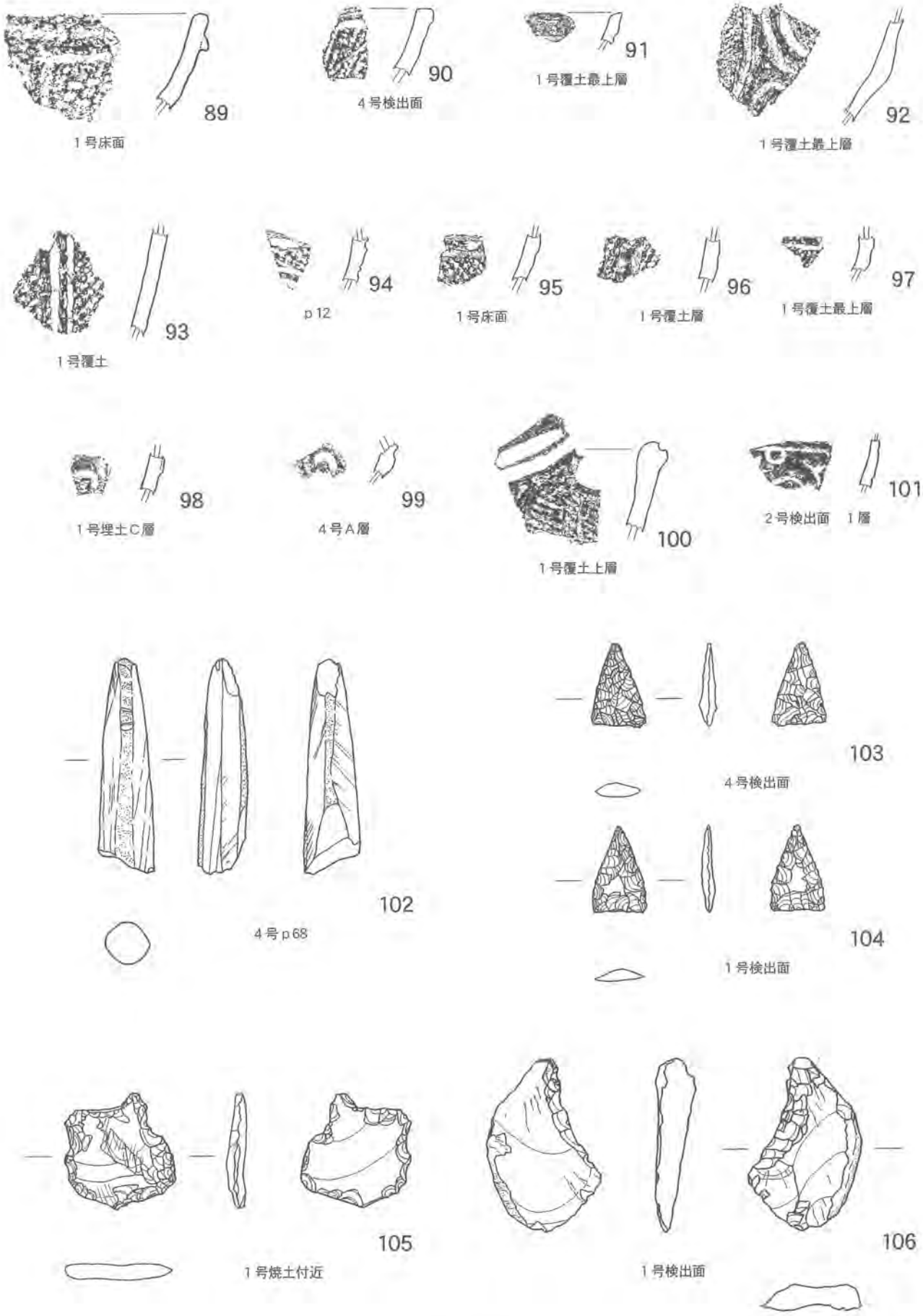
第35図　1号、4号建物跡出土遺物（4）



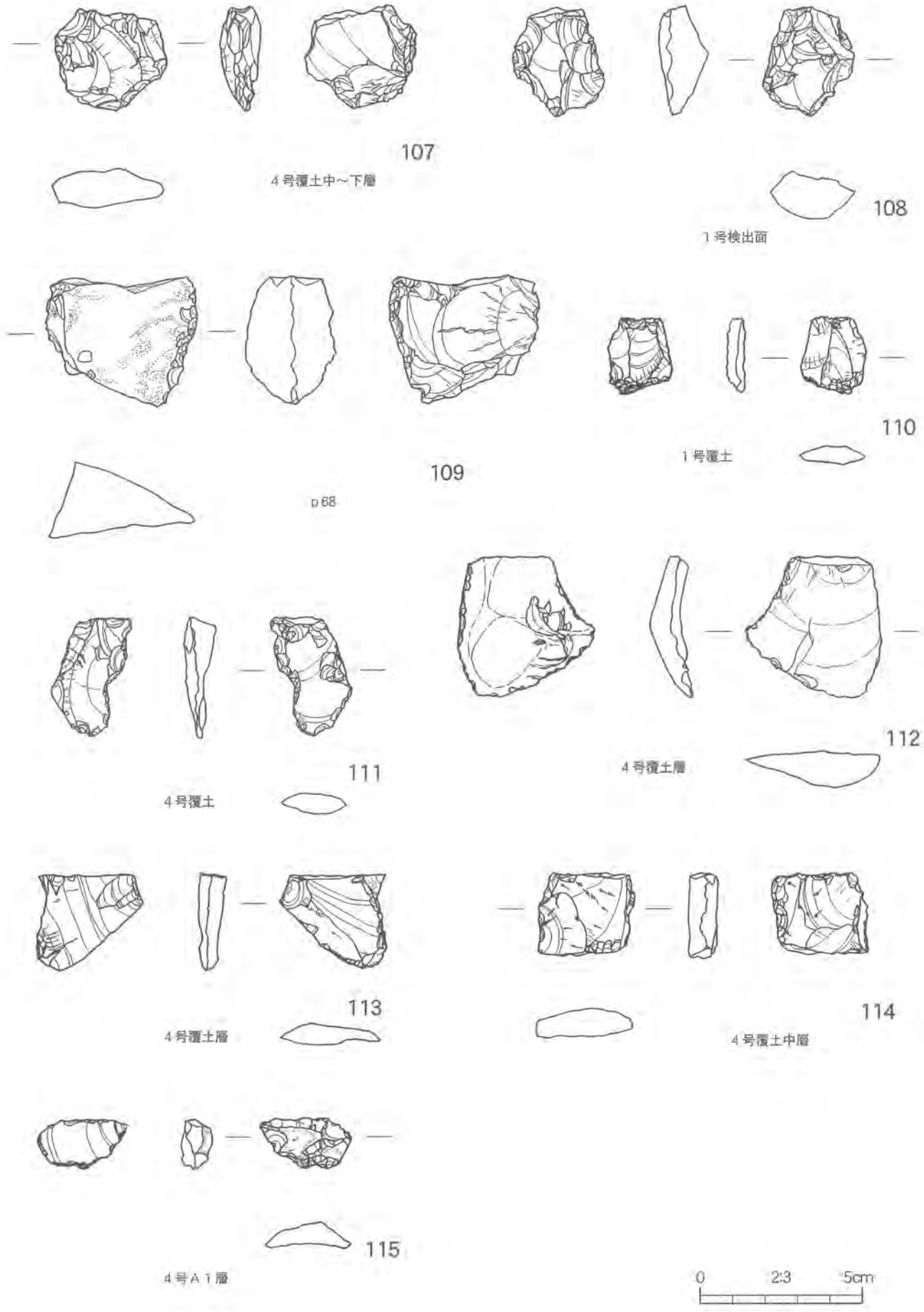




第36図　1号、4号建物跡出土遺物（5）



第37図　1号、4号建物跡出土遺物（6）



第38図　1号、4号出土遺物（7）

ある。４号焼土に伴う。７０～８２は釘である。７０～７７は幅の広い大きめの製品で、７７は頭部を環状に成形し、７８の頭部には別な鉄製品の一部が付着していた。

８３～８５は円盤状の石製品である。８５は中心部に小さな窪みを持つ。いずれも用途は不明である。８６は表、裏の両面が焼け焦げた痕跡を残す板状の礫である。炉の台などに用いられたものと思われる。

８７、８８は砥石である。８７は側面を含め三面が使用されていて、片面には炭化物が付着していた。

８９～１０１は縄文土器である。８９～９９はいずれも隆沈線による渦巻文を施された深鉢である。大木８ｂ式に伴う。１００は波状の口縁部に溝を施した深鉢と思われる。大木８ｂ式に伴う。１０１は磨消縄文と三叉文を伴う鉢の頸部と思われる。縄文時代晩期大洞Ｃ１式に伴う。

１０２は石棒の底部？である。明瞭な稜線が見られ、一部に敲打痕を残している。

１０３～１１５は剥片石器である。１０３、１０４は石鏃である。いずれも平基で、側縁は１０３は直線的で、１０４は若干膨らむ。１０５～１１５は不定形石器である。尖端部を利用するもの（１０５、１０６１１２、１１３、１１５）、側縁を利用するもの（１０７、１０８、１０９、１１０、１１１、１１４）などに分かれる。

このほかに１号建物跡周辺の小坑（Ｐ27、Ｐ33）から貝層ブロックが出土している。その成果は巻末の表にまとめた。（動物遺存体集計表）

ｈ、２５号ａ、２５号ｂ掘立柱建物跡（第39図）

いずれも調査区の西端に位置する。「調査経過」で記したように、精査できたのは建物跡のほぼ半分であるが、大まかな実測から１号ｂ建物跡については建物跡全体の規模は推定できた。

削平面の壁の覆土は１層で、軟質の暗褐色土層である。壁面は凹凸があり、やや雑な掘り方である。

２５号ａ掘立柱建物跡（第39図）

平面形は、ｐ154―ｐ111－ｐ173の２間を桁行、ｐ173－ｐ184－ｐ182－ｐ186の３間を梁行とする長方形の建物跡である。規模は、桁行の検出延長が5.0m、梁行延長が5.6mである。全体の規模は不明である。主軸方向は、ｐ154→ｐ173で、N51°Ｅである。

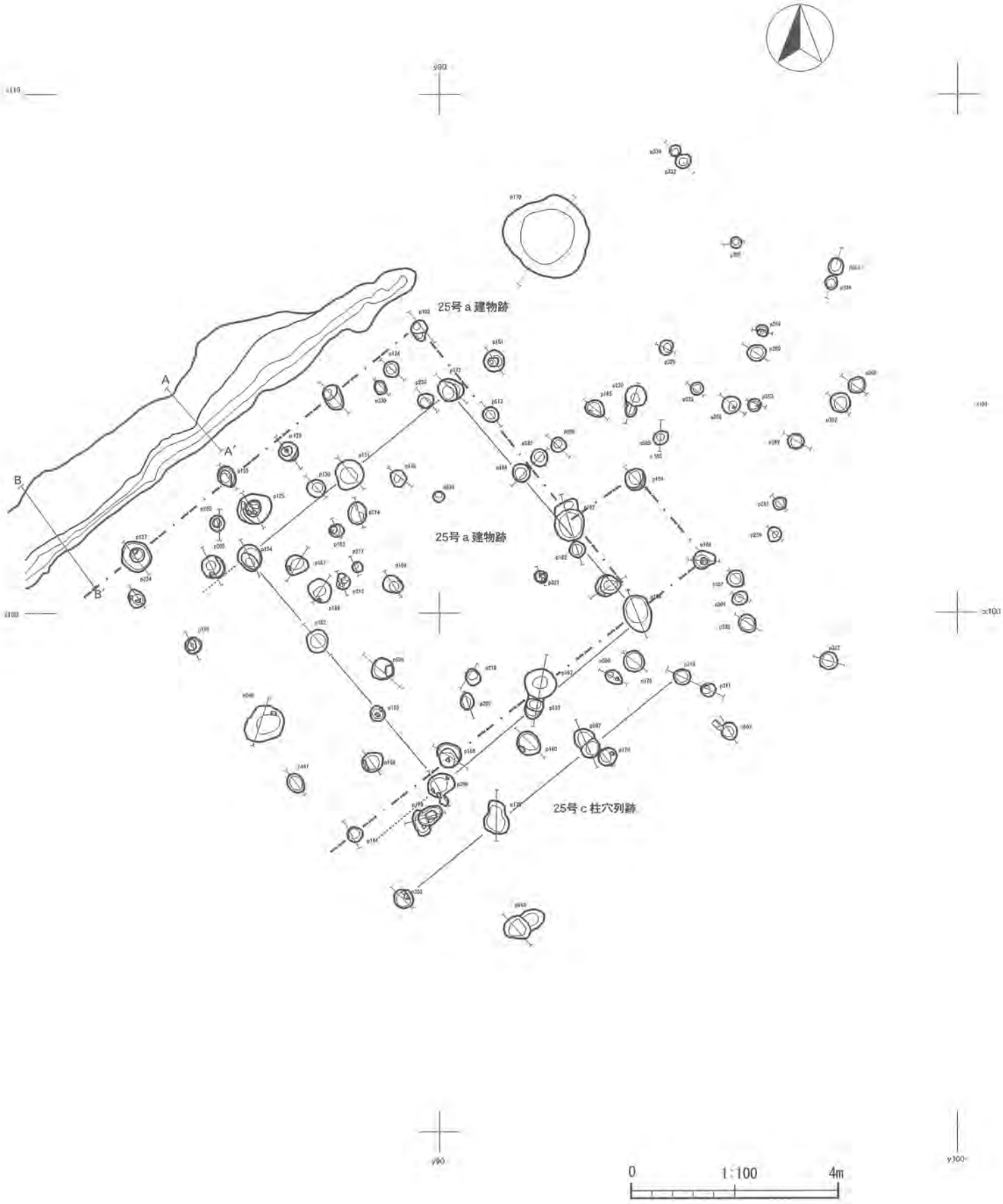
２５号ｂ掘立柱建物跡（第39図）

２５号ａ建物跡と重複する。建替えによる拡張である。

桁方向をｐ137→ｐ103とする桁行３間、ｐ103→ｐ316を梁方向とする梁行４間の長方形の平面形である。規模は、桁行の検出延長が7.0m、梁行延長が6.9mである。全体の規模は推定で桁行約15.0m×梁行6.9mであり、今回検出した建物跡では最大規模のものである。主軸方向は、ｐ137→ｐ103で、N51°Ｅで、２５号ａと同じである。ｐ162、ｐ194、ｐ166、ｐ186が構成する区画は入り口などの施設が考えられる。

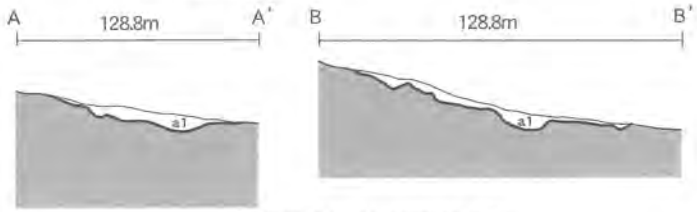
２５号ｃ柱穴列跡（第39図）

２５号建物跡の東側に位置し、建物跡と平行して延びる柱穴列である。北からｐ316―ｐ207－ｐ175－ｐ203と並び、柱間寸法は2.3mである。いずれも掘り方の規模は小さい。

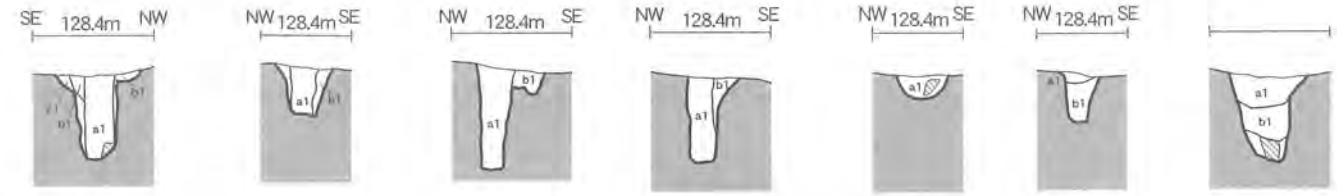


第39図　25号掘立柱建物跡

２５号堆積状況



a１　１０ＹＲ3/3 暗褐、砂壌土　１０ＹＲ4/6 褐、砂壌土3%　やや軟、締りはない



p137

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固さ、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固さ、締りは中
c１　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土3% 固さ、締りは中

p155

a１　１０ＹＲ4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固さ、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土3% 固さ、締りは中

p123

a１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固め、締りは中
b１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土5% 固め 締りは中

p103

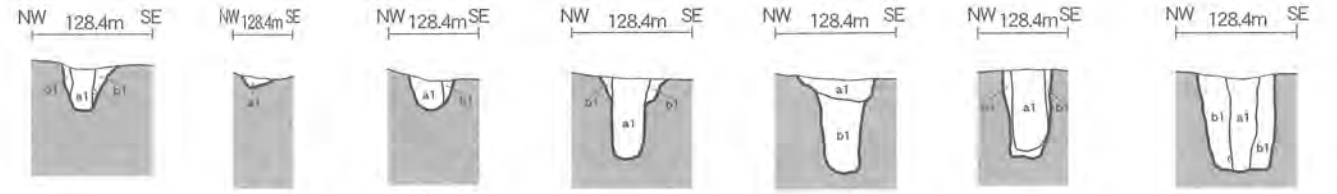
a１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固め、締りは中
b１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土5% 固め 締りは中

p234

a１　１０ＹＲ 4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土10% やや軟、やや締まりがない

p235

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、やや密に締まる
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土5% 固めで、締りは中



p129

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固さ、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 3% 固さ、締りは中

p330

a１　１０ＹＲ 3/4 暗褐ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ4/6 褐ｼﾙﾄ質壌土5% 固さ、締りは中

p124

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ4/6 褐 ｼﾙﾄ質壌土2% 固さ、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌10% 固さ、締りは中

p205

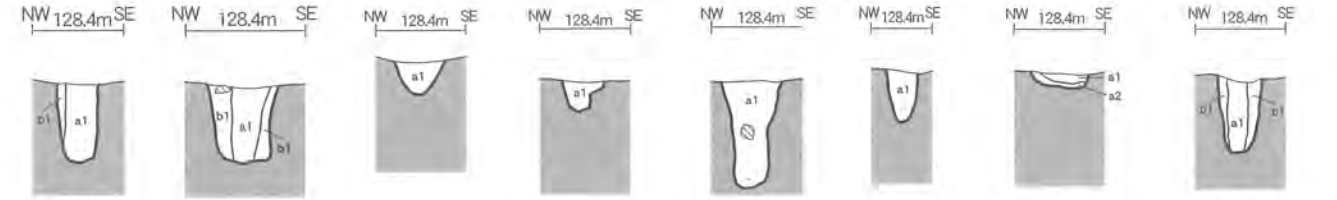
a１　10ＹＲ4/2 灰黄褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固め、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固く、密に締まる

p154

a１　１０ＹＲ4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固め、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固さ、締りは中

p130

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土3% 固め 締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ3/4 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土10% 固め、締りは中



p236

a１　１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土3% 固さ 締りは中
b１　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固さ 締りは中

p173

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固さ、締りは中
b１　１０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固めで、やや密に締まる

p151

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固さ、締りは中

p195

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固く、密に締まる

p157

a１　１０ＹＲ 4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土10% 固く、密に締まる

p183

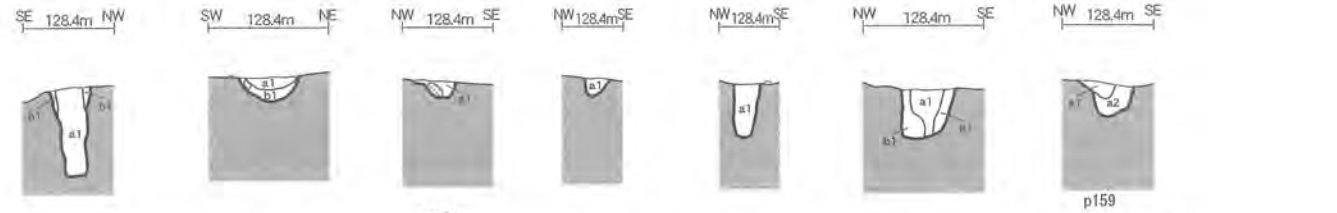
a１　１０ＹＲ 3/4 暗褐ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固め、締りは中

p214

a１　１０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、やや密に締まる
a２　１０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる

p158

a１　１０ＹＲ4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 4/6 褐、粘土塊 15% 固めで、やや密に締まる
b１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土5% 固め、締りはや



p513

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土3% やや軟、締まりはない
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固さ、締りは中

p189

a１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固めで、やや密に締まる
b１　１０ＹＲ3/4 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、やや密に締まる

p213

a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 １０ＹＲ5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌10% 固く、密に締まる

p217

a１　１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固く、密に締まる

p239

a１　１０ＹＲ4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固め、締りは中

p152

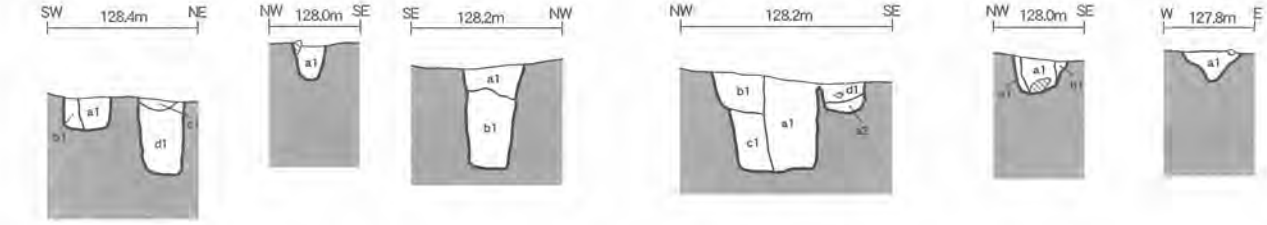
a１　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固く、密に締まる
b１　１０ＹＲ4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　１０ＹＲ3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、やや密に締まる

p159

a１　１０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固く、密に締まる
a２　１０ＹＲ4/4 褐 ｼﾙﾄ質壌土１０ＹＲ 5/6 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固く、密に締まる

第40図　25号建物柱穴土層断面（1）

0　1:50　2m



p184　p185　p208　p506　P162　P182　p194　p166

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固め、締りは中
b1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土15% 固めで、やや密に締まる
c1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固め、締りは中
d1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固め、締りは中

a1　10YR 4/3 にぶい黄褐 ｼﾙﾄ質壌土 10YR4/6 褐 ｼﾙﾄ質壌土2% 固め、締りは中

a1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐、粘土塊10% 固く、密に締まる　炭少
b1　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐、粘土塊3% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる
b1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐、粘土塊15% 固く、密に締まる
c1　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固め、締りは中
d1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土3% 固めで、密に締まる
d2　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固く、密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土1% 固め 締りは中
b1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる

p161　p153　p169　p209　P219　P321　P163

161 a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土 2% 固く、密に締まる
161 b1　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 3% 固く、密に締まる

153 a1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土 5% 固めで、やや密に締まる

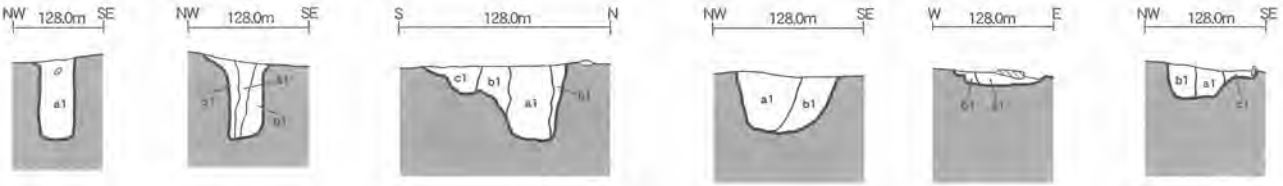
169 a1　10YR2/3 黒褐、ｼﾙﾄ質壌土L　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固さ、締りは中
169 b1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐 ｼﾙﾄ質壌土3% やや軟、締りは中

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐 ｼﾙﾄ質壌土2% 固さ、締りは中
b1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土10YR 4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固めでやや密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固さ 締りは中



p164　P168　P187　P167　p186　p179　P200

a1　10YR 4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土 10YR5/4 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固く、密に締まる

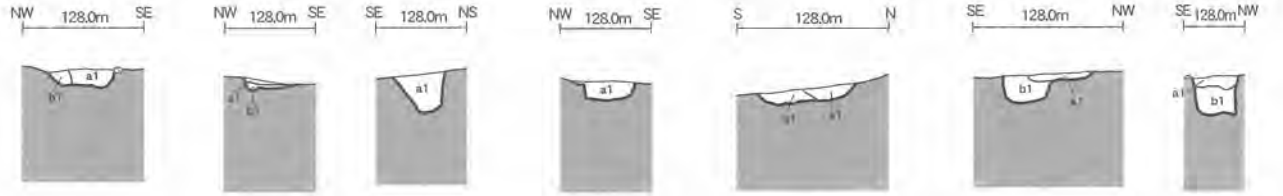
a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる
b1　10YR5/4 黄褐 ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土 10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固さ、締りは中
b1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる
c1　10YR4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐、粘土塊1% 固め、締り は中

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固めで、やや密に締まる
b1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土15% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/3 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土　10YR 4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固めで、締りは中
b1　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/4 黄褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固く密に締まる　炭少
b1　10YR4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/6 黄褐、粘土塊2% 固く、密に締まる　炭微
c1　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固く密に締まる　炭微



P160　p176　p508　p203　P175　P207　P174

a1　10YR3/3 暗褐 ｼﾙﾄ質壌土　10YR 4/4 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる
b1　10YR4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、粘土塊10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR4/6 褐、粘土　10YR5/6 黄褐、粘土塊1% 固く、密に締まる
b1　10YR4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固め、締りは中

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐 ｼﾙﾄ質壌土10% 固めで、やや密に締まる

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐 ｼﾙﾄ質壌土10% 固く、密に締まる

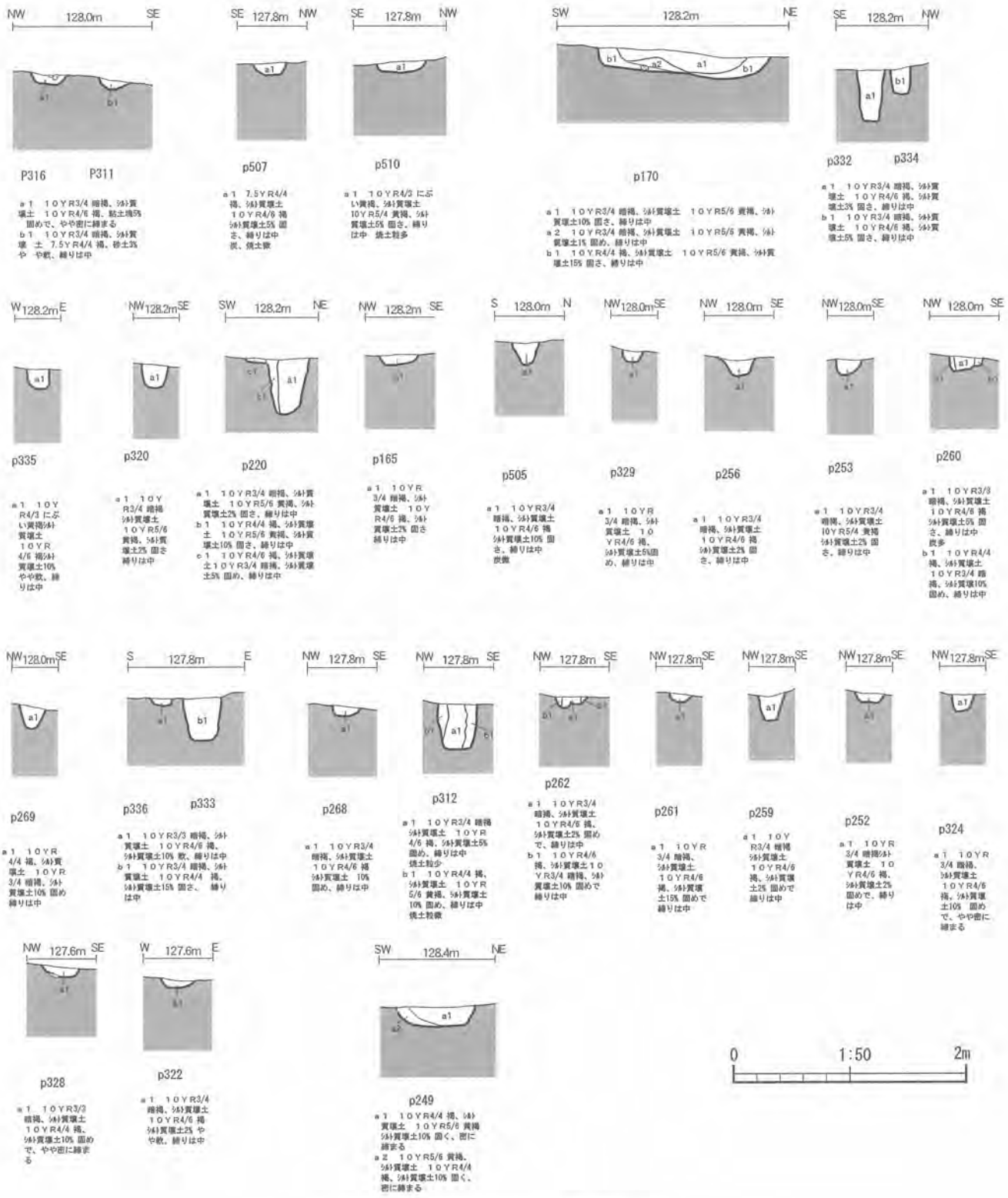
a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR5/4黄褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固めでやや密に締まる　炭、焼土中～多
b1　10YR3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固めでやや密に締まる　炭多、焼土粒少

a1　10YR3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土5% 固めでやや密に締まる
b1　10YR3/3 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2% 固さ、締りは中

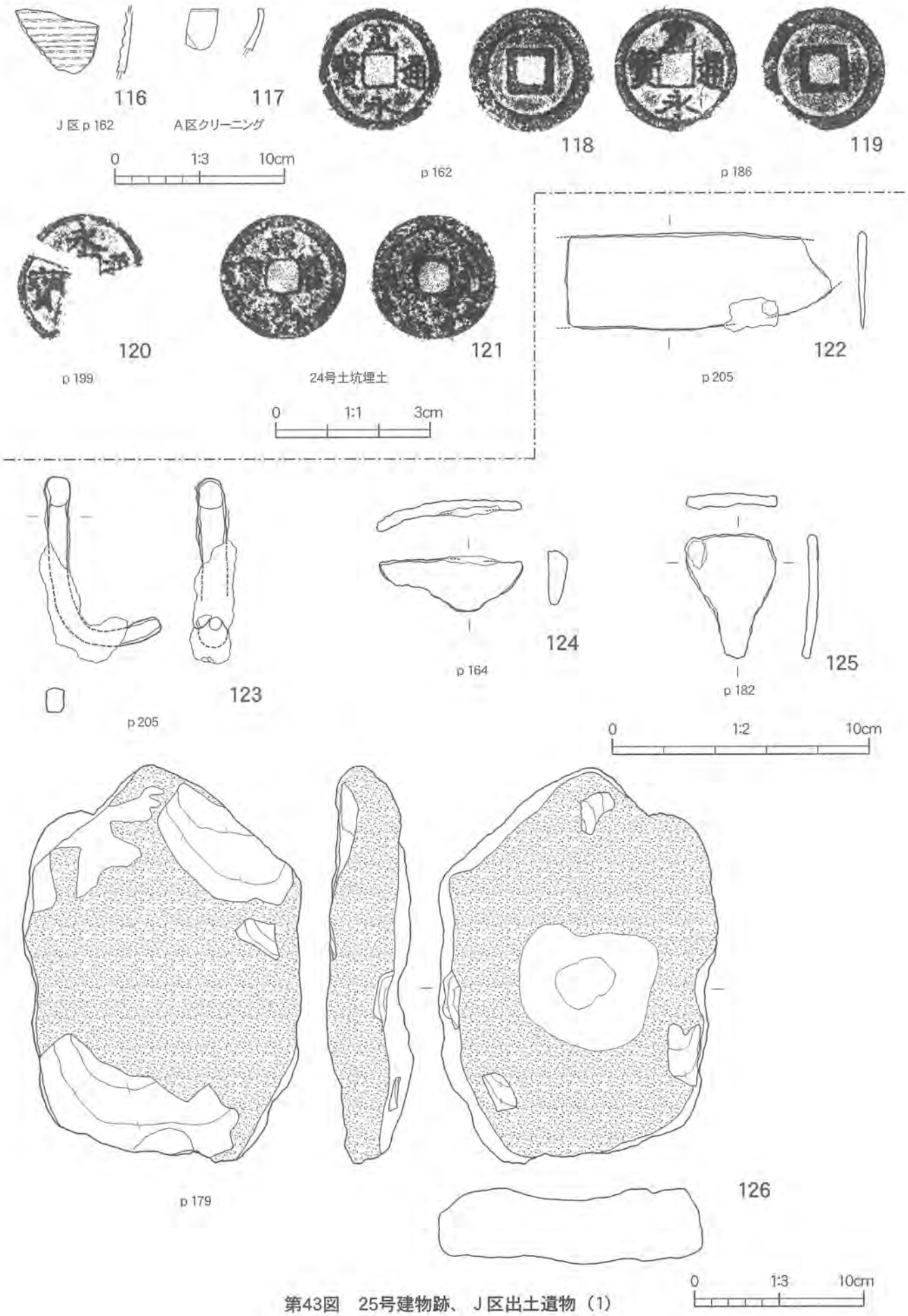
a1　10YR 4/3 にぶい黄褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土10% 固さ、締りは中
b1　10YR 3/4 暗褐、ｼﾙﾄ質壌土　10YR4/6 褐、ｼﾙﾄ質壌土2%固めで、やや密に締まる

第41図　25号建物柱穴土層断面（2）

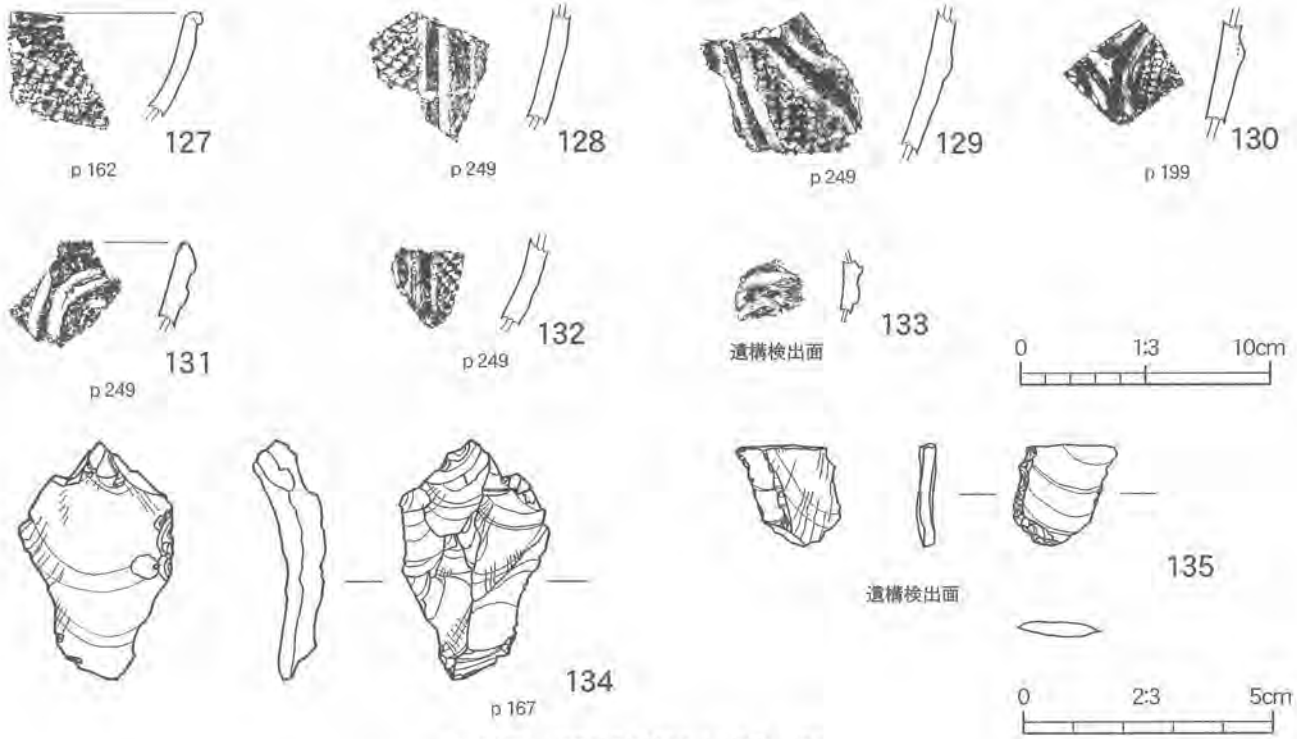
0　1:50　2m



第42図　25号建物柱穴土層断面（3）



第43図　25号建物跡、J区出土遺物（1）



第44図　25号建物出土遺物（2）

ｉ．出土遺物（第43図、44図）

１１６、１１７は青磁片で、器形は不明である。１１６は外面青磁、内面は無釉であるが明瞭な轆轤目をもつ。１１７は内外面に青磁釉で。外面に明瞭な稜線が見られる。

１１８～１２１は銭貨である。１１８、１１９は「寛永通宝」、１２０は「永楽通宝」、１２１は「祥符通宝」である。

１２２～１２５は鉄製品である。１２２は切先をもつやや幅のある刃物である。１２３は折れ曲がった釘である。１２４、１２５は板状の製品である。

１２６は両面が焼け焦げた板状の石板である。片面の中心部は凹む。

１２７～１３３は縄文土器である。大半が土坑ｐ２４９から出土したものである。１２７をのぞき隆沈線で渦巻文を施した深鉢の体部である。大木８ｂ式に伴う。

１３４、１３５は不定形の剥片石器である。いずれも側縁に刃部を作り出している。

このほかにＪ区南端部では貝層が出土した。その成果は巻末の表にまとめた。（動物遺存体集計表）

ｊ．Ｂ区出土遺物（第45図）

覆土、遺構検出面から出土したものである。

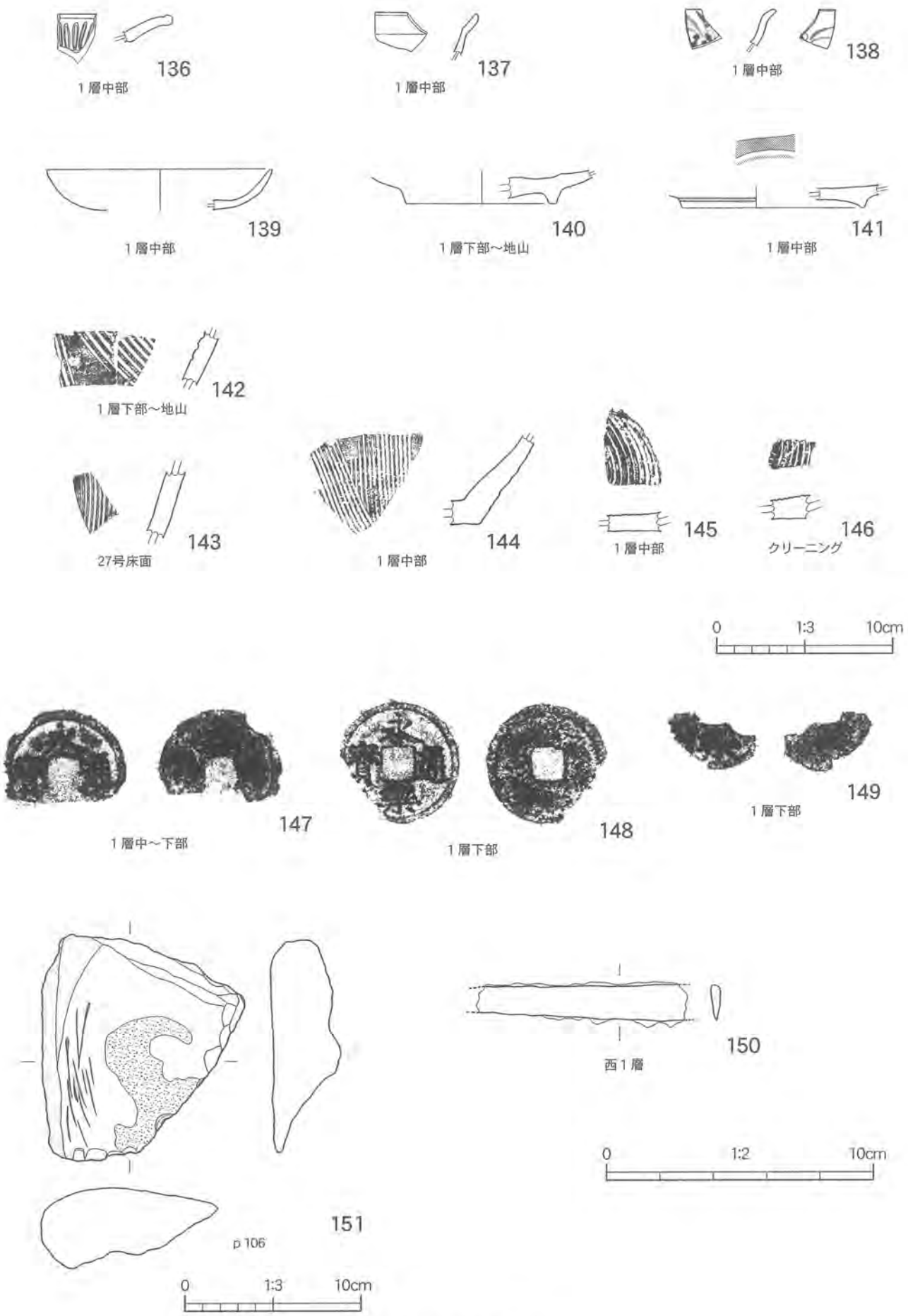
１３６、１３７は陶器である。１３６は丸のみで削いだ菊文を内面に施した折縁菊皿の口縁部である。内外面に灰釉がかけられる。瀬戸美濃産、１６世紀末葉～１７世紀前期に伴う。１３７はいわゆる「青緑釉陶器」で、内面に青緑釉が施される。器形は皿か。肥前産、１８世紀前半に伴う。１３８は染付磁器で、碗の口縁部である。内外面に草花文を描く。瀬戸美濃系で１９世紀代に伴う。１３９～１４１は磁器の皿である。１３９、１４０は青磁で、１４０は見込みは蛇に目釉ハギが施される。

１４２～１４６は擂鉢である。いずれも鉄釉が施される。

１４７～１４９は銭貨である。いずれも「永楽通宝」である。

１５０は鉄製品で、刃子状の刃部を持つ。

１５１は砥石である。磨面に炭化物が付着する。


136
1層中部
137
1層中部
138
1層中部
139
1層中部
140
1層下部～地山
141
1層中部
142
1層下部～地山
143
27号床面
144
1層中部
145
1層中部
146
クリーニング
0 1:3 10cm
147
1層中～下部
148
1層下部
149
1層下部
150
西1層
0 1:2 10cm
151
p 106
0 1:3 10cm

第45図　B区出土遺物

k. 動物遺存体集計表

地　　区	遺　構	種類	遺存体、個数
8 号 建 物 跡	焼土1号	魚骨	ｱｲﾅﾒ、前上顎骨R1、基後頭骨2、第1脊椎骨1、腹椎骨3、尾椎骨8；ﾆｼﾝ、腹椎骨4、尾椎骨1；ﾏｲﾜｼ、第2脊椎骨3、腹椎骨4、尾椎骨15；ﾌｻｶｻｺﾞ科、歯骨1、方骨1、第1脊椎骨1、腹椎骨1、尾椎骨2；ｻﾊﾞ、尾椎骨1；ｶﾚｲ科、第1脊椎骨1、尾椎骨3；ｳﾐﾀﾅｺﾞ、腹椎骨2、尾椎骨5；ｻｹ科、椎骨片；ﾏｸﾞﾗ、腹椎骨1、尾椎骨2；ｶﾂｵ、尾椎骨1；ｶﾀｸﾁｲﾜｼ、腹椎骨1
		貝類	ﾀﾏｷﾋﾞ、4；ｸﾛﾀﾏｷﾋﾞ、8；ﾕｷﾉｶｻｶﾞｲ、3；ｲｶﾞｲ、L6R5；ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板46、蓋板3；ｳﾆ、中間骨20、橈骨5、歯4、上生骨L2R1、顎骨L10R12
8 号 建 物 跡	焼土6号	貝類	ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板1
8 号 建 物 跡	焼土7号	魚骨	ﾏｲﾜｼ、尾部棒状骨1；ﾌｻｶｻｺﾞ科、第2脊椎骨1；ｱｲﾅﾒ、腹椎骨2
		貝類	ｲｶﾞｲ、R1；ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板2；ｳﾆ、中間骨1、上生骨L1R1
8 号 建 物 跡	焼土9号	獣類	ﾆﾎﾝｼﾞｶ、手根骨第4L1焼骨
		貝類	ｳﾆ、歯1
8 号 建 物 跡	焼土10号	魚骨	ｶﾀｸﾁｲﾜｼ、腹椎骨1；ﾏｲﾜｼ、第1脊椎骨2、第2脊椎骨2、腹椎骨19、尾椎骨15；ｳﾐﾀﾅｺﾞ、腹椎骨1、尾椎骨4；ｱｲﾅﾒ、前上顎骨R1、第1脊椎骨2、第2脊椎骨2、尾椎骨3、尾部棒状骨1；ｶﾂｵ、尾椎骨3；ﾌｻｶｻｺﾞ科、歯骨1；ﾏｸﾞﾗ、腹椎骨1、尾椎骨2；ｶﾚｲ科、第1脊椎骨1、尾椎骨1；ﾀｲ類、歯1；ｻｹ科、椎骨片
		貝類	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ、1；ﾔﾏｻﾞﾝｼｮｳｶﾞｲ、1；ﾍﾞｯｺｳﾏｲﾏｲ科、1；ｲｶﾞｲ、R1；ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板5；ｳﾆ、中間骨6、撓骨+、歯3、顎骨L2R1、上生骨R2
1，4号建物跡	焼土3号a	魚骨	ﾏｲﾜｼ、尾椎骨1；ﾌｻｶｻｺﾞ科、主上顎骨1
		貝類	ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板2；ｳﾆ、上生骨（+）
1，4号建物跡	焼土3号b	魚骨	ｱｲﾅﾒ、第1脊椎骨1、第2脊椎骨1；ﾏｲﾜｼ、尾椎骨2；ﾌｻｶｻｺﾞ科、尾椎骨1
		貝類	ｳﾆ、顎骨（+）、殻板（+）、棘（+）
1，4号建物跡	焼土4号	魚骨	ｳﾆ、棘（+）
1，4号建物跡	焼土11号	貝類	ﾏｲﾜｼ、腹椎骨5、尾椎骨5
1，4号建物跡	焼土14号c	魚骨	ﾏｲﾜｼ、尾椎骨1
1，4号建物跡	焼土15号b	貝類	ﾏｲﾜｼ、腹椎骨1
1，4号建物跡	焼土20号	魚骨	ｳﾆ、殻板（+）、棘（+）
1，4号建物跡	焼土21号	貝類	ﾏｲﾜｼ、第2脊椎骨1
1，4号建物跡	焼土25号	魚骨	ﾌｻｶｻｺﾞ科、第1脊椎骨1；ｻｹ科、椎骨片1；ﾏｲﾜｼ、尾椎骨3
1，4号建物跡	焼土28号	貝類	ｳﾆ殻板（+）
1，4号建物跡	p27	貝類	ｸﾎﾞｶﾞｲ、11；ﾊﾞﾃｲﾗ、1；ｴｿﾞﾁﾁﾞﾐﾎﾞﾗ、1；ﾎｿｳﾐﾆﾅ、1；ｴｿﾞｱﾜﾋﾞ、2；ﾕｷﾉｶｻｶﾞｲ、1；ﾕｷﾉｶｻｶﾞｲ科、3；ｶｻｷﾋﾞｶﾞｲ属、1；ﾊﾟﾂﾗﾏｲﾏｲ、2；ｲｶﾞｲ、L16R16；ﾑﾗｻｷｲﾝｺ、L3R10；ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板1；ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板67；ｳﾆ、中間骨4、顎骨L6R7、上生骨L2R3
1，4号建物跡	p33	貝類	ｱｺﾔﾁｸﾞｻ属、1；ﾊﾟﾂﾗﾏｲﾏｲ、4；ｵｵｺﾊｸｶﾞｲ、2；ﾑﾗｻｷｲﾝｺ、L3R3；ｲｶﾞｲ、L2R4；ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板7、蓋板1；ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板7；ｳﾆ、中間骨25、歯1、顎骨L21R18、上生骨L4
1，4号建物跡	p87	貝類	ｳﾆ棘（+）
1，4号建物跡	p346	貝類	ｳﾆ殻板（+）
J　　区	貝層	魚骨	ﾏｸﾞﾛ属、腹椎骨1焼けていない
		貝類	ﾁﾁﾞﾐﾎﾞﾗ、1；ｴｿﾞｱﾜﾋﾞ、5；ﾊﾟﾂﾗﾏｲﾏｲ、2；ｲｶﾞｲ、L41R43；ﾑﾗｻｷｲﾝｺ、L2；ﾎﾀﾃｶﾞｲ、L2R2；ﾁｼﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ、殻板24

1、遺構に伴う魚骨はいずれも焼成を受けていた。魚種はマグロ、カツオ等の大型回遊魚を微量含むが、アイナメやフサカサゴ科等の根魚やイワシなどの小魚が主体と成っている。

2、貝類は、イガイを主体とし、これに巻貝を伴っているが、いずれも岩礁性のものである。パツラマイマイ等（陸産巻貝）やヤマザンショウガイ等（海産巻貝）の微小貝も含まれており、今後の検討を要する。

3、ウニ類は比較的多かった。殻板や棘の観察によるとキタムラサキウニが主体となるようである。

（高橋）

4．調査のまとめ

今回の調査では、調査地点が近世の集落であることが明らかになった。

調査区のほぼ中央を南北に延びる段を境にして東側に１棟、段の斜面際に沿って４棟、そこからやや距離をおいて西側に２棟、都合７棟の掘立柱建物跡を検出した。

建物の形状は、未精査のものも含めていずれも長方形であり、いわゆる直屋であることが確認された。

規模は以下のとおりである。

建物番号	規模			柱間寸法	
	間取り	桁行	梁行	桁行	梁行
８号	３間×１間	8.9m	2.5m	2.9m	2.5m
１号ａ	５間×３間	10.0m	5.7m	2.0m	1.9m
１号ｂ	３間×２間	4.8m	4.4m	1.6m	2.2m
４号ａ	３間×３間	6.8m	4.7m	2.3m	1.6m
４号ｂ	２間×１間	4.1m	1.9m	2.0m	1.9m
２５号ａ	（２間）×３間	(5.0m)	5.6m	2.5m	1.9m
２５号ｂ	（６間）×３間	(15m)	6.9m	2.3m	2.3m

規模については、２５号ｂ、１号ａの規模が比較的大きく、柱間寸法は、８号の2.9mを最長に、2.5m、2.3m、2.0m、1.9m、１号ｂの最小1.6mが確認された。

遺構の時期と配置

遺物は、全体にそれほど多くはないが、未調査の２７号（Ｂ区）も含めて、中央部から東側に集中している。その大半が１号、４号建物跡から出土している。遺物の時期は１６世紀末葉から１８世紀代に及んでいる。そのうち１号床面からの出土遺物から１号建物跡は１８世紀前半の年代に伴うものと思われる。４号についても１８世紀前半～１８世紀代の時期が想定できる。８号についても、検出面が同じであること、同時期の遺物を共有していることから時期差はそれほどないものと思われる。２５号については、遺物が少なく、時期を決める資料を欠くが、後述する配置などから東側の建物と同時期に存在した可能性は高い。

遺構の配置については、「生活空間」を示す遺物や焼土遺構が中央部（１号、４号、）～東側（８号）の建物に集中していることが大きな特徴である。西側の２５号建物は、今回で出土した最も規模が大きいものであるが、出土遺物は少なく、敷地内外でも焼土遺構などは検出されていない。このことは２５号建物の性格を考えるうえで、東側の「生活空間」とは異なる区画であった可能性を想定できる大きな要素と思われる。また、東側の建物跡からは小柄、天目茶碗なども出土しており、集落の性格を「農」だけではなく「武」の面からも検討する必要があることを示している。

焼土遺構について

遺構は前述したように、１号、４号、８号建物の敷地内、周辺部に集中している。浅い掘り

込みの小規模タイプとやや深く掘り窪めて使用したやや規模の大きいタイプに分かれる。その大半は、焼土から貝類、魚骨が出土し、煮炊きに使用されたことが分かった。焼土の中でも南端に位置する２８号は、規模、構造からみても特異なタイプである。船底形に掘り込み、礫を両脇あるいは円形に組んで使用し、最終的に鍛冶炉として使用したと思われる。焼土からは動物遺存体などは検出していない。特に大きな炉を設けた理由、鍛冶炉の形態としても初出例であることなど含め、その仕事の内容などが今後の検討課題である。

今回の調査で検出した遺構は近世の集落としては市内では初めてのことであり、当然伝承、文献の面からの検討があってしかるべきところであるが、「経過」で述べたような事情もあり果たせなかった。他の近世の遺跡との検討も含めて今後の課題としたい。

参考文献

１　「法学部４号館・文学部３号館建設地遺跡」　東京大学文学部（1990年3月）東京大学遺跡調査室発掘調査報告書

２　「大芦Ⅰ遺跡発掘調査報告書」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(1999年3)
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第３０６集

３　「黒森町Ⅰ遺跡」　岩手県宮古市教育委員会(1992年３月)宮古市埋蔵文化財調査報告書３２

４　「トロノ木Ⅰ遺跡」　岩手県宮古市教育委員会(1989年３月)宮古市埋蔵文化財調査室１７

５　「青猿Ⅰ遺跡　下在家Ⅱ遺跡　千徳城遺跡群」　宮古市教育委員会(1988年３月)宮古市埋蔵文化財調査報告書１４

６　「美濃焼」　ニュー・サイエンス社　田口昭二　著　(1985年２月)考古学ライブラリー

７　「肥前陶磁」　ニュー・サイエンス社　大橋康二　著　(1988年10月)考古学ライブラリー

８　「国内出土の肥前陶磁」　佐賀県立九州陶磁文化館(1984年10月～11月)北海道から沖縄まで

９　「古伊万里」株式会社　平凡社(1991年８月)日本のこころ６３

１０「陶磁史篇四」　愛知県瀬戸市(1993年)瀬戸市史

写真図版

調査区全景(北から)

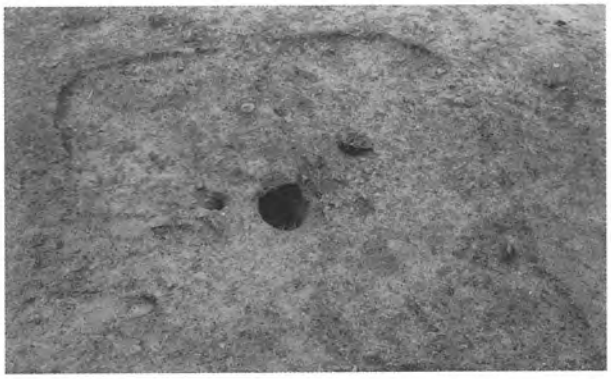
遺構検出状況

1号、4号建物跡検出状況

B区遺構検出状況

写真図版 2

8号建物跡覆土堆積状況、焼土遺構



7号　竪穴状遺構

柱穴p15土層断面

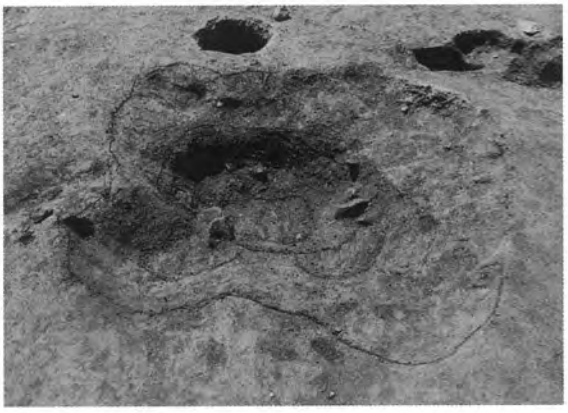
土杭p64　陶磁器出土状況

柱穴p49土層断面

8号建物跡完掘状況

焼土1号

焼土7号



焼土10号

焼土9号

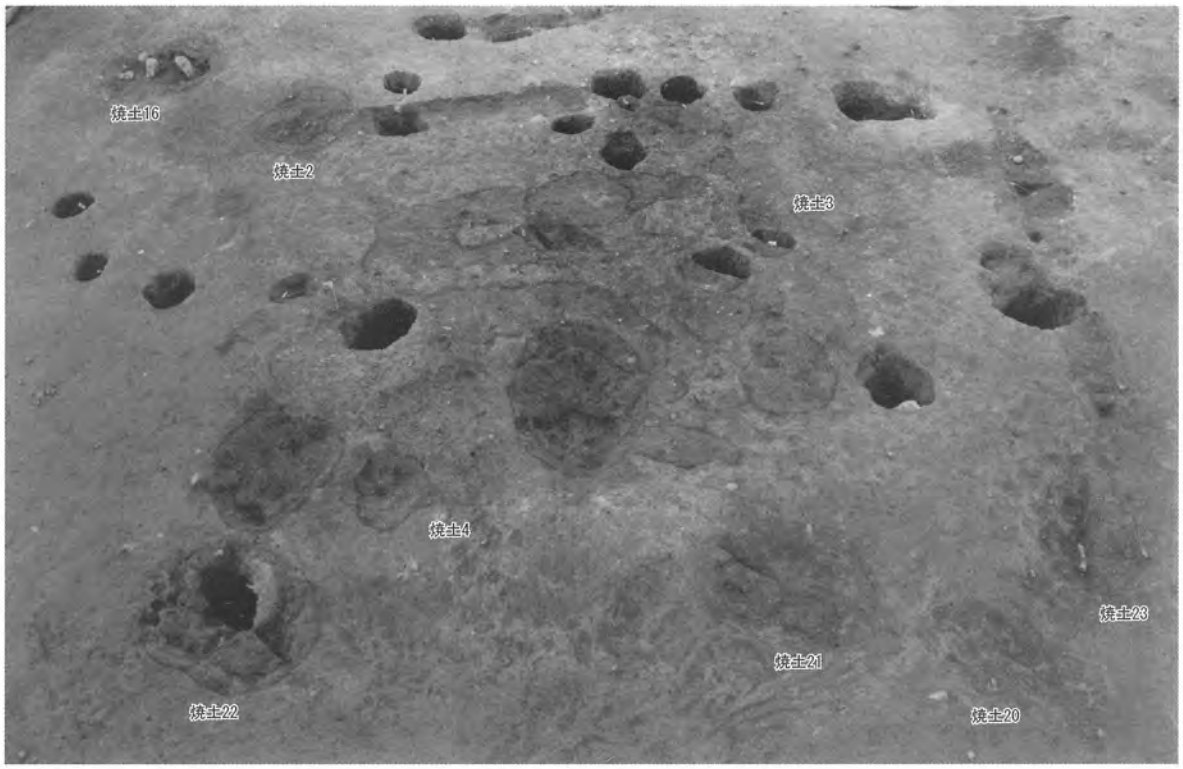
写真図版 4

1号、4号建物跡完掘状況

1号建物跡堆積状況

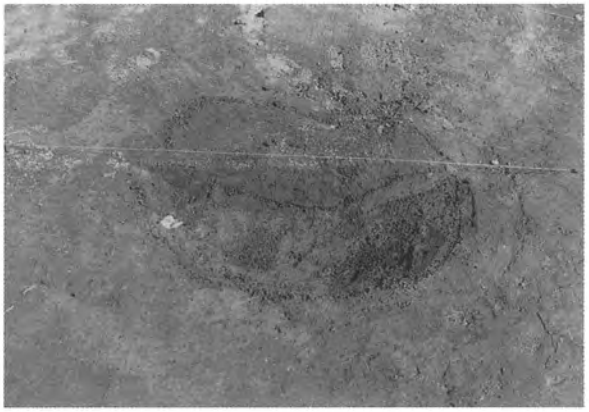
柱穴p57

柱穴p66



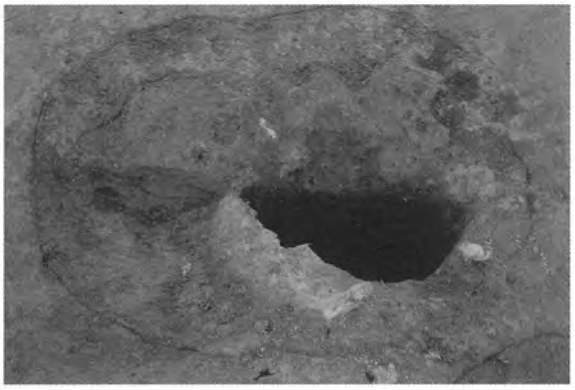
焼土検出状況（1号付近）

焼土11号、12号



焼土24号

焼土16号



焼土22号と柱穴p300

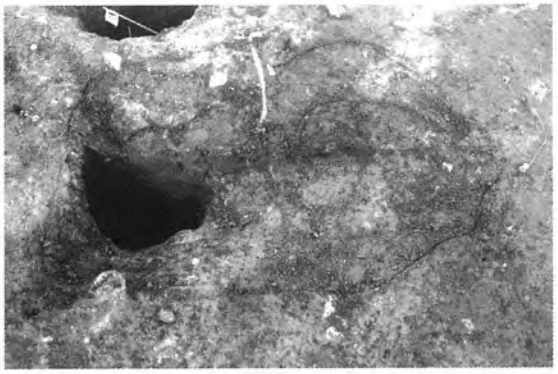
写真図版 6

4号a建物跡、焼土遺構

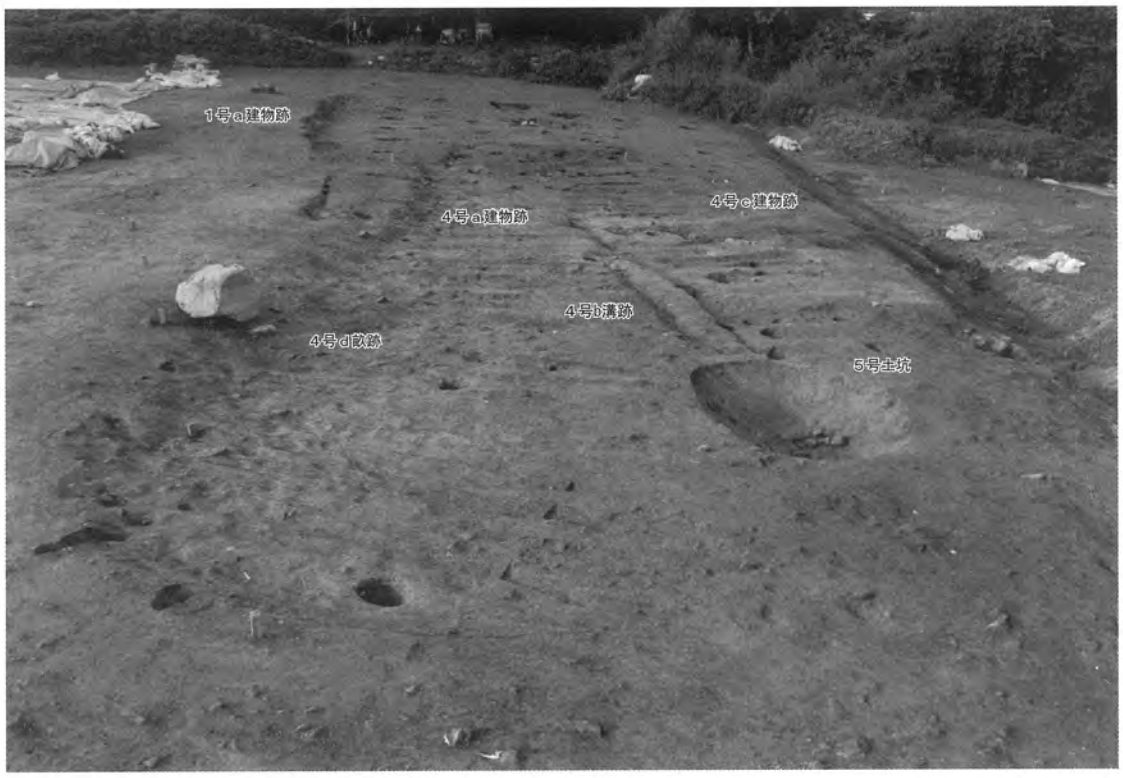
焼土4号検出状況

柱穴p68

4号 a 炉跡断面

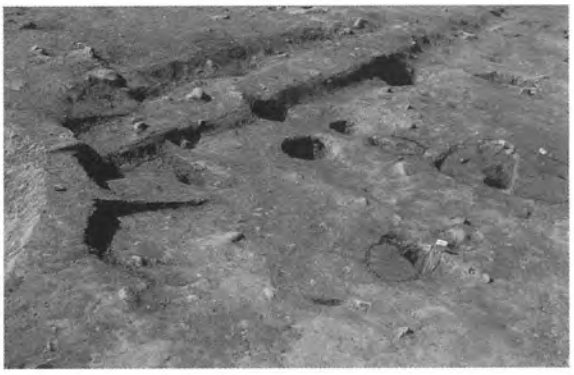


焼土25号断面



4号a、c建物跡、4号d畝跡、5号土杭跡

4号d畝跡



4号c建物跡

5号土杭跡堆積状況

柱穴p71

写真図版８

25号建物跡（北から）

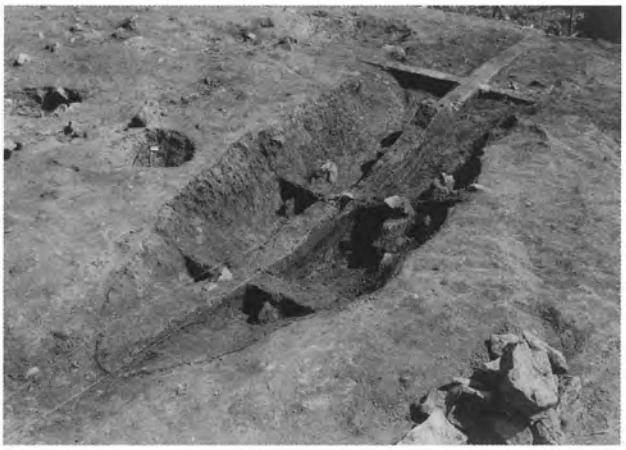
25号建物跡（東から）

柱穴p162

柱穴p167、p187

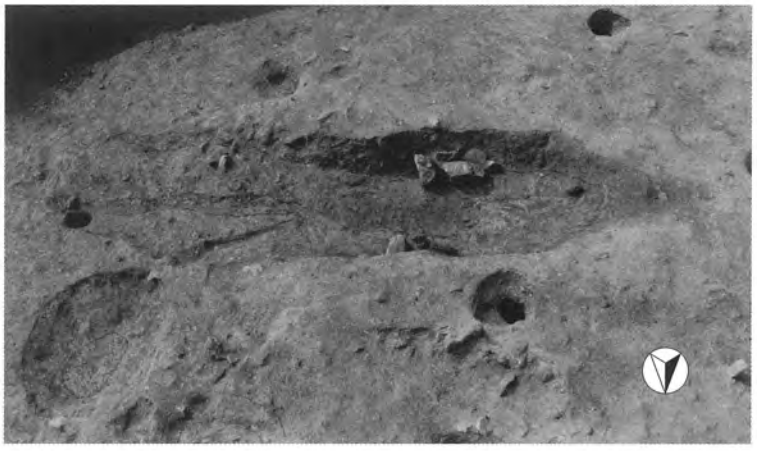
土杭p179

28号炉跡1期（西から）



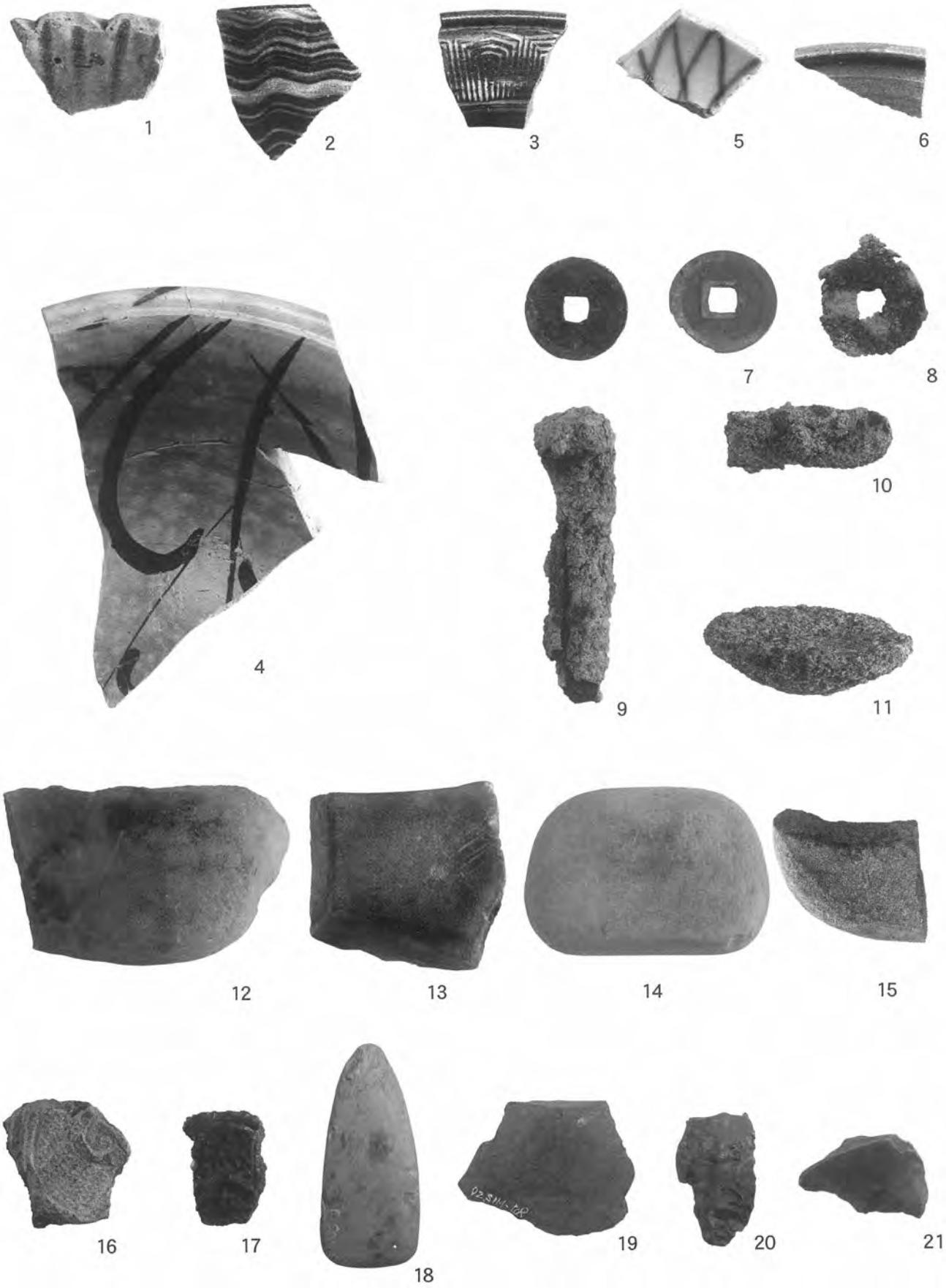
28号炉跡土層断面

28号炉跡2期、3期



28号炉跡４期最終面

28号炉跡４期最終面



出土遺物 (1)

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

37

38

39

40

41

42

43

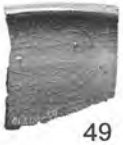
44

45

46

47

48


49

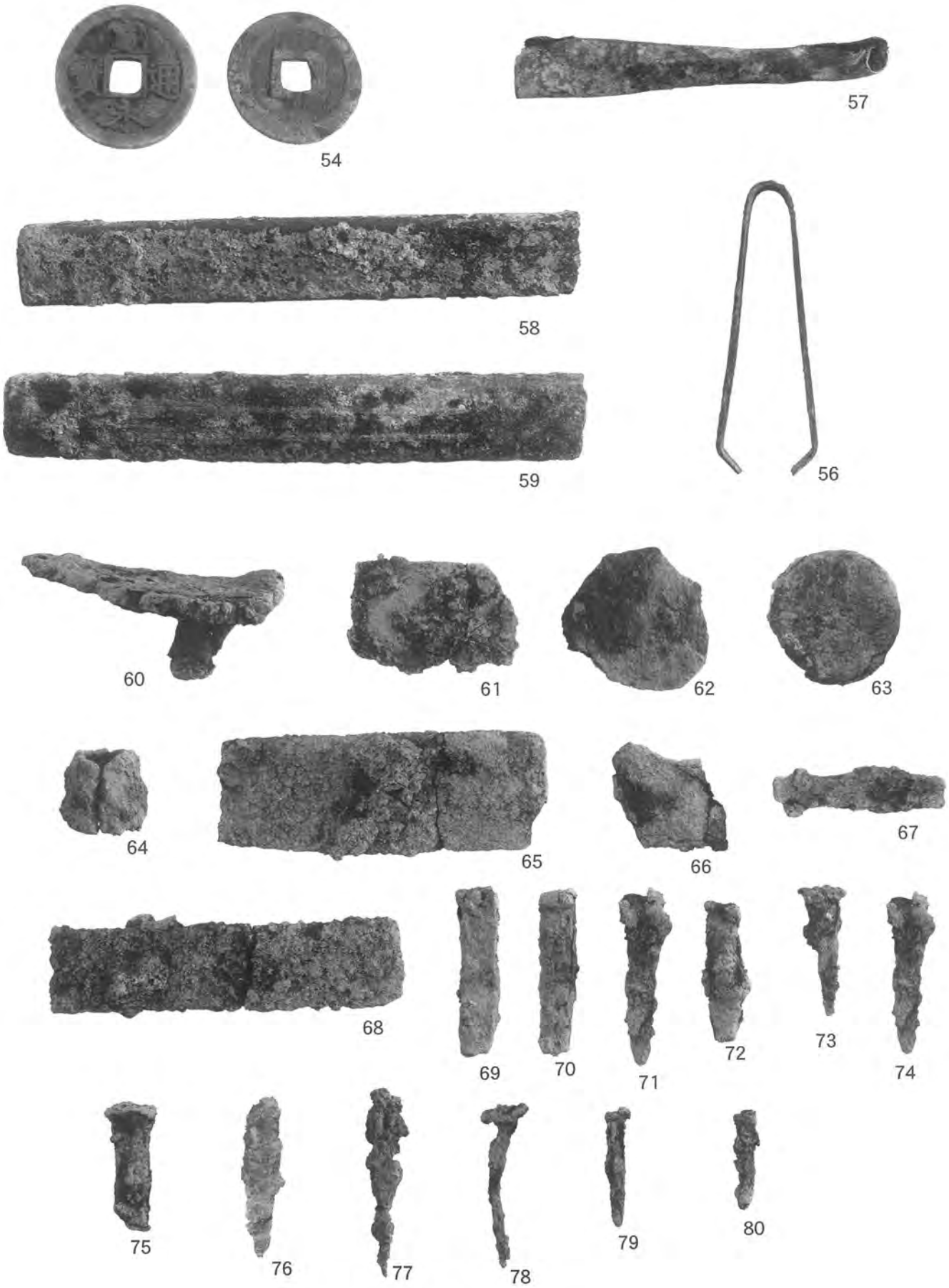
50

51

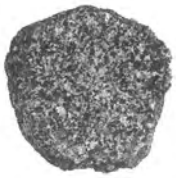
52

53

出土遺物 (2)

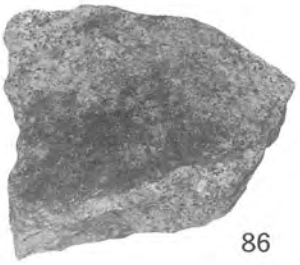

54
57
58
56
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80

出土遺物 (3)


83

84

85


86

87

88

89

92

93

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

出土遺物 (4)

116

117

118

119

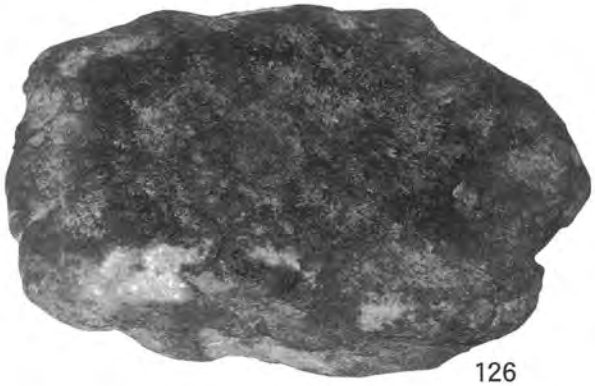
121

122

123

124

125


126

127

128

129

130

131

132

134

135

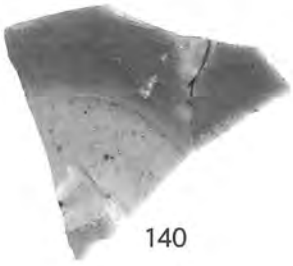
出土遺物 (5)

136

137

138

139


140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

151

150

出土遺物 (6)

報告書抄書

書名	下在家Ⅰ遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	62
編著者名	阿部　豊
編集機関	宮古市教育委員会
所在地	〒027-8501　岩手県宮古市新川町2番1号
発行年月日	平成15年3月31日（2003.3.31）

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
下在家Ⅰ	岩手県 宮古市 大字 崎鍬ヶ崎 第11 地割字 下在家 35番2、 35番6、 35番7	03202	LG24-0018	39°40′8″	141°57′52″	試掘調査 20010918～ 20010012 本調査 20020502～ 20021128	3.072㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下在家Ⅰ	集落	近世	掘立柱建物跡、土杭	陶磁器、鉄製品	

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1 1979「宮古市大付遺跡発掘調査報告書」
2 1980「宮古市千徳遺跡発掘調査概報」
3 1983「宮古市遺跡分布調査報告書１」
4 1984「宮古市遺跡分布調査報告書２」
5 1984「赤前遺跡群第１次・第２次発掘調査報告書」
6 1985「宮古市遺跡分布調査報告書３」
7 1985「金浜館跡発掘調査報告書」
8 1986「宮古市遺跡分布調査報告書４」
9 1986「宮古市遺跡分布図－昭和60年度版」
10 1986「中谷地・島田遺跡調査報告書」
11 1987「崎山貝塚・トロノ木、遺跡調査報告書」
12 1987「寒風・早稲栃、遺跡調査報告書」
13 1987「崎山遺跡群Ⅰ－昭和61年度発掘調査概報」
14 1988「青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)－昭和62年度発掘調査報告書」
15 1988「崎山遺跡群Ⅱ－昭和62年度発掘調査概報」
16 1989「千鶏遺跡－昭和62年度発掘調査報告書」
17 1989「トロノ木Ⅰ遺跡－第１～７次発掘調査報告書」
18 1989「崎山遺跡群Ⅱ－昭和63年度発掘調査概報」
19 1989「高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書」
20 1989「狐崎Ⅱ遺跡－昭和63年度発掘調査報告書」
21 1989「崎山トロノ木、遺跡－昭和63年度調査報告書」
22 1990「狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書」
23 1990「崎山遺跡群、－平成元年度発掘調査概報」
24 1990「磯鶏館山遺跡－昭和63年度発掘調査報告書」
25 1990「鍬ヶ崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書」
26 1991「崎山遺跡群・－平成２年度発掘調査概報」
27 1991「青猿Ⅰ・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書」
28 1990「熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書」
29 1991「払川Ⅰ遺跡－平成２年度発掘調査報告書」
30 1992「金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成２年度)
31 1992「重茂館遺跡群－第１次調査報告書」
32 1992「黒森町Ⅰ遺跡－平成２年度発掘調査報告書」
33 1992「高根遺跡－平成３年度発掘調査報告書」
34 1992「鰹沢遺跡群－平成２年度発掘調査報告書」
35 1992「大付遺跡－平成３年度発掘調査報告書」
36 1992「細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書」
37 1992「崎山遺跡群Ⅵ－平成３年度発掘調査概報」
38 1993「萩沢Ⅱ遺跡－平成４年度発掘調査報告書」
39 1993「早稲栃Ⅱ遺跡－第１次・第２次発掘調査報告書」
40 1993「崎山遺跡群Ⅶ－平成４年度発掘調査概報」
41 1994「崎山遺跡群Ⅷ－平成５年度発掘調査概報」
42 1995「赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成４年度発掘調査報告書」
43 1995「磯鶏館山遺跡発掘調査報告書」
44 1995「崎山貝塚－範囲確認調査報告書」
45 1995「笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書」
46 1995「花原市遺跡－平成４年度発掘調査報告書」
47 1995「宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ　早稲栃Ⅱ遺跡・崎山貝塚」
48 1996「大付遺跡－平成５年・６年度発掘調査報告書」
49 1997「花原市遺跡－平成８年度発掘調査報告書」
50 1997「白石遺跡－第６次発掘調査報告書」
51 1998「赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-」
52 1998「藤畑遺跡－平成９年度発掘調査報告書」
53 1999「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ケ沢・小堀内Ⅲ遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
54 1999「千鶏Ⅳ遺跡-水産課千鶏地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-」
55 1999「崎山貝塚－第12次・13次内容確認調査概報」
56 2000「木戸井内Ⅱ・木戸井内」・上村」遺跡-特別高圧送電線ｳｻ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書-」
57 2002「山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-」
58 2002「小沢Ⅱ大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2-」
59 2003『大又沢Ⅱ遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書』
60 2003『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書３-』
61 2003『早稲栃Ⅱ遺跡第６次調査-市内遺跡発掘調査報告書3-』

宮古市埋蔵文化財報告書 62

しもざい　け　いち
下在家Ⅰ遺跡

—平成14年度発掘調査報告書—

2003.3

発　行　岩手県宮古市教育委員会
〒027-0081 岩手県宮古市新川町2番1号
TEL 0193－62－2111

印　刷　花坂印刷工業株式会社
〒027-0081 岩手県宮古市新川町1番2号
TEL 0193－62－3125